

貫ノ木遺跡・日向林B遺跡

(個人住宅地点)

発掘調査報告書

——旧石器時代、縄文時代早期・前期の遺跡——

1995

信濃町教育委員会

貫ノ木遺跡・日向林B遺跡

(個人住宅地点)

発掘調査報告書

—旧石器時代、縄文時代早期・前期の遺跡—

1995

信濃町教育委員会

例言

1. 本書は平成6年度貫ノ木遺跡・日向林B遺跡など信濃町内における遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、国および県から補助金交付を受けた信濃町教育委員会が、平成6年4月25日から平成7年3月20日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月におこなった。
3. 本書は調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。
4. 本書作成に至る分担は、下記のとおりである。
遺物・記録の整理 高橋哲、万場弘美、井沢キヨエ、佐藤ユミ子
土器拓本実測 中村敦子、佐藤ユミ子
石器実測 中村由克、川端結花、渡辺哲也
協力者 加藤学、鈴木正和、江口志麻、立木宏明
執筆 II 5-1) 渡辺哲也
II 7・III 4 中村由克、中村敦子
III 8 春日和彦
上記以外および編集 中村由克

5. 調査によって得られた諸資料は、信濃町立野尻湖博物館で保管している。出土資料の注記番号は、貫ノ木遺跡 [94KN]、日向林B遺跡 [94HB] と表記してある。

目次	3. 遺物の出土状況	23
例言	4. 縄文時代の土器	23
I 調査の経過	1) 縄文時代早期	23
1. 6年度信濃町発掘調査の概要	2) 縄文時代前期前半 (関山式併行)	23
2. 調査体制	3) 縄文時代前期前半 (黒浜式併行)	23
3. 調査経過	4) 縄文時代前期後半 (諸磯a式併行)	24
II 貫ノ木遺跡	5) 縄文時代前期後半 (諸磯c式併行)	24
1. 発掘の概要	6) 縄文時代後期	24
2. 発掘地の地形と地質	5. 縄文時代の石器	24
3. 遺物の出土状況	6. 中世の遺構	43
4. 旧石器時代の遺構	7. 中世の遺物	61
5. 旧石器時代の石器	8. 日向林B遺跡出土の人骨	61
1) 上II上部文化層	1) 遺構出土の人骨の記載	61
2) 上II最下部文化層	2) 全体的な特徴	62
3) 黒色帶文化層	IVまとめ	63
4) 上II上部～黒色帶文化層	1. 旧石器時代の成果 (貫ノ木遺跡)	63
6. 縄文時代の石器	2. 縄文時代早期の成果 (日向林B遺跡・貫ノ木遺跡)	64
1) 縄文時代草創期	3. 縄文時代前期の成果 (日向林B遺跡)	64
2) 縄文時代早期以降	4. 中世墓地の調査 (日向林B遺跡)	65
7. 縄文時代の土器	5. 貫ノ木遺跡・日向林B遺跡の年代	65
1) 縄文時代早期	文献	65
2) 縄文時代前期	図版	67
III 日向林B遺跡	報告書抄録	79
1. 発掘の概要		
2. 発掘地の地形と地質		

I 調査の経過

1. 6年度信濃町発掘調査の概要

平成6年度、信濃町教育委員会では、高速道路開通の公共事業や民間事業が相次いだため、埋蔵文化財の発掘調査が多く実施された。本年度は、4月当初より2班体制で、4月から12月まで現場調査が実施され、引き続い3月まで整理作業をおこなった。今年度行った主な発掘調査は、表1のとおりである。

この内、日向林B遺跡と貫ノ木遺跡は、個人住宅建設に伴う発掘調査であり、国および県から補助金交付をうけたものである。

2. 調査体制

日向林B遺跡と貫ノ木遺跡の発掘調査は信濃町教育委員会の直営事業として実施し、組織は以下のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会 教育長 片山幹威
事務局 総務教育課 課長 水井久
係長 松木武夫 担当 高橋哲

調査担当者 中村由克

調査員 塚辺哲也・高橋哲

調査整理参加者

中村敦子（一茶郷土民俗資料館）、外山正和（新潟大学学生）、加藤學（東海大学学生）、川端結花（千

葉県酒々井町）、春日和彦（東部高校教諭）、江口志麻（新潟大学学生）

佐藤ユミ子、万場弘美、井沢キヨエ、今井美枝子、小日向キヨ子、池田せい子、池田か己子、佐藤エキ子、永原シズエ、片山トヨ、福沢キサエ、木村キミ子、竹内ゆき子、竹内晴江、東賀、関根恒、丸山和子、藤本秀子、棚橋千代子、竹内モト、竹内ハタ古地磁気調査 近藤洋一（野尻湖博物館）

なお、調査期間中および報告書作成にあたって、次の各事項について、以下の方々にご指導・ご援助いただいた。ここにご芳名を記し、感謝の意を表する次第である（敬称略）。

調査：長野県埋蔵文化財センター中野調査事務所、大竹憲昭（長野県埋文七）、吉川普夫（源訪ノ原）、黒田哲郎（源訪ノ原）

縄文土器：小笠原永隆（千葉県文化財七）
緒田弘実（長野県埋文七）
中世遺物：市川隆之（長野県埋文七）
藤沢高広（写真測図研究所）

3. 調査経過

日向林B遺跡は、信濃町大字富貴字日向林を中心に一部字源訪ノ原まで、野尻湖の南側にひろがる丘陵の南側裾部の緩斜面に位置する。遺跡の中心と思われる

表1 平成6年度における信濃町教育委員会の発掘調査一覧

遺跡名	地区	期間	面積	発掘原因	出土点数	時代	特記事項
仲町遺跡	大字野尻 一絆清水	4/4～ 4/23	90m ²	下水道工事	約1,000点	旧石器時代の尖頭器、縄文早期の茎尖頭器、茎生、中世、近世	
日向林B遺跡	大字富貴 源訪ノ原	4/25～ 7/21	2,200m ²	個人住宅建設 (滋賀県営事業)	4,465点	縄文(早・中期)、 中世(室町)	縄文時代早期の尖頭器、茎尖頭器、茎生土器、平安時代の土師器、中世の欧洲鏡が出土した。
七ツ葉遺跡	大字富貴 字七ツ葉	5/2～ 7/25	390m ²	駄追抗幅事業	約370点	旧石器、縄文、 平安	縄文時代早期の尖頭器(約7,000年前)や、茎器、縄文時代前期の羽状縄文土器や、石器、磨製石斧などが出土(約5,500年前)。室町時代の五輪塔や生糞戸跡調査が出土。また、その時代の墓地が検出された。
東裏遺跡	大字柏原 字東裏	7/2～ 10/4	700m ²	町道延長大久 保線建設	約800点	旧石器、縄文、 平安	旧石器時代の尖頭器、スクレイバー等(約15,000年前)や、磨石刃(約14,000年前)、縄文早期(約12,000年前)の磨製土器や平安時代の土師器のほか出土した。
貫ノ木遺跡	大字野尻 字貫ノ木	8/17～ 10/4	300m ²	個人住宅建設 (滋賀県営事業)	1,041点	旧石器、 縄文	旧石器時代の局部磨製石斧(約25,000年前)やナイフ形石器(約17,000年前)、形器、石刀、穂部、そして縄文早期の押型土器などが出土した。
北ノ原B遺跡	大字平岡 字落合	9/2～ 9/19	100m ²	町道斜面落合 維持改良工事	約15点	縄文早期、平 安	縄文早期(約7,000年前)の土器や石器、平安時代の土器が出土した。
山根遺跡	大字古間 字山根	10/5～ 12/8	1,100m ²	広域農道建設 工事	約4,200点	弥生	弥生中期(約2,000年前)の茎葉式土器が多数出土した。
高山遺跡	大字大井 字爲山	10/6～ 10/19	350m ²	ゴルフ場建設	8点	縄文(早期)、 近世	縄文早期の土器が出土。また縄文時代の落とし穴が2基検出された。
市道遺跡	大字大井 字市道	10/19～ 12/14	2,500m ²	ゴルフ場建設	約6,500点	縄文(平素、前 期)	縄文早期の押型土器、表裏縄文土器(約8,000年前)、前期の羽状縄文土器、竹管土器、有孔鍛錬(約5,500年前)が出土。

試掘調査等：上ノ原遺跡(民間事業) 5日、役場敷地跡(急傾斜対策事業) 1.5日、上ノ原遺跡(消防分署) 1日

地点は、高速道用地内にあたり、平成5年度より長野県埋蔵文化財センターにより発掘調査がおこなわれている。

平成6年3月、遺跡のなかでは南の端にあたる諏訪ノ原2045番地1の山林において、棚橋和則氏の住宅建設のため土取りが計画されていることを知り、急遽、町教育委員会と地権者とで協議し、建設事業にさきだって発掘調査をおこなうことを決定した。

発掘調査は、平成6年4月25日に着手し、7月21日に現場作業を終了した。この後、整理作業をおこなった。

貫ノ木遺跡は、信濃町大字野尻字貫ノ木を中心に、大字柏原字岡実・西岡にかけての丘陵にひろがる。遺跡を横断する形で高速道用地となっており、平成5年度から長野県埋蔵文化財センターにより発掘調査がおこなわれている。

平成6年7月、高速道用地に隣接する貫ノ木1466番地11において金信雄氏の住宅建設が予定されているとの連絡をうけ、急遽、県教育委員会、町教育委員会、地権者とで協議し、建設事業にさきだって発掘調査をおこなうことを決定した。

発掘調査は、平成6年8月17日に着手し、10月4日に現場作業を終了した。この後、整理作業をおこなった。

それぞれの遺跡調査の主な日程は、以下のとおりである。

日向林B遺跡

4月25日	表土剥ぎ
4月26日	発掘作業開始
5月10日	グリッド設定、記録開始
6月20日	中世墓地の遺構の調査開始
6月25日	遺跡現地説明会
7月19日	発掘作業終了
7月21日	記録完了、現場撤収

貫ノ木遺跡

8月19日	表土剥ぎ
8月22日	発掘作業開始
9月1日	グリッド設定、記録開始
9月29日	旧石器時代櫛群の古地磁気試料採取 出土状況レプリカ凹型の作製
10月1日	発掘作業終了
10月4日	記録、埋め戻し完了、現場撤収

II 貫ノ木遺跡（金氏住宅地点）

1. 発掘の概要

貫ノ木遺跡は信濃町の野尻と柏原の境界付近にひろがり、国道18号線にそった丘陵部に位置する。金氏住宅地点は、1985年（昭和60）と1988年（昭和63）に野尻湖発掘調査団で調査したB地点のすぐ南側にあたる。さらに隣接する南西側は、高速道用地で1993年（平成5）より長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査がおこなわれている。

発掘は、表土と柏原黒色火山灰層の上半部を重機により掘削した後、人力により生活面の発掘をおこなった。

グリッドは、県埋蔵文化財センターの貫ノ木遺跡の座標系・区分にしたがった。40m単位のVIB・VIGグリッドに相当し、8m単位の小区分ではB22~25・G02~05・08・09区にまたがっている。遺物の位置の記録には、トータルステーションを使用した。

2. 発掘地の地形と地質

金氏住宅地点は、国道18号線と町道黒姫高原・六月線にはさまれた標高704.4mの丘陵頂部付近の平坦地に位置し、別荘地のなかの雑木林となっていた場所である。丘陵は国道にそって南北方向にのび、南へ行くほど高度を増している。西側はJR信越線付近の赤汲川まで約50mの落差をもつ急傾斜地となっている。

この付近は、野尻湖周辺に広く分布する野尻ローム層の模式地となっているところである。発掘地付近では、後期更新世の池尻川泥流堆積物が厚くたまつおり、その上を約1.5mの神山ローム層（一部水成の貫ノ木層）、約6mの野尻ローム層、さらに表層を約50~80cmの柏原黒色火山灰層がおおっている。

発掘地では、地表面は平坦であったが、上部野尻ローム層をはぐと、かたく固結した中部野尻ローム層がB24からG03にかけて北東~南西方向に馬の背状の高まりをついている。遺物包含層となっている上部野尻ローム層と柏原黒色火山灰層は、高まりより南東側に厚く堆積している。北西側は地形が下がっているので、上位の地層はそれほど厚くなっていない。発掘地の南東の端は、地層が最も厚くなってしまっており、黒色帶の下面まで約2mに達している。

南東側と南西側の壁面は地質断面の実測をおこなった。南東側壁面は、厚い層厚で、あまり変化は少ない。最も層厚のあるG09付近では、下位より野尻ロー-

ム層の上部Ⅰの褐色風化火山灰層10cm+、黒色帯22cm、上部Ⅱ最下部22cm、同下部20cm、同上部28cm、モヤ下部8cm、モヤ上部10cm、モヤ最上部4cm、そして柏原黒色火山灰層80cmという層位である。

南西壁面では、北西へいくほど層厚を減じて、G02付近では上部Ⅰまでのすべてわずか32cmほどになっている。発掘地内では顯著でないが、西方の高速道

用地内では上部野尻ローム層Ⅱ最下部の中に、ヌカⅠ火山灰（A-Tn火山灰）がレンズ状に挟まれるのが確認されている。なお、長野県埋蔵文化財センターの発掘現場での層位名との対照は、図3に示すとおりである。

3. 遺物の出土状況

金氏住宅地点の発掘では、約300m²から総計1041点



旧石器時代 1 立が泉、2 毛穂島、3 棚ヶ崎、4 杉久保、5 川久保、6 小丸山、7 向新田、8 清明台、9 仲町の遺跡：10 神山北、11 滝端、12 秋久保、13 沙間、14 神山A、15 神山C、16 無月台、17 貴ノ木、18 西岡A、19 西岡B、20 瑞應A、21 大久保塚、22 上ノ原、23 緑ヶ丘、24 小丸山公園、25 東裏、26 伊勢見山、27 萩の山、28 大平B、29 大平A、30 日向林B、31 七ツ原、32 御原、33 陣場、34 倍水東、35 吹野原A、36 吹野原B、37 九谷谷、38 大道下

1994年の発掘：A 仲町(町)、B 仲町(調査団)、C 西岡(郷)、D 貴ノ木(郷)、E 貴ノ木(郷)、F 上ノ原(郷)、G 上ノ原(町)、H 東裏(郷)、I 東裏(町)、J 萩の山(郷)、K 鈴ノ木(郷)、L 大平(郷)、M 日向林B(郷)、N 日向林B(町)、O 七ツ原(郷)、P 七ツ原(郷)、Q 山根(郷)、R 北ノ原B(郷)、範囲外…市道・高山(郷)

図1 野尻湖周辺における平成6年度（1994）発掘の遺跡

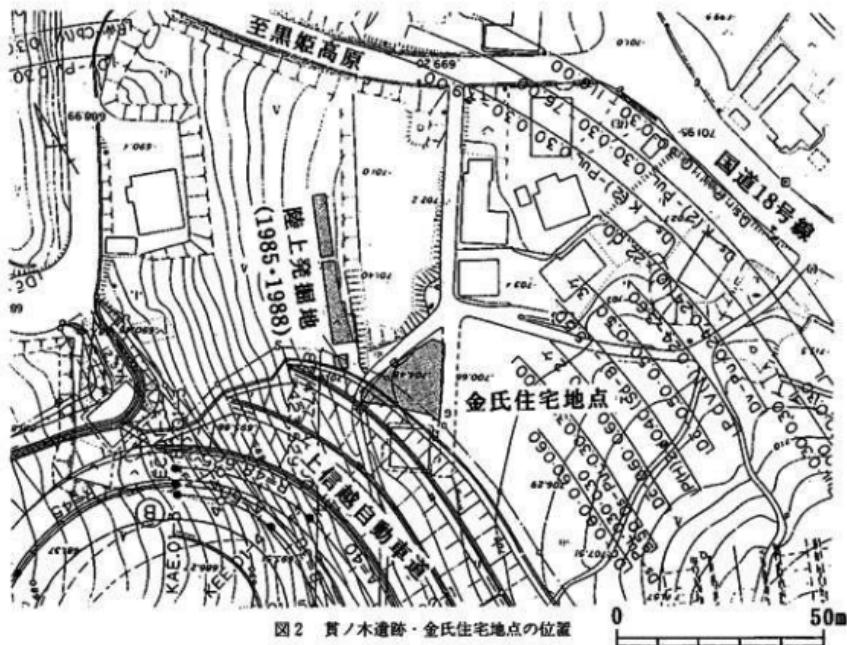


図2 貫ノ木遺跡・金氏住宅地点の位置

地質序	岩種文化	岡町		町		県		町		県		町			
		年代	大字	仲町	仲町	貫ノ木	貫ノ木	西岡A	東	雲	山	大	平日向林B	七ツ原	七ツ原
褐色砂岩	E14	1.0													
セラミル	E15	1.3													
セラミル下	E16	1.4													
上2段	ナ	1.5													
上2上部	イ	1.6													
上2下部	フ	1.7													
上3段下部	ホ	2.1													
上3段下部	文	2.2													
褐色砂上部	ヒ	2.5													
褐色砂下部		2.9													
上部1	野	3.0													
中部1～2	灰	3.1													
下部2段	火	4.1													
下部3段	火	4.3													
下部4段	火	4.5													
		4.6													

図3 野尻湖遺跡群における1994年に調査された遺跡の層位対比

の遺物が出土した。これらは旧石器時代から縄文時代にかけてのものである。

柏原黒色火山灰層中の縄文土器は、発掘地北東端のB25区を中心に出土しているが、点数はそれほど多くない。

上部野尻ローム層の中で遺物が多く出土した層位は、上II上部、上II最下部、黒色帯の3層準である。

上II上部文化層では、B23~24、G02~B22、G04~05、G09の4ヶ所の礫群を中心に石器などの遺物の集中がみられた。この内、後の2ブロックでは、通常上II上部文化層が上部野尻ローム層II上部の上半部に位置するのに対して、ここでは上部の下半部まで遺物が包含されており、この点ではほかの遺跡・地点の上II上部文化層より若干、層位が下位のものである可能性も考えられる。

上II最下部は、ヌカI火山灰層(A-Tn火山灰)を

包含する地層で、石器はB25とG05付近にのみ出土した。

黒色帯文化層では、主な遺物は発掘地西端のB22、G02・G03付近を中心に分布するが、東端のG04・G05・G09付近にもブロックがみられる。

4. 旧石器時代の遺構

金氏住宅地点で明確な遺構としては、上II上部文化層中より9基の礫群が確認された。B22・G02区を中心とする1~4号礫群、G09区を中心とする5号礫群、G04区の6~8号礫群、そしてB23・24区の9号礫群である。

1~4号礫群は、拳大の礫7~20個が約4mの範囲に散在するタイプである。1号礫群は直径2~6cmの亜角礫13点が、径80cmの範囲内に集まつたものである。焼けて赤化した小礫が多いことが特徴である。

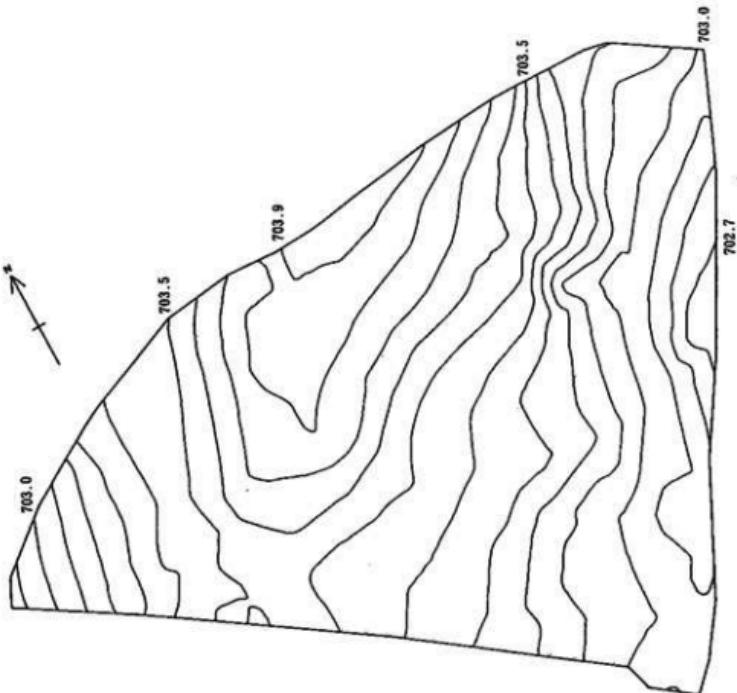


図4 貫ノ木遺跡・金井住宅地点の地形
(発掘終了時の等高線)

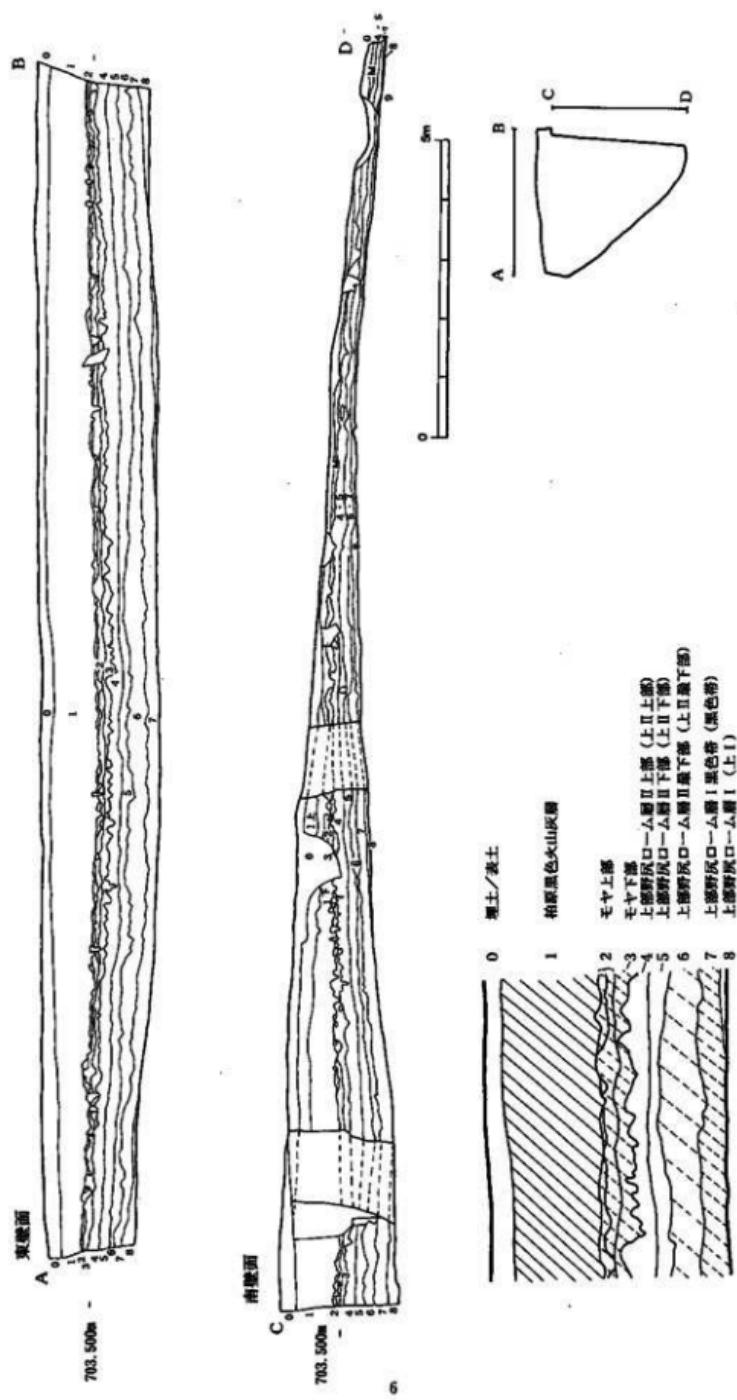


図5 貝ノ木遺跡の地質 (1~8は層位名ではない)

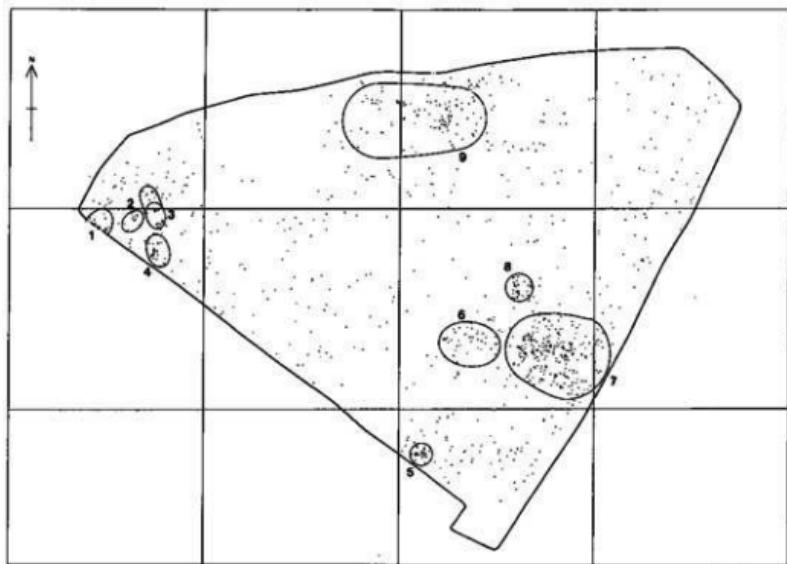


図6 貫ノ木遺跡の石器・櫛の分布（1～9は櫛群）

X = 90968.000

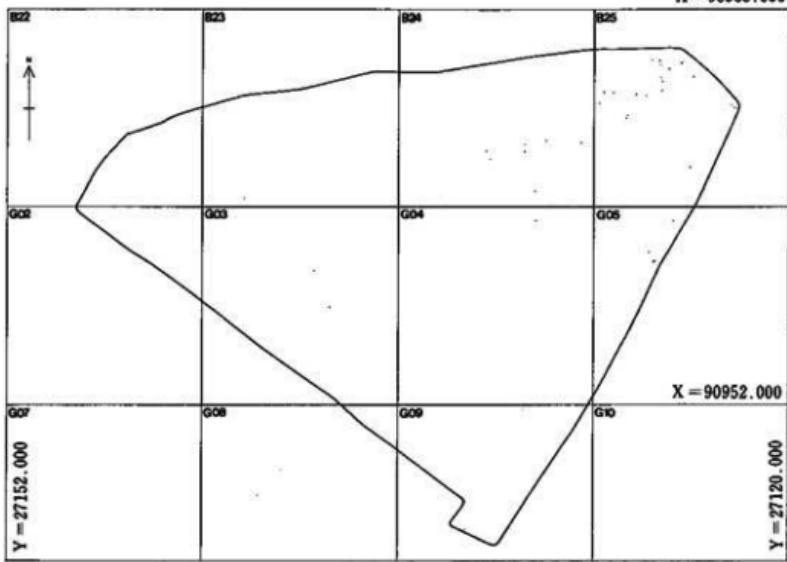
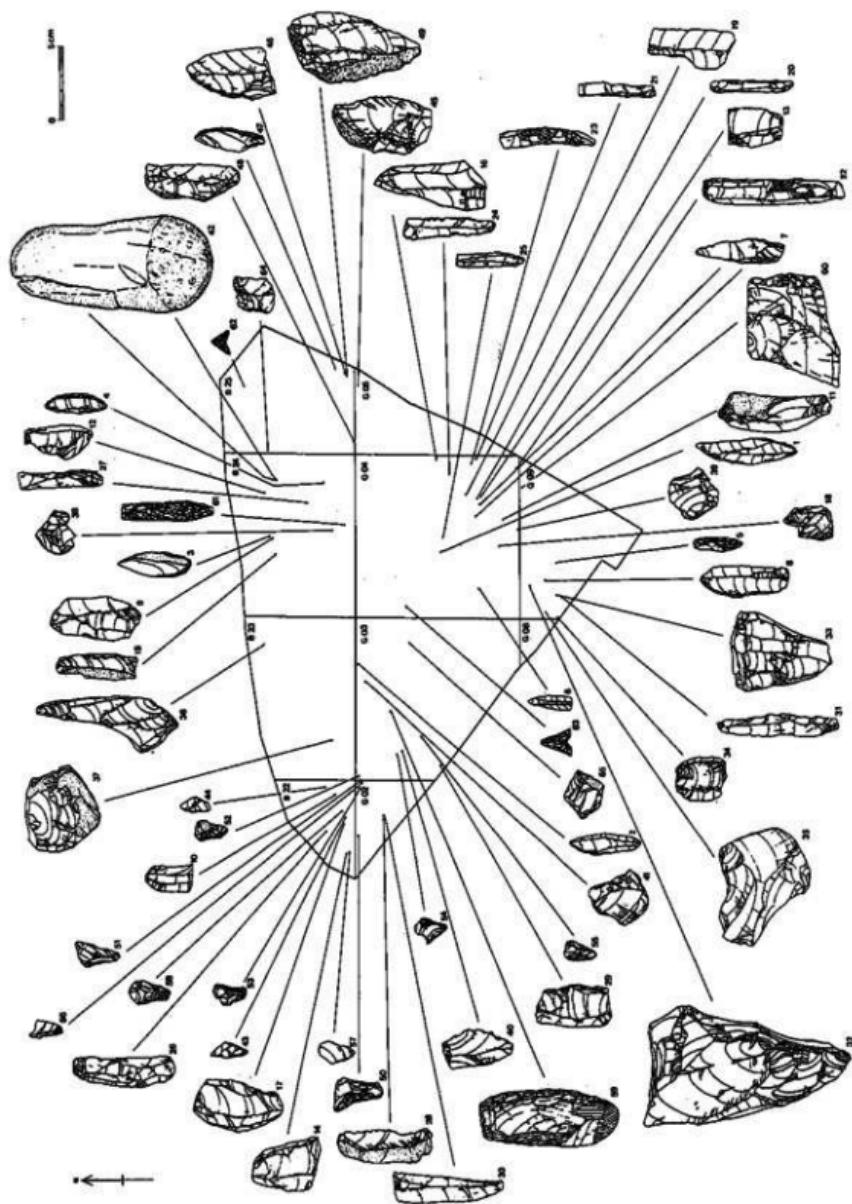


図7 貫ノ木遺跡の縄文土器の分布（1区画は8m）

図 8 貢ノ木遺跡の石器の分布



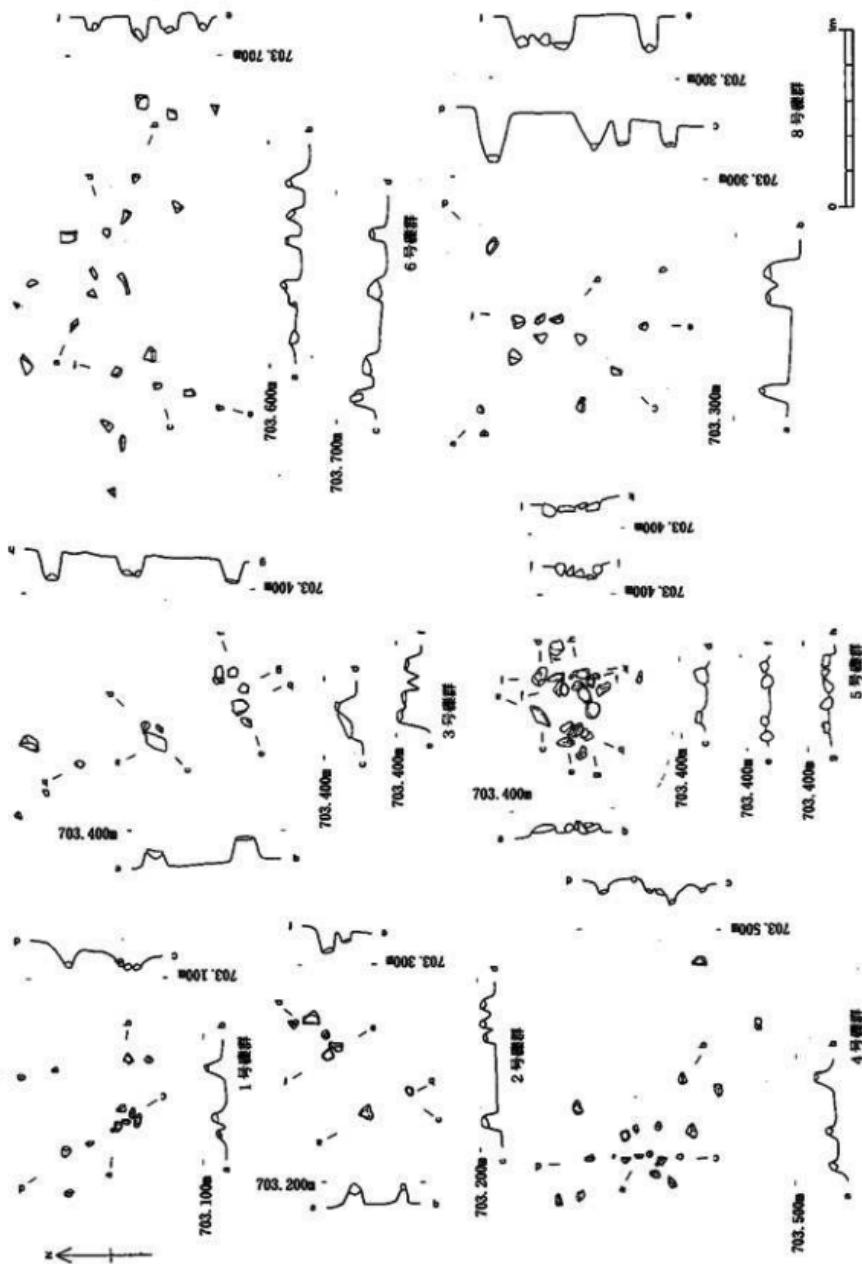


図9 真ノ木邊境の震源(1)

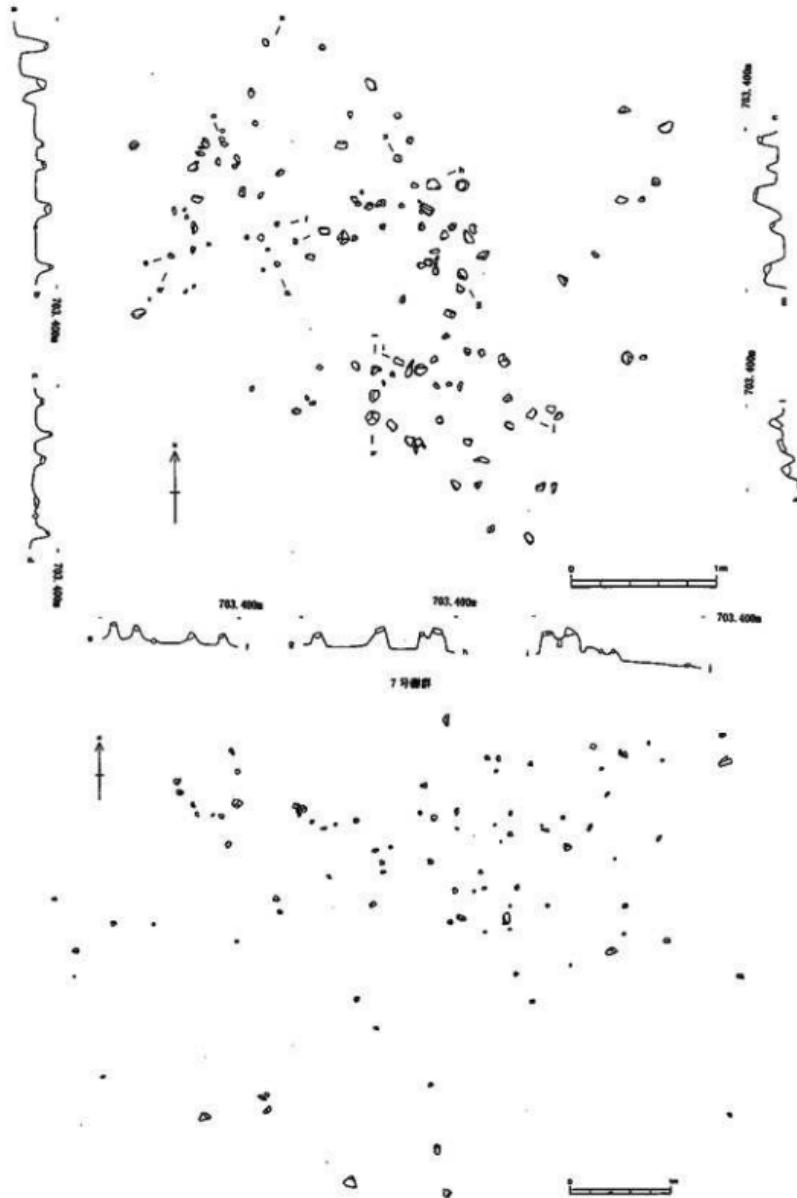


図10 貫ノ木道路の櫛群(2)

焼穢のしめる割合（赤化率）は92%である。

2号穢群は直径3~8cmの亜角穢7点が、80×30cmの範囲内に集まつたものである。焼けて赤化した穢は2点のみで、非赤化穢がほとんどである。焼穢のしめる割合（赤化率）は29%である。

3号穢群は、直径5~18cmの扁平な穢9点が70×40cmの範囲に「こ」の字状に並んだものである。多くの穢が著しい赤化をしており、また黒色付着物のついた穢も2点みられる。焼穢のしめる割合（赤化率）は89%である。さらに北側には4点の非赤化穢が点在する。

4号穢群は、直径3~6cmの亜角穢・亜円穢20点が、160×80cmの範囲内に散在するものである。強く焼けて赤化した小穢が多いことが特徴である。焼穢のしめる割合（赤化率）は80%である。

5号穢群は、直径4~16cmの亜円穢20点が、140×95cmのほぼ円形に集まつたものである。焼けて赤化した穢や黒色付着物がついた穢がほとんどである。焼穢のしめる割合（赤化率）85%、黒色付着物のついだ穢の割合は65%と、非常に高率である。一端が開いた円形ないしU字状の平面形態であり、著しい焼穢が多いことは特筆される。

6号穢群は、直径4~11cmの亜角穢23点が、220×120cmの範囲内に散在するものである。集中度は弱い。穢はすべて焼けて赤化しており、焼穢のしめる割合（赤化率）100%、黒色付着物のついだ穢の割合70%と、非常に高率である。多くが破損穢である。

7号穢群は、直径4~10cmの亜円穢・亜角穢123点が、約3.5mの範囲内に散在するものである。範囲が広く、あるいは細分されるものかもしれない。穢は多く焼けて赤化しており、焼穢のしめる割合（赤化率）89%、黒色付着物のついだ穢の割合59%と、高率である。多くが破損穢である。

8号穢群は、直径5~10cmの亜円穢14点が、110cm四方に集まるものである。焼穢の割合は低く、焼穢のしめる割合（赤化率）36%、黒色付着物のついだ穢の割合14%である。

9号穢群は、直径3~10cmの亜角穢・亜円穢約72点が約6×3mの範囲を中心に散在するものである。焼けて赤化した穢が多く、焼穢のしめる割合（赤化率）81%、黒色付着物のついだ穢の割合51%である。

これらの中では3号穢群と6号穢群は、穢が「こ」の字状ないし一端が開いた円形ないしU字状にならぶ平面形態を示し、どちらも著しい焼穢が多いことなど

は、石器に特有の属性である。しかし、穢の部分的な極度の赤化、燒土・炭化物の存在など、平面形態以外の炉跡の認定条件は確認できなかった。

黒色帶文化層では、G09区から直径24cmと12cmの穢からなる配石と石核2点が出土している。穢は著しく焼けて赤化している。

5. 旧石器時代の石器

1) 上Ⅱ上部文化層

主要な遺物は、ナイフ形石器8点、彫器12点、石刀8点、微細剝離痕のある剝片3点、石核4点などである。

ナイフ形石器：ナイフ形石器は基部に調整が見られるもの（1、2）、一側縁の全部とその反対側縁の基部に調整のあるもの（3、4、5、7）に分けられる。すべて石刀および縦長剝片を素材としており、細身のナイフ形石器に仕上げられている。石材には黒曜石（5、6）、珪質頁岩（1~4）、玉ずい（7）が用いられている。

1は背面に左右の基部と左の先端に刃剥し加工（blunting）が施され、腹面の側縁には平坦な調整が施されている。2は先端の左側縁に刃剥し加工が施され、基部には腹面に平坦な調整が施されている。3~5は右側縁の全部と左側縁の下間に刃剥し加工のあるナイフ形石器である。右側縁の調整は直角に近い急角度のものとなっている。5は腹面の基部にも調整がある。7は左側縁の全部と右側縁下間に腹面側からの刃剥し加工があり、さらに基部の腹面に背面からの調整がみられる。中央やや上で背面方向からの力により2つに折れており、ヒンジフラクチャーでめくれている。6は基部が欠損したもので、右側縁に刃剥し加工が施された先端部である。

彫器：彫器は12点出土した。背面側から腹面側に調整をおこない、その剥離面を打面として彫刻刃面を作り出しているものと、折断面、平坦な節理面を打面として彫刻刃面を作り出しているものとがある。すべて石刀および縦長剝片を素材としている。石材は黒曜石、珪質頁岩、珪質凝灰岩、無斑晶質安山岩である。8は打面を残す石刀の末端に、背面からの調整によって打面をつくりだし、左肩に2条の楕状剥離をおこなっている。9は素材の石刀の上下両端の腹面に調整によって打面をつくりだし、それぞれに彫刻刃面を作り出している。10、14、16は素材の剝片の打面側の裏面に背面側から調整をおこなって打面を作り出し、左肩

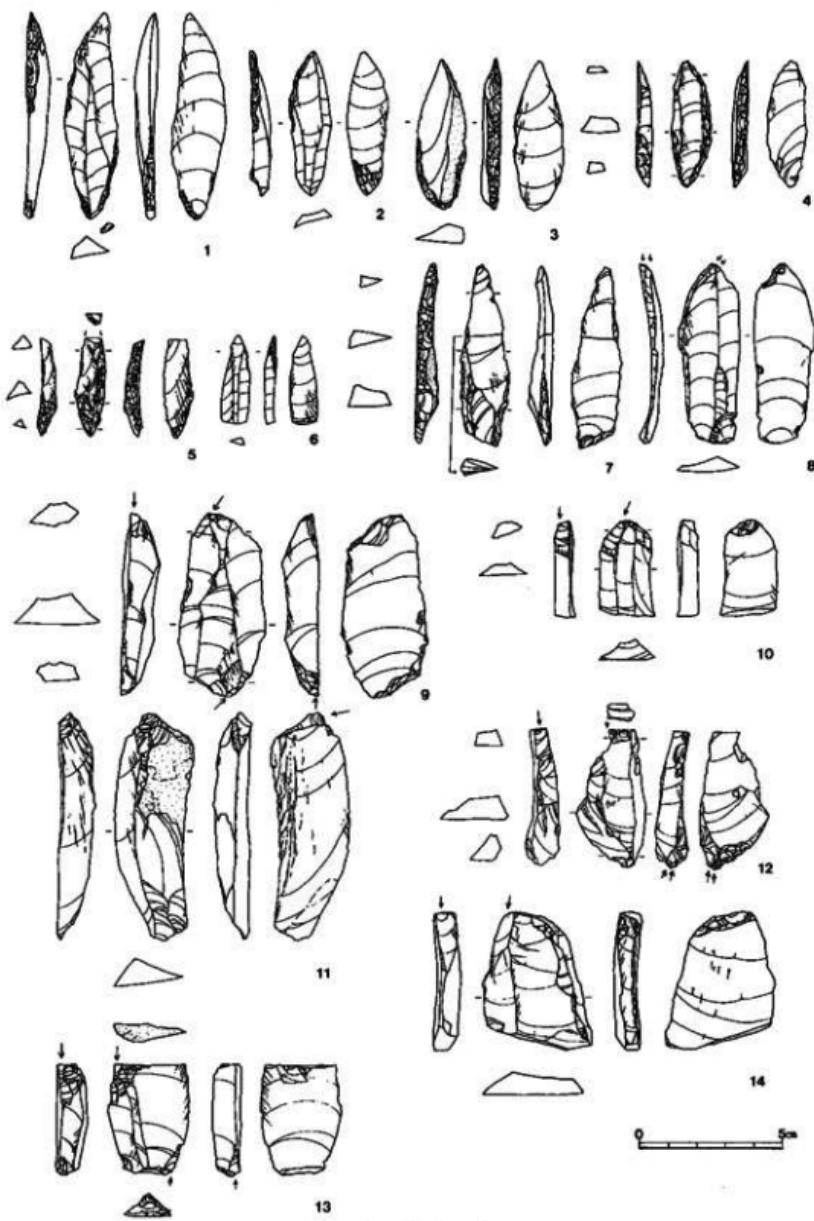


図11 貫ノ木遺跡の石器1

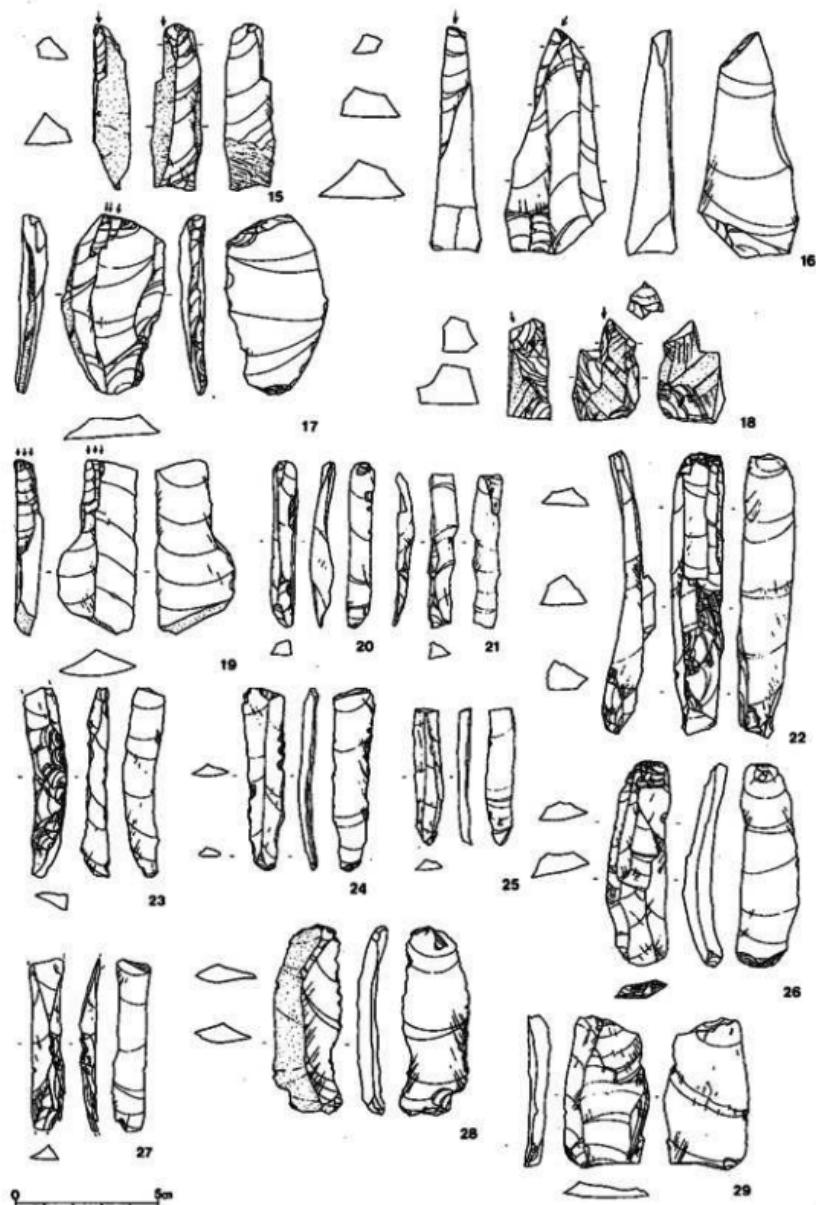


図12 貫ノ木遺跡の石器 2

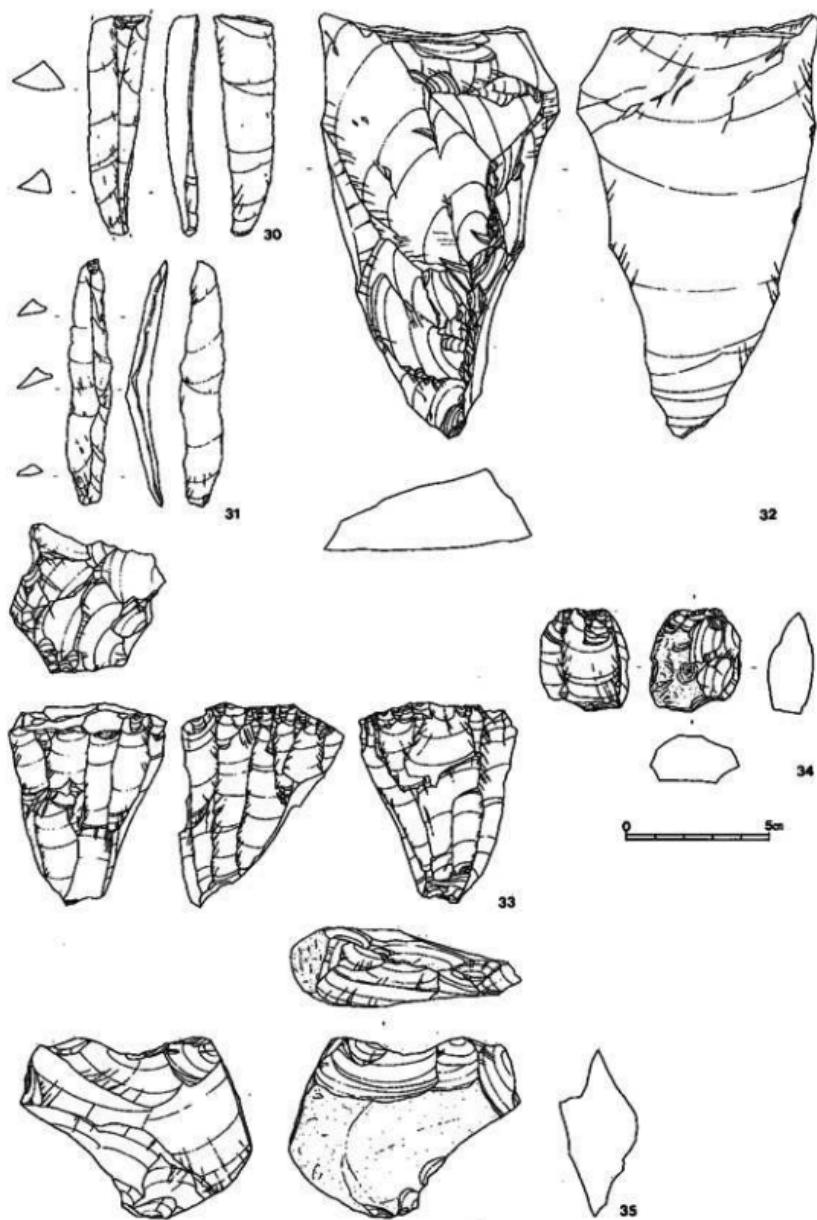


図13 貫ノ木遺跡の石器 3

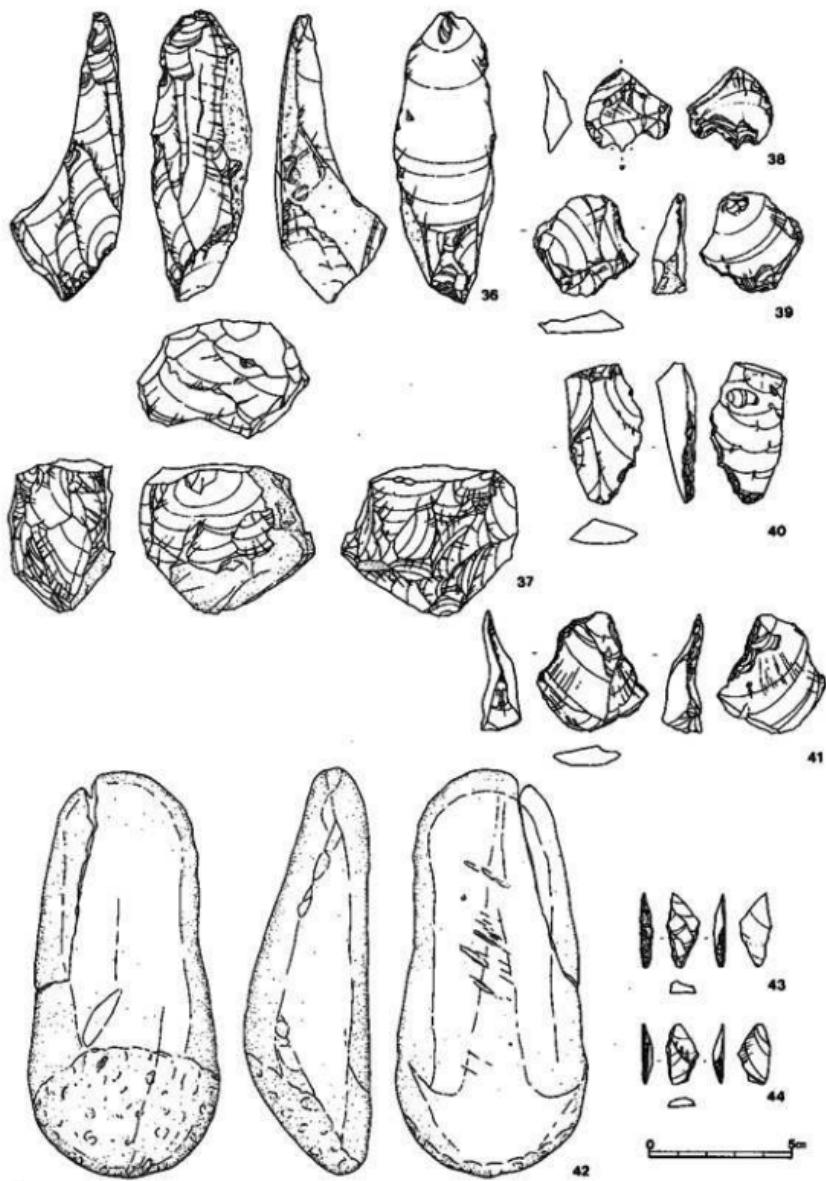


図14 貫ノ木遺跡の石器 4

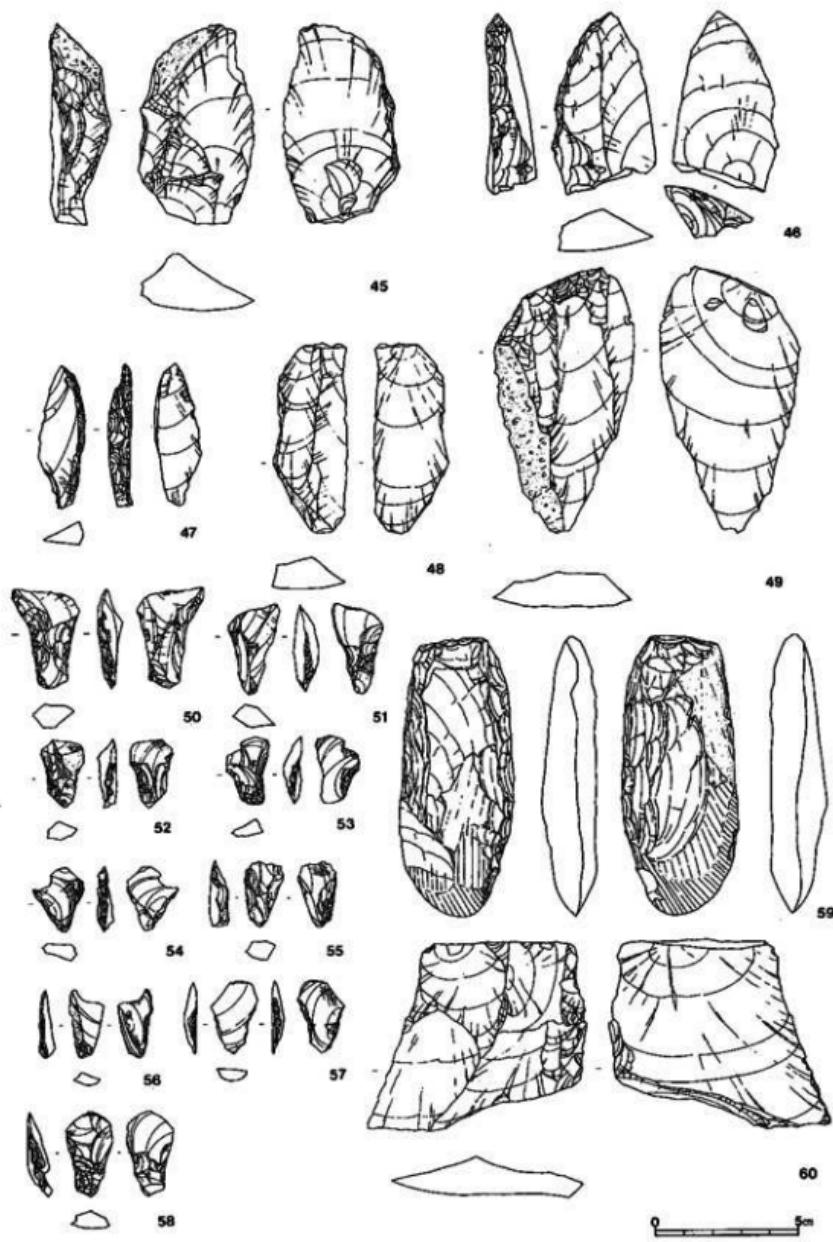


図15 貫ノ木遺跡の石器 5

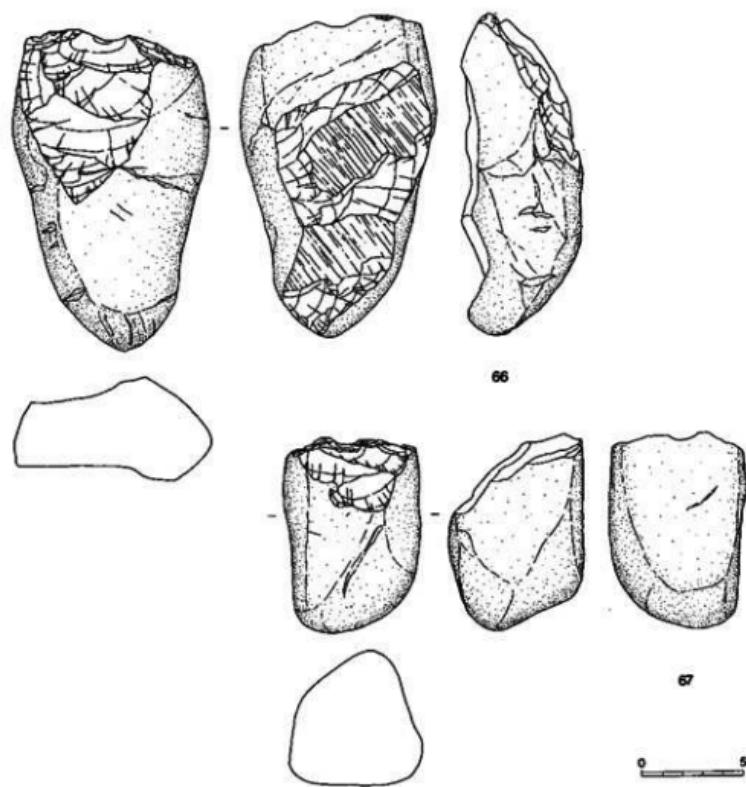
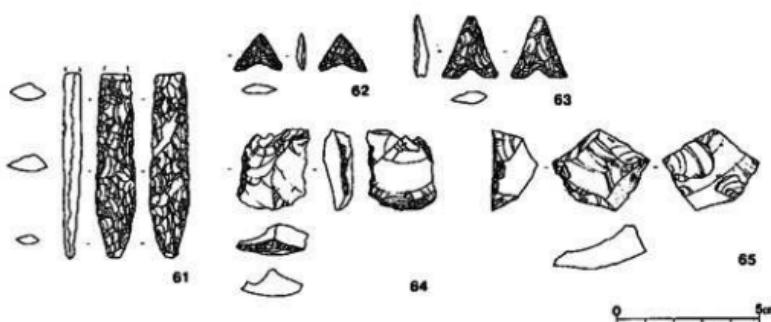


図16 黒ノ木遺跡の石器 6

表2 貢ノ木遺跡出土の石器一覧

No	名 称	遺物番号	地 層	石 材	長さ	幅	法盤 厚さ (mm)	重 量	備 考
上Ⅱ上部文化層									
1	ナイフ 彩石 砥	94KN VIG-3319	上Ⅱ上部	珠質頁岩	7.1	1.8	0.8	7.5	基部調整
2	#	94KN VIG-3049	#	#	5.0	1.4	0.7	3.8	#
3	#	94KN VIG-192	モヤ上部	#	5.2	1.8	0.6	5.8	二側縁調整
4	#	94KN VIG-328	上Ⅱ上部	#	4.4	1.4	0.5	3.3	#
5	#	94KN VIG-3111	#	黒曜石	3.4	1.0	0.5	1.7	#
6	#	94KN VIG-3207	モヤ上部	#	3.0	1.0	0.3	0.9	基部調整
7	#	94KN VIG-3242,3446	上Ⅱ上部	玉 す い	6.3	1.8	0.8	7.1	二側縁調整
8	匙	94KN VIG-3096	#	珠質頁岩	6.1	2.1	0.5	6.2	神山型
9	#	94KN VIG-286	モヤ下部	#	6.3	3.1	1.3	21.8	#
10	#	94KN VIG-36	上Ⅱ上部	#	3.3	1.9	0.7	4.8	#
11	#	94KN VIG-3209	#	#	7.9	2.8	1.1	21.0	
12	#	94KN VIG-198	モヤ上部	#	4.8	2.5	1.1	11.0	小板型
13	#	94KN VIG-3240	上Ⅱ上部	#	3.8	2.9	1.0	11.0	#
14	#	94KN VIG-222	#	無斑品質安山岩	4.8	3.9	1.0	18.2	
15	#	94KN VIG-172	モヤ上部	珠質礫灰岩	5.7	1.8	1.3	9.8	
16	#	94KN VIG-3281	上Ⅱ上部	珠質頁岩	7.8	3.5	1.4	26.5	
17	#	94KN VIG-213	#	玉 す い	6.2	3.5	0.9	19.3	
18	#	94KN VIG-3577	#	黒曜石	3.5	2.2	1.5	12.3	
19	#	94KN VIG-3265	モヤ上部	珠質頁岩	6.1	2.8	0.9	12.6	小板型
20	ス 振 一 ル	94KN VIG-3241	上Ⅱ上部	#	5.8	0.9	0.8	3.8	
21	#	94KN VIG-3287	上Ⅱ上部上面	#	5.5	1.0	0.6	2.2	
22	石 刀	94KN VIG-3217	上Ⅱ上部	#	9.9	1.8	1.0	29.0	
23	#	94KN VIG-3389	#	#	6.6	1.3	0.7	5.5	同一母岩
24	#	94KN VIG-3235	#	#	6.3	1.4	0.4	4.2	
25	#	94KN VIG-3316	上Ⅱ下部	#	4.7	1.0	0.4	2.0	
26	#	94KN VIG-19	上Ⅱ上部	#	7.1	2.3	0.7	13.3	
27	#	94KN VIG-208	上Ⅱ中部	#	6.0	1.2	0.5	3.0	
28	微細剥離痕のある石刀	94KN VIG-3022	上Ⅱ上部	黒曜石	6.5	2.4	0.6	9.2	
29	#	94KN VIG-3116	モヤ上部	玉 す い	5.3	3.0	0.7	12.4	
30	石 刀	94KN VIG-3023	上Ⅱ上部	無斑品質安山岩	7.6	2.1	1.0	13.8	
31	#	94KN VIG-3200	#	#	8.5	1.6	0.6	6.7	
32	剣 片	94KN VIG-3106	#	珠質頁岩	147	8.5	3.2	330	
33	石 横	94KN VIG-3202	#	#	7.1	5.6	5.6	160	石刀石核
34	#	94KN VIG-3195	#	黒曜石	3.6	3.1	1.6	20.4	
35	#	94KN VIG-3611	上Ⅱ上部(下部)	砂 岩	6.3	8.1	2.9	121	
36	#	94KN VIG-90	かくらん	珠質頁岩	10.1	3.5	3.8	87.7	石刀核のわれた剣片
上Ⅱ上部～黒色帶文化層(層位検討中)									
37	#	94KN VIG-5	上Ⅱ上部かくらん	珠質頁岩	5.2	6.1	3.4	136	
38	錐 器	94KN VIG-242	上Ⅱ下部	黒曜石	2.9	3.0	0.9	5.1	
39	ス レ イ バ ー	94KN VIG-3205	#	#	3.4	3.6	1.2	11.2	
40	#	94KN VIG-3041	上Ⅱ上部	黒曜石	4.9	2.7	1.2	11.9	
41	#	94KN VIG-3062	上Ⅱ上部かくらん	#	4.1	3.9	1.3	12.3	
42	敲 石	94KN VIG-238,293	上Ⅱ下部上Ⅱ上部	砂 岩	14.2	6.7	4.4	400	
43	ナイフ 彩石 砥	94KN VIG-21	上Ⅱ下部	黒曜石	2.6	1.1	0.3	0.9	二側縁調整
44	#	94KN VIG-39	上Ⅱ上部	#	2.1	1.1	0.3	0.5	#
上Ⅱ最下部文化層									
45	#	94KN VIG-3400	上Ⅱ最下部	無斑品質安山岩	6.9	4.0	1.9	49.7	

No	名 称	遺 物 番 号	地 帯	石 材	長さ	幅	法 量 (m ²)	備 考
46	ナイフ形石器	94KN VIB-307	上Ⅱ最下部	無斑晶質安山岩	6.2	3.6	1.7	30.0
47	#	94KN VIB-306	上Ⅱ下部	珪質頁岩	4.9	1.6	7.3	5.2
48	刺 片	94KN VIG-3404	#	無斑晶質安山岩	6.6	2.7	1.1	19.8
49	#	94KN VIB-308	#	#	9.3	4.9	1.3	55.6
黒色帯文化層								
50	ナイフ形石器	94KN VIG-3114	上Ⅰ黒色帯	黑曜石	3.4	2.3	0.8	4.1
51	#	94KN VIG-3037	上Ⅱ最下部	#	3.2	1.8	0.8	2.6
52	#	94KN VIG-3705	上Ⅱ最下部～黒色帯	#	2.3	1.5	0.6	1.7
53	#	94KN VIG-3036	上Ⅱ最下部	#	2.3	1.5	0.4	1.2
54	#	94KN VIG-3701	上Ⅱ最下部～黒色帯	#	2.2	1.7	0.5	1.1
55	#	94KN VIG-3695	#	#	2.3	1.4	0.7	1.7
56	#	94KN VIG-3706	#	#	2.3	1.2	0.4	0.9
57	#	94KN VIB-13	上Ⅱ上部	#	2.5	1.6	0.4	1.3
58	#	94KN VIB-29	#	チャート	2.9	1.7	0.6	2.5
59	局部磨製石斧	94KN VIG-3334	上Ⅱ最下部	蛇紋岩	9.7	4.1	1.8	97.7
60	微細剝離痕のある削片	94KN VIG-3592	黒色帯上部	無斑晶質安山岩	6.6	7.6	1.3	66.5
モヤ文化層(縄文時代前期)								
61	有茎尖頭器	94KN VIB-218	モヤ上部	珪質頁岩	6.4	1.4	0.6	5.6
柏原黒色火山灰層(縄文時代)								
62	石 鋸	94KN VIB-59	柏原黒色火山灰	黑曜石	1.3	1.6	0.2	0.3
63	#	94KN VIG-3063	#	珪質火山灰岩	2.2	1.9	0.5	0.9
64	スクレーパー	94KN VIB-221	#	黑曜石	2.9	2.5	1.1	5.7
65	#	94KN VIG-3082	#	#	2.8	3.4	1.2	8.3
黒色帯文化層								
66	石 核	94KN VIG-3593	黒色帯上部	砂 岩	16.0	9.8	5.8	983
57	#	94KN VIG-3580	#	砂 岩	10.2	6.8	6.7	608

に穂状剝離をおこなっている。11は左側縁の彫刻刃面を打面として右側縁に彫刻刃面を作り出している。12は折断面を打面として左側縁に彫刻刃面が設けられている。また、もう一方の端部にも腹面に連続する二次加工と穂状剝離が施されている。13は平坦な節理面、19は折断面を打面として、ともに左側縁に数条の穂状剝離が施されている。17は素材の継長剝片を断ち切るように調整が施され、そこを打面として背面に彫刻刃面を3条作り出している。15、18は剝離面を打面として左側縁に穂状剝離が1条施されている。8、9、10は神山型彫器、12、13、19は小板型彫器である。

前片：20、21は彫刻刃面を作り出す際に生じた削片（スボル）である。

石刃：22～27、30、31は石刃である。22、23は主剝離面と直交する剝離がみられ、それ以外はすべて背面と腹面の剝離方向が同一方向になっている。24、25、30は打面側が欠損している。32は外形が二等辺三角形をした大形の削片で、背面には主剝離面の方向と直交する方向の剝離痕が残る。打面は折断により残っていない。

微細剝離痕のある剝片：28、29は微細な剝離痕のある剝片である。28は左側縁腹面の中央に背面から、29は左側縁の下端に腹面からそれぞれ微細な剝離が施されている。

石核：石核は4点出土した。33・36は両設打面で、石刃を連続して剥離した石核である。33は一方は調整によって平坦な広い打面を作り出し、もう一方は連続した細かい剝離によって打面を作り出している。36は剝離がまがって反対側の石核側面にまで達してしまう、ウートラバッセ(outrepasse)が生じたため、破棄されたものと考えられる。礫面を多く残しており、礫面を取り除くような1枚の大きな剝離によって打面を作り出している。34は礫面を残す石核で、黒曜石の小砾を用い、継長剝片を剥離した石核である。35は偏平な礫を素材とし、その平坦な自然面を打面として幅広の剝片を剥離した石核である。剝離面を打面に転換する剝離がみられる。

2) 上Ⅱ最下部文化層

主要な遺物は、ナイフ形石器3点、剝片2点と少な

い。

ナイフ形石器：45・46は、ともに一側縁に刃済し加工されたナイフ形石器である。無斑晶質安山岩製で、広い打面をもつ、比較的幅広で部厚い綫長剝片を素材としている。

47は、珪質頁岩製の綫長剝片を素材とし、二側縁に厚い刃済し加工が施されたナイフ形石器である。基部はやや湾入している。

剝片：48・49は、ともに無斑晶質安山岩製の綫長剝片で、45・46のナイフ形石器の素材と思われるものである。

3) 黒色帯文化層

ナイフ形石器9点、局部磨製石斧1点、剝片1点などが出土している。

ナイフ形石器：いづれも小さな横長の剝片を素材とする台形状のものであり、いわゆる台形様石器と称されるものである。50～57は黒曜石製である。58は珪質岩（チャート）製である。

局部磨製石斧：59は、蛇紋岩製で、一部に自然面を残し、粗い調整で全体の形状を整えた後に刃部付近に入念な研磨が施された局部磨製石斧である。

微細剝離痕のある剝片：60は、無斑晶質安山岩製で、きわめて広い打面をもつ、幅広な剝片である。側縁の末端側にわずかに微細な剝離痕がみられる。

石核：66、67は、ともに大～中形の細長い円錐の一端に剝離がおこなわれた資料で、配石付近より出土した。剝離は礫の長軸に対して斜め方向になるように入れられており、最終的な剝離は上端からおこなわれている。2点とも同様な形態のチョッパー状を呈した石核であり、礫の片側にのみ剝離がおこなわれている。片刃の礫器（チョッパー）としての機能も考えられる。

4) 上II上部～黒色帯文化層

37～44は、所属層位が不明のものや検討中のものである。

石核：37は、珪質凝灰岩製で、打面調整はみられず、幅広の剝片を剥離している。付近には上II上部文化層の石器群が集中しているが、形態からは黒色帯～上II下部のものである可能性もある。

38～41は黒曜石製の石器群である。上II下部から出土しているものもあるが、集中した分布にはなってなく、また典型的な形態の遺物が少ないとことから、独立

した層位を形成しているものか、あるいは上II上部か黒色帯のものなのか判断できない。

錐器：38は、剝片の打面側にノッチ状の調整で刃部を作りだした錐器である。

スクレイバー：39・41は、打面の小さな菱形の剝片の側縁に刃部が形成されたスクレイバーである。40は、幅広の綫長剝片の末端側の側縁に、刃部が形成されたスクレイバーである。

敲石：42は、砂岩製の礫を素材とし、一端に打痕がみられる敲石である。側縁には、研磨と思われる痕跡もみられる。上述の黒曜石石器群と同様に上II下部に出土している。

ナイフ形石器：43・44は、黒曜石製の剝片を素材とする、小形の二側縁調整のものである。50～58の台形状のナイフ形石器の出土した分布域の中で出土したものであるが、ここでは黒色帯と上II上部の2枚の文化層の石器が、ごく薄い擾乱層から混じって出土しており、どちらに所属するものかは不明である。

6. 繩文時代の石器

1) 繩文時代草創期

有茎尖頭器61は、珪質頁岩製の細身の尖頭器で、先端が欠損している。単独で出土したもので、同時期の遺物は他には確認できなかった。

2) 繩文時代早期以前

石錐2点、スクレイバー2点が出土している。

7. 繩文時代の土器

1) 繩文時代早期

土器は少ないが、そのほとんどは早期前半の押型文土器である。図示したものでは横円文5点と格子目文5点がある。

1～5は、横円文である。いづれも小片であるが、密着施文のようである。3～5には纖維が含まれる。

6～10は、格子目文である。纖維は含まれない。

2) 繩文時代前期

11は、結節状浮線文を主体とする諸磧C式併行の土器である。

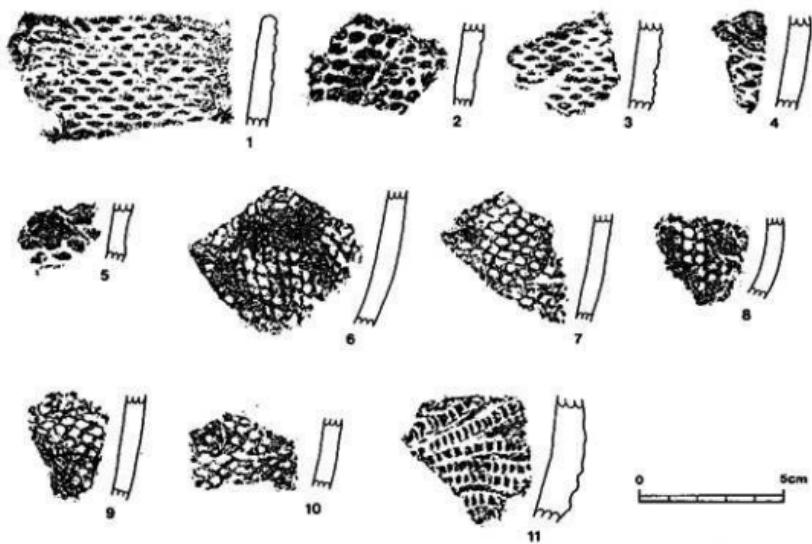


図17 貫ノ木遺跡の縄文土器

表3 貫ノ木遺跡出土の縄文土器一覧

No	時期	文様	文様要索	縞幅	遺物番号	備考
1	早期・前半	押型文	格円文		94KN VIG-3320	
2	*	*	*		94KN VIG-3076	
3	*	*	*	有	94KN VIB-217	
4	*	*	*	*	94KN VIB-204	
5	*	*	*	*	94KN VIB-209	
6	*	*	格子目文		94KN VIB-53	
7	*	*	*		94KN VIB-44	
8	*	*	*		94KN VIB-46	
9	*	*	*		94KN VIB-52	
10	*	*	*		94KN VIB-42	
11	前期・後半	結線状浮雕文			94KN	

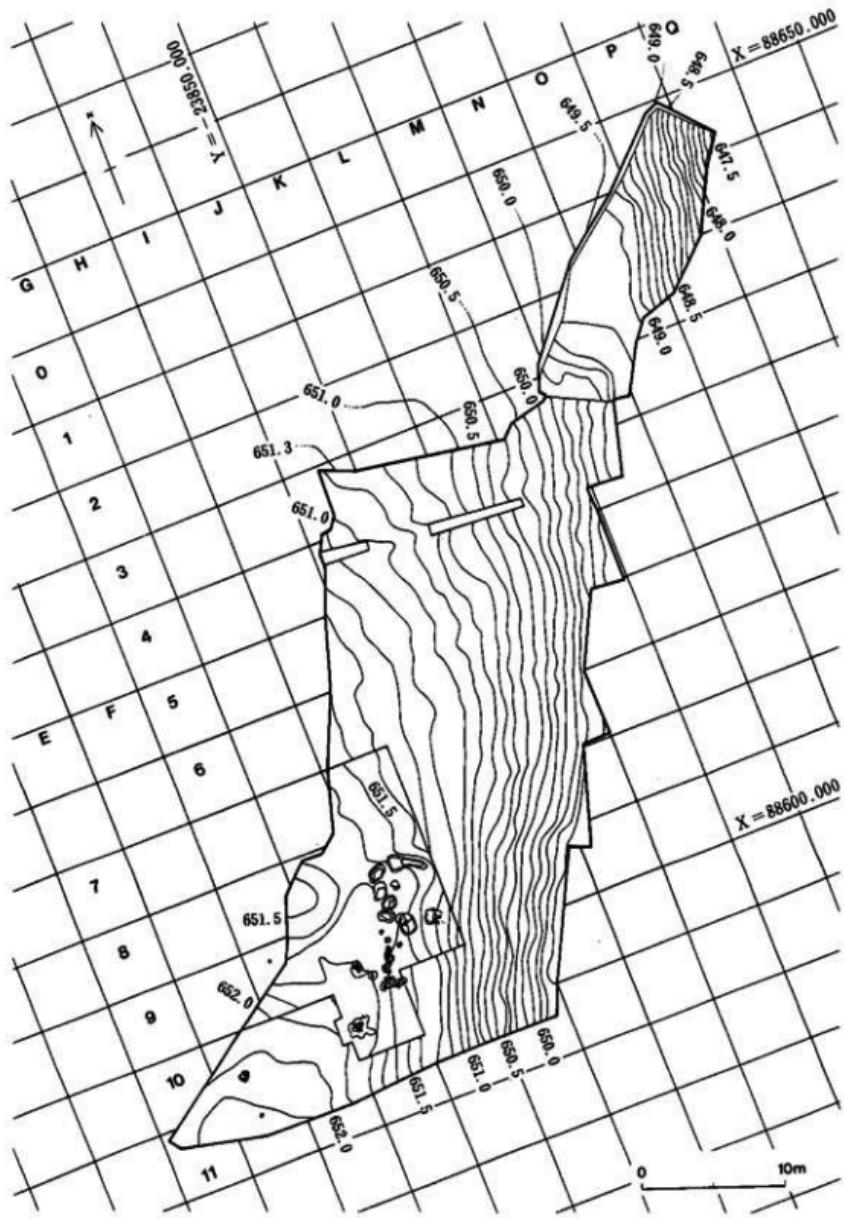


図18 日向林B遺跡・櫛塚氏住宅地点の地形（1区画は5m）

III 日向林B遺跡（棚橋氏住宅地点）

1. 発掘の概要

日向林B遺跡は信濃町の古間地区の水穴から採訪ノ原にひろがり、野尻湖南方の丘陵部の南斜面に位置する。棚橋氏住宅地点は、丘陵が採訪ノ原地籍に細く尾根状に南にひびいている尾根の頂部に位置する。この遺跡の北部では、長野県埋蔵文化財センターによって1993年（平成5）より発掘調査がおこなわれ、また北東側の一段低い面では、1993・94年（平成4・5）に信濃町教育委員会によって七ツ葉遺跡の発掘調査がおこなわれている。

発掘は、中世の墓地が確認された場所をのぞいて、表土と柏原黒色火山灰層の上半部を重機により掘削した後、人力により生活面の発掘をおこなった。墓地の部分は、重機による掘削は最小限にとどめた。

グリッドは、国家座標系にあわせ、5m単位の区画を設定した。遺物の記載には、1m単位の水糸を用いたメッシュ実測法で1/20の平面図を作成し、遺構は1/10の実測図を作成した。

2. 発掘地の地形と地質

棚橋氏住宅地点は、県道水穴・古間（停）線のすぐ西側にひびいる標高約651mの丘陵頂部付近に位置し、雜木林となっていた場所である。かってはリンゴ畑であったという。県道の東側には斑尾川にそって標高約636mの水田がつくる沖積面が北東—南西方向につづき、丘陵と沖積面との間には狭く台地状の緩傾斜地がはそく連なっている。この地形面には七ツ葉遺跡がひろがっているが、棚橋氏住宅地点ではすでにこの地形はなくなり、日向林B遺跡の丘陵と沖積面が約15mの比高差で接している。

発掘地には、厚いローム層がのっている。確認されている後期更新世の神山ローム層、野尻ローム層、および柏原黒色火山灰層はすべて風成層で、古くから小川を望む安定した高台であったことがわかる。

発掘地の遺物包含層は、柏原黒色火山灰層と表土である。上部野尻ローム層以上の地層は、つねに削刻をうけやすい環境で、概してうすい。

3. 遺物・遺構の出土状況

棚橋氏住宅地点の発掘調査では、約2200m²から総計4465点の遺物が出土した。これらは縄文時代と中世のものである。

中世の石造物、墓地、陶器などの遺物は、表土直下に包含されていて、おもに発掘地南部のI7・8・9グリッド付近を中心に集中し、北部のO1・2グリッド付近にもわずかに分布する。

縄文時代早期・前期の土器は、ともに柏原黒色火山灰層の下底付近に多く含まれておらず、発掘地中央から南部のひびい範囲から散在して出土している。接合関係をみてても5~15cmくらいの範囲にまたがっている。とりわけ多くの土器片が集中していたのは、K7・J8・I8・I10・F10・F11などである。石器の分布は、土器と同様に発掘地のほぼ全域に散在して分布している。

縄文時代の遺構は、確認されなかった。

4. 縄文時代の土器

日向林B遺跡出土の土器は、主に縄文時代の早期と前期のものである。

1) 縄文時代早期

条痕文系の土器で、いずれも早期末のものである。

1~9・14・16~18は、繊維が多く含み、胎土が粗く、厚手で焼成もありよくない縦条体压痕文土器である。多くのものは、表裏両面に条痕がつけられ、口縁付近に縦あるいは横方向に縦条体による压痕がつけられている。14・18は隆帯を施されている。

10~13・15・19~25は、繊維が多く含み、胎土が粗く、厚手で焼成もありよくない条痕文のみの土器である。25は尖底部である。15は隆帯を施されている。上述の縦条体压痕文土器に類似するものである。

2) 縄文時代前期前半（岡山式併行）

26は、平口縁でループ文が付けられた縄文土器で、單節のRLの縄文である。かなり大きな深鉢で、岡山式に併行するものと思われる。この時期の土器は、ごく少ないとされる。

3) 縄文時代前期前半（黒浜式併行）

27・28は、同一個体の可能性のある大形の波状口縁をもつ深鉢で、底部から開き気味に立ち、肩部をつくった後、頭部ですばり、口縁にかけて開く。体上半部に半截竹管による平行沈線文で三角形に近い菱形の文様が描かれている。下半部の地文は单節のLRの縄文である。27の口径は27.8cmである。

29~35は、平口縁で体上半部に半截竹管による波状文を横位にめぐらした土器である。下半部の地文に

は、単節のRL・LRの原体を交互に回転した羽状繩文である。30は、単節の繩文をランダムに施している。

36、39~42は平口縁ないしゆるい波状口縁で体上半部に沈線による波状文を横位にめぐらした土器である。

37・38は、網目状撚糸文がつけられた土器である。比較的薄手である。

43・44は、半截竹管による平行沈線文を横位にめぐらした土器である。

45~52は、同様に半截竹管による平行沈線文を横・縦・斜位に引き、さらにその中に列点状の刺突文が施されたものである。

53~60は、平口縁で口縁付近がやや内湾する深鉢である。地文を残し、内側竹管の爪形文を入れた平行沈線文を2本1組で横位を基本として帯状にめぐらす土器である。地文は、単節RL・LRの原体を交互に回転した羽状繩文である。55・59・60の羽状繩文は、複体菱形構成となっている。

61~64は、波状口縁で、2本1組の半截竹管の平行沈線文を縦・横に入れ、それらの交点に円形竹管の刺突文を加え、さらに平行沈線文の間に2列の内側竹管の爪形文列をめぐらした土器である。65は、上述の土器と似たもので、横・縦の間に斜位の沈線文を入れ、爪形文列が口縁にそっている土器である。

66は、波状文が横位にめぐらされ、口縁に垂下隆帯を施したものである。

67~68は、平行沈線文を横位に施し、その間に爪形文列をはさむ土器である。

69~74は、平口縁で、口縁付近がやや内湾する深鉢である。半截竹管による平行沈線文を横・縦・斜位にめぐらし、その間にやや大きな爪形文を横位に施した土器である。

75~79・80~94は、纖維を含む繩文土器である。75は底部から開き気味に立ち上がる深鉢で、無節のやや短い原体をランダムにこころがしている。底径9.4cmである。76~78・80・82~86・88・89・92は、単節のLR・RLの原体を交互に回転した羽状繩文である。79は単節の繩文をランダムにこころがしている。81は、単節のLR・RLの原体を結節し回転した羽状繩文である。87は単節のRLの繩文で、90・91・93・94は単節の繩文をランダムにこころがしている。

4) 繩文時代前期後半（諸磕a式併行）

いずれも纖維を含まず、赤みを帯びた土器である。

95~110は、体上半部に半截竹管による平行沈線文で直線的な肋骨文を描き、口縁にそって爪形文列をめぐらし、縦位の平行沈線文に円形竹管の刺突文列を施した土器である。下半部の地文は単節でやや細密なRLの原体を用いた斜繩文である。

113~117は、無纖維の繩文土器である。いずれも単節でやや細密なRLの原体を用いた斜繩文である。

118は、底部から開き気味に立ち、頭部で若干すぼまつた後、外反する平口縁の深鉢で、文様は繩文のみである。無節でやや細密なLRの原体を用いた斜繩文である。纖維を若干含んでおり、あるいは時期が少し古いものである可能性もある。高さ26.1cm、口径18.4cm、底径8.1cmを計る。

112は、111と同様な器形の深鉢であるが、口縁は波状口縁である。纖維を含まず、単節でRLの斜繩文である。高さ23.2cm、口径19.4cm、底径6.8cmを計る。

118は、頭部で若干すぼまつた後外反する平口縁の深鉢である。体上部に半截竹管による平行沈線文で曲線的な肋骨文を描き、口縁および腹部との境に爪形文列をめぐらし、縦線に円形竹管の刺突文列を施した土器である。下半部の地文は、単節でRLの斜繩文である。口径27.0cmである。

119・120は118に類似する半截竹管による平行沈線文で曲線的な肋骨文をえがいた土器である。

5) 繩文時代前期後半（諸磕c式併行）

121は、集合沈線文を地文とする土器の底部付近である。

6) 繩文時代後期

122~125は、磨消繩文土器である。単節でRLの繩文である。

5. 繩文時代の石器

主要な石器としては、石錐15点、石匙6点、スクレイバー2点、錐器1点、尖頭器または石斧の基部2点、打製石斧1点、磨製石斧4点、特殊磨石5点、磨石4点、四石8点、石皿12点などである。

石錐：黒曜石製のもの1~6、チャート製のもの7、玉髓製のもの8、無斑晶質安山岩製のもの9~15などがある。1~14は、凹基なし平基の無基錐であり、15は、基部が欠損しているが尖基錐と思われる。

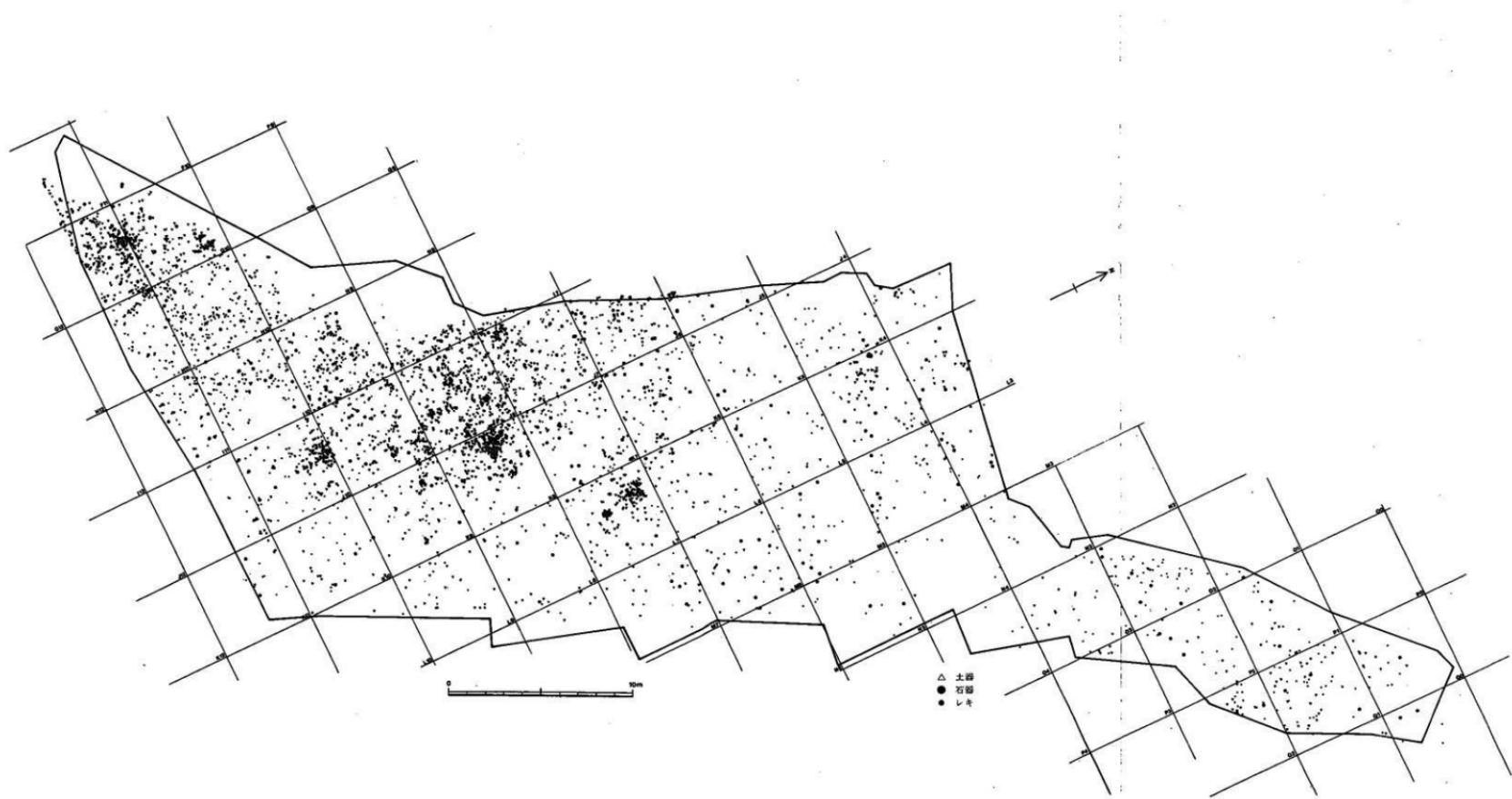


図19 日向林B遺跡の縄文時代遺物分布図

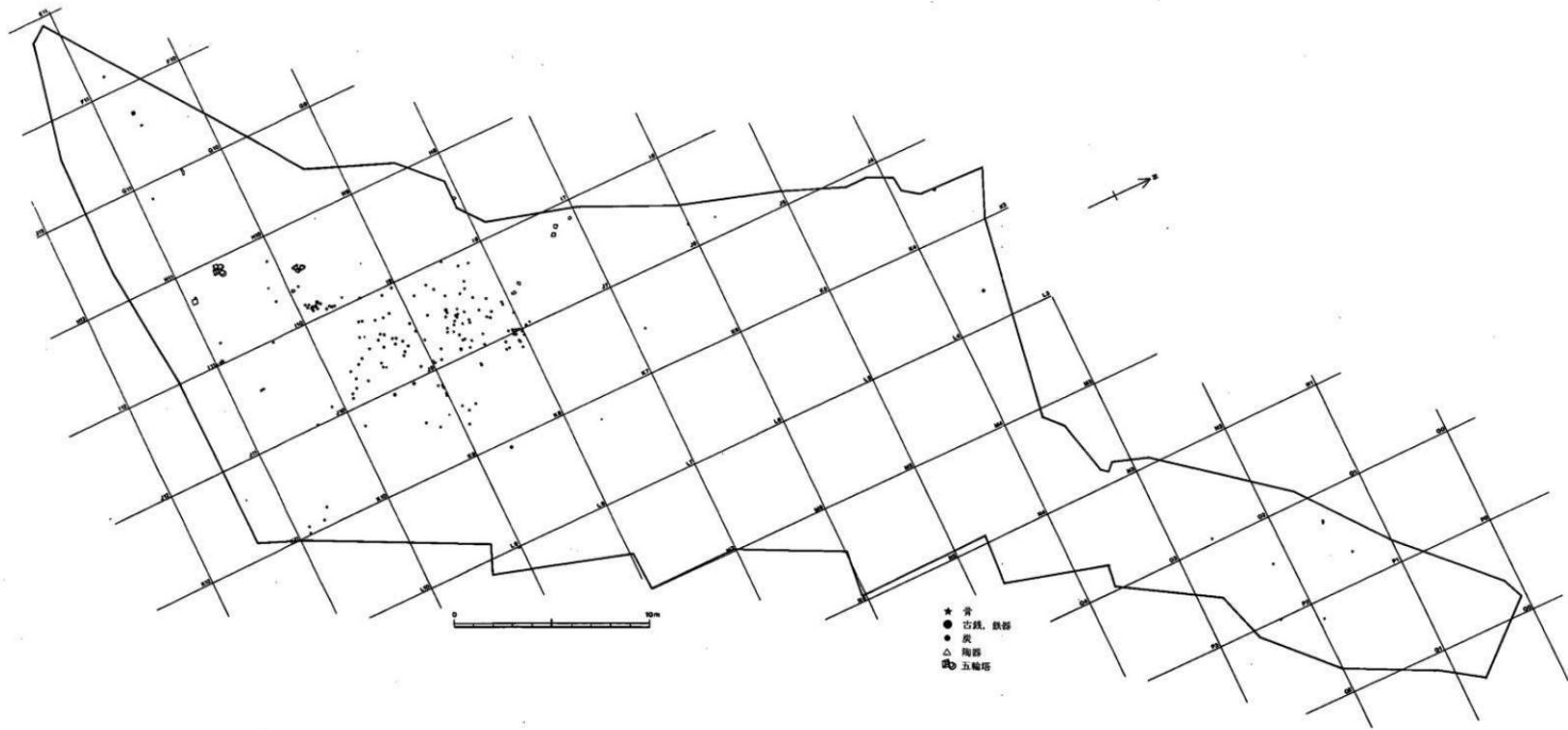


図20 日向林B遺跡の中世遺物分布図

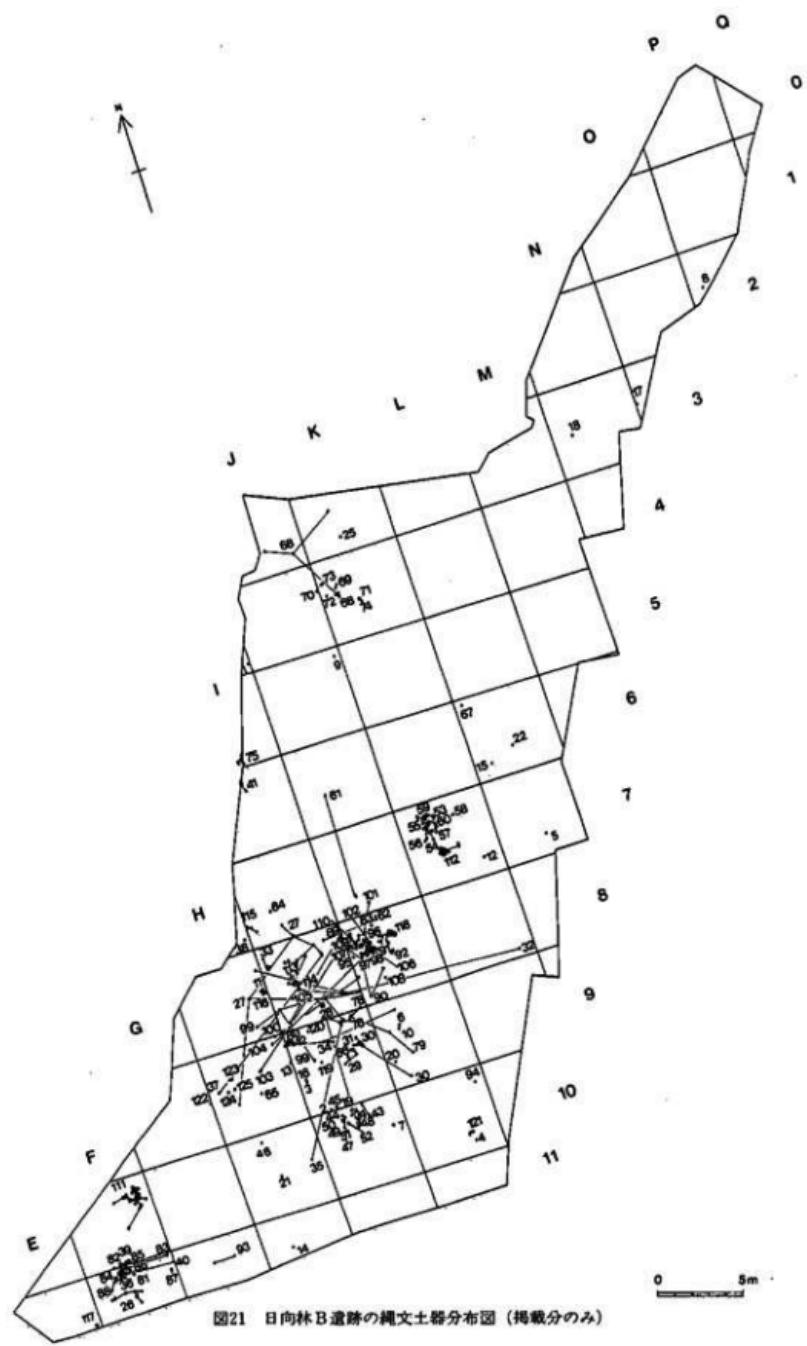


図21 日向林B遺跡の縄文土器分布図（掲載分のみ）

図23 日向林B遺跡の焼器分布図

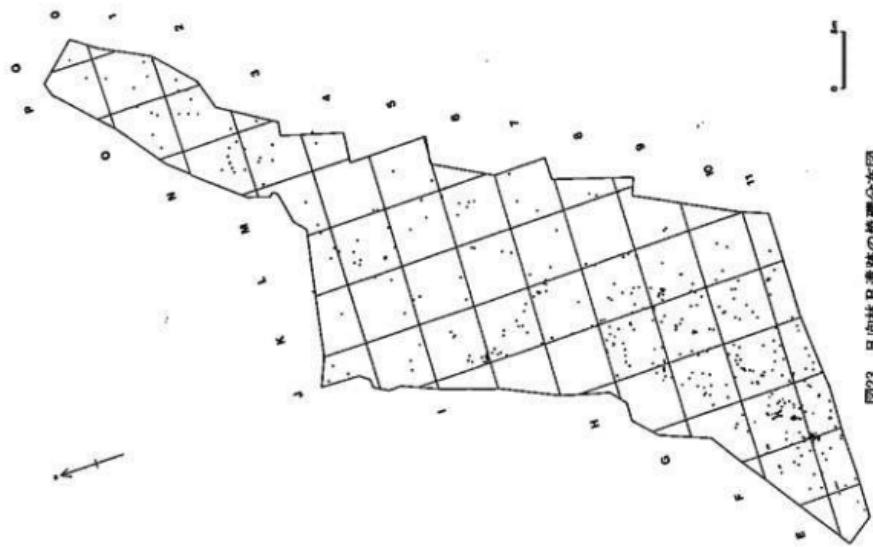
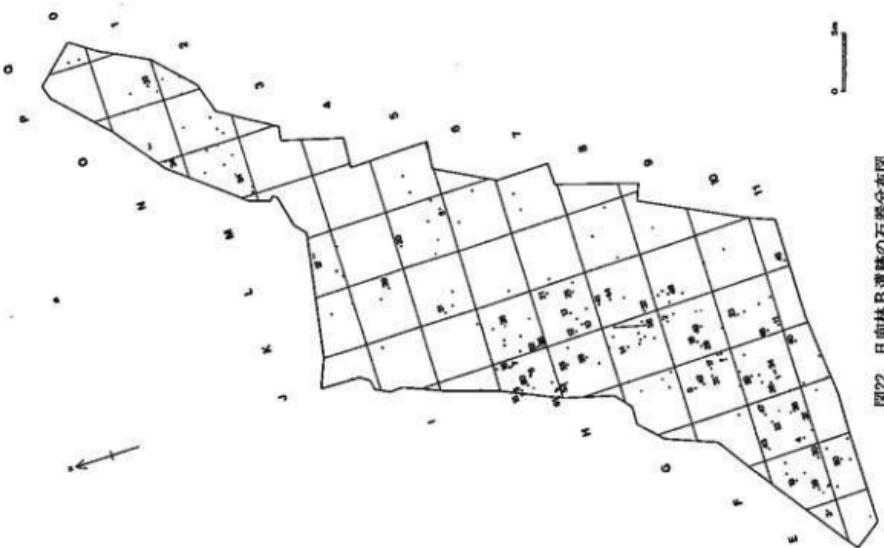


図22 日向林B遺跡の石器分布図



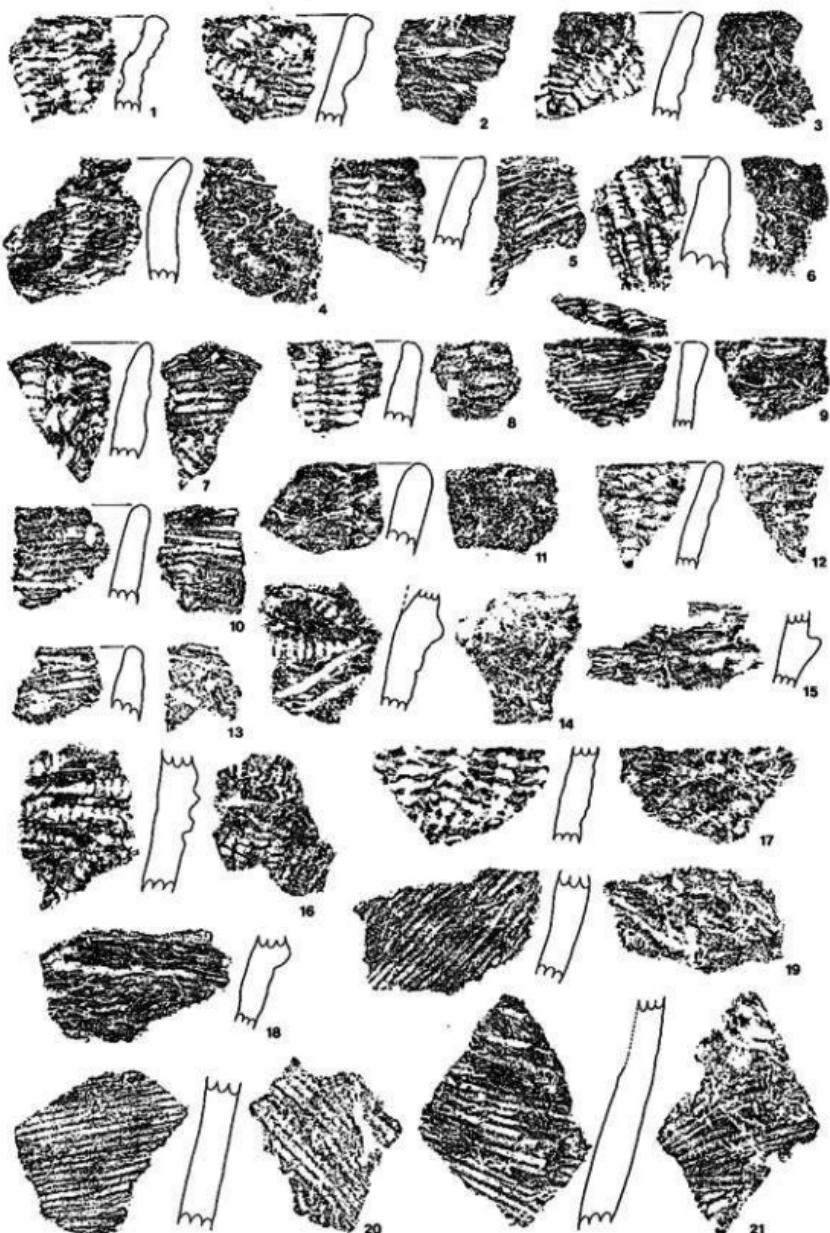
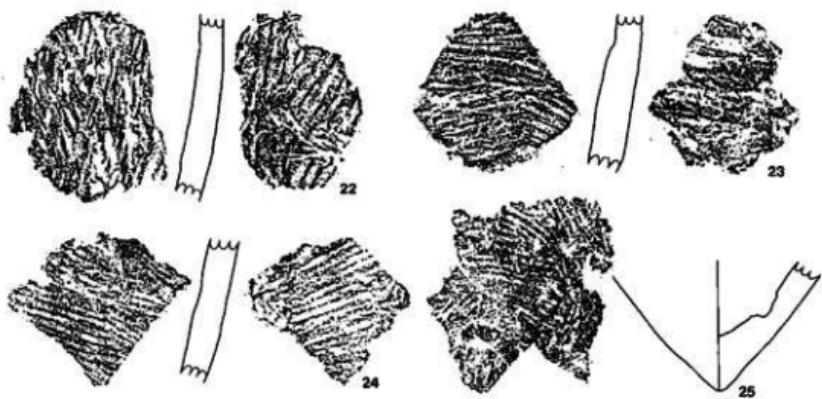


図24 日向林B遺跡 繩文土器1

0 5cm



0 5cm

図25 日向林B遺跡 繩文土器 2

圖26 日向林B遺跡 繩文土器 3



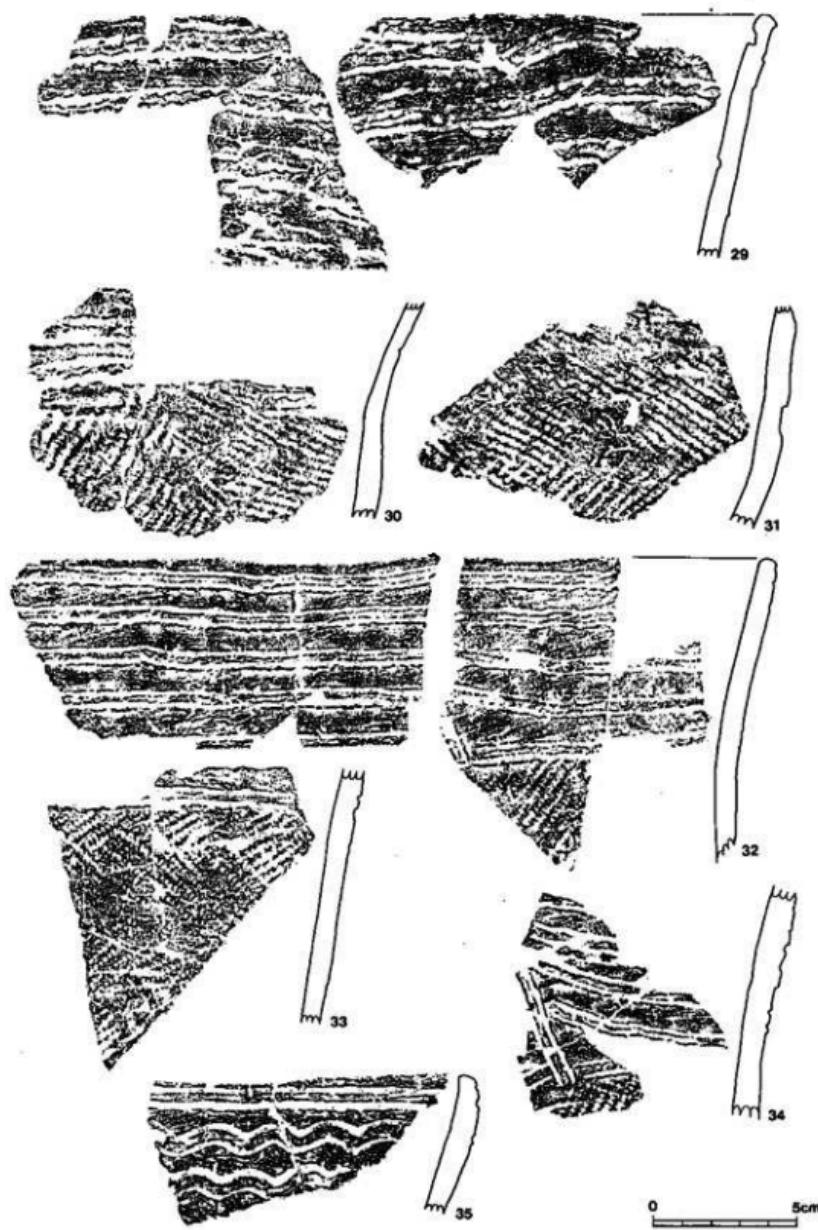


図27 日向林B遺跡 繩文土器 4

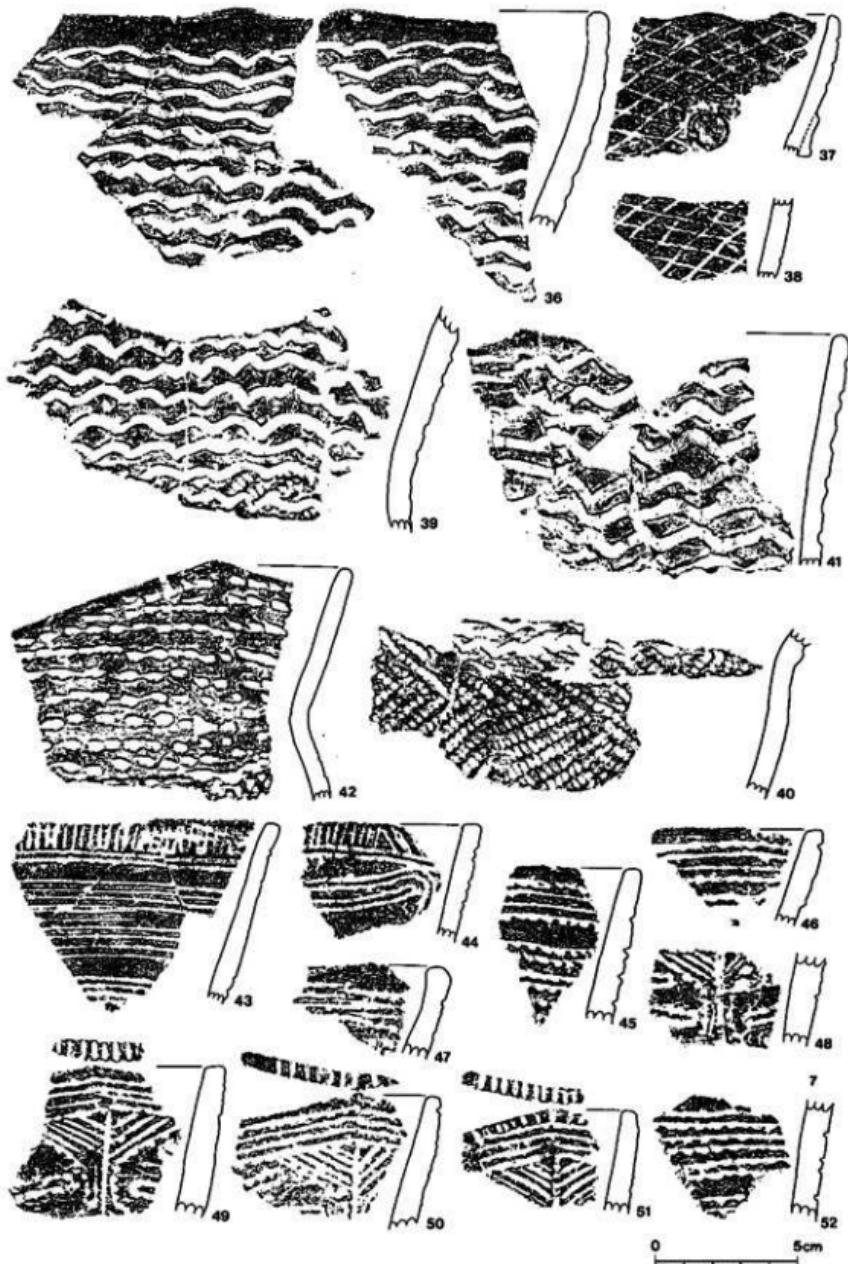


図28 日向林B遺跡 繩文土器5

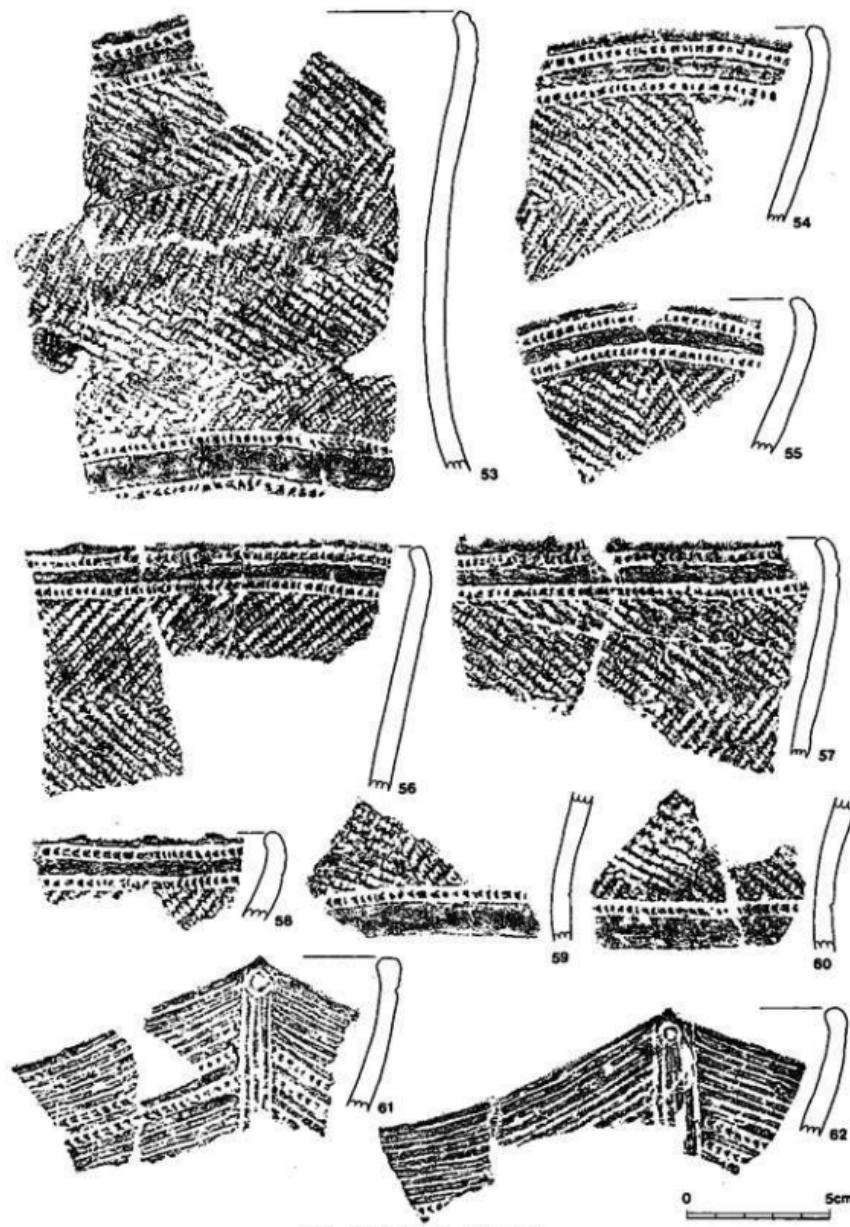


図29 日向林B遺跡 捩文土器 6

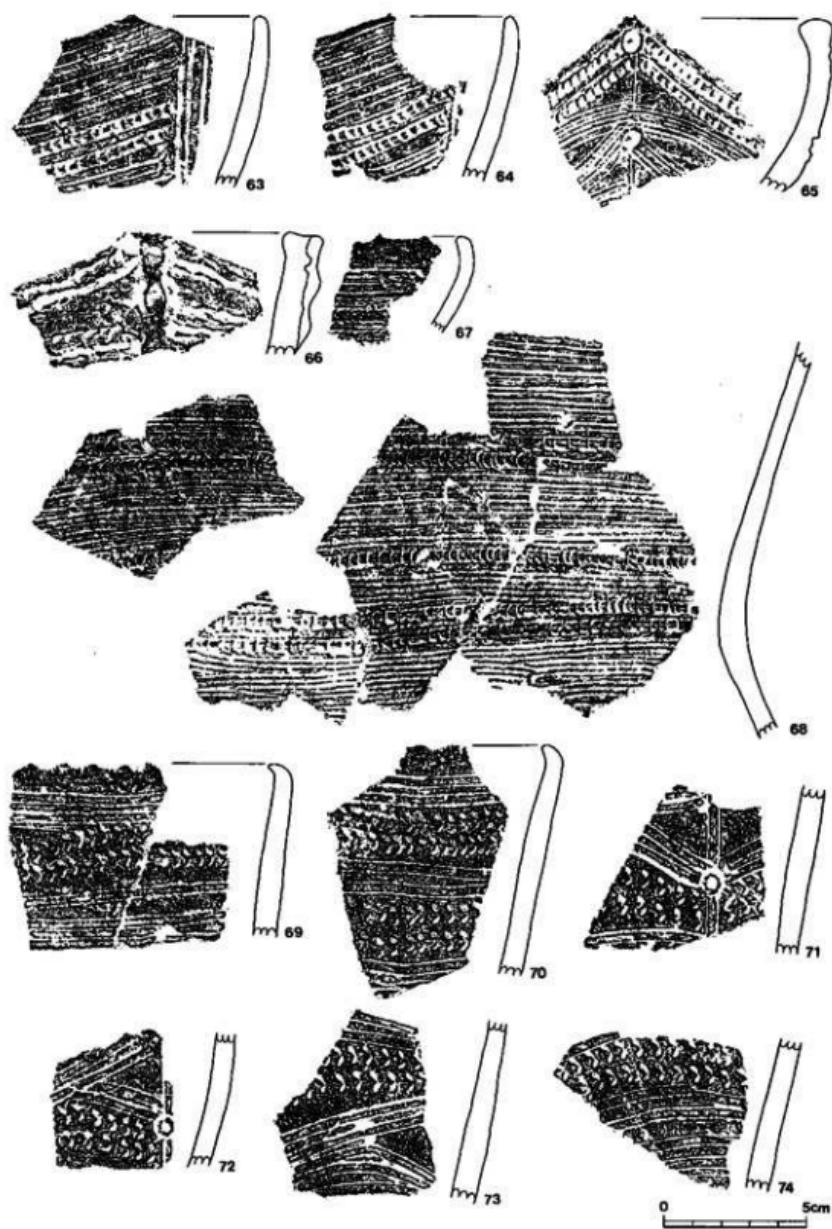


図30 日向林B遺跡 縄文土器 7

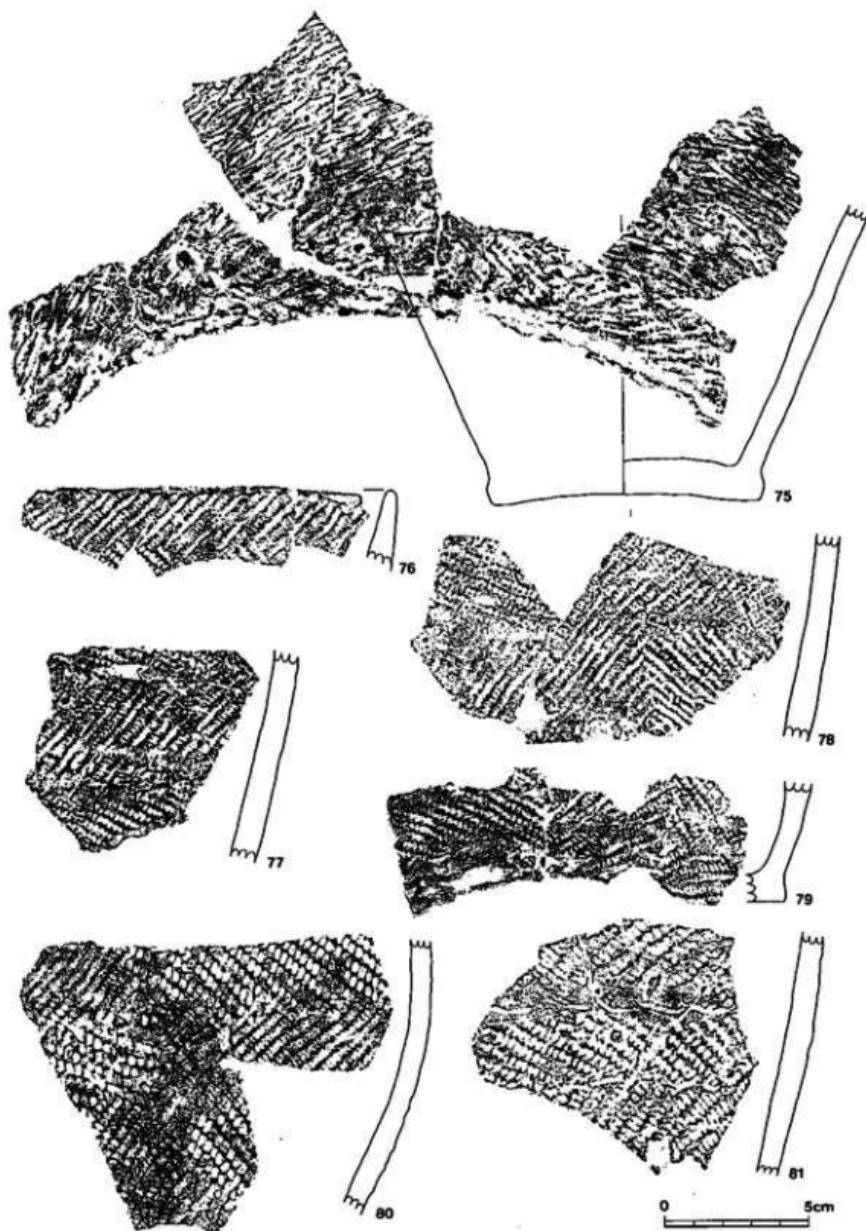


図31 日向林B遺跡 横文土器 8

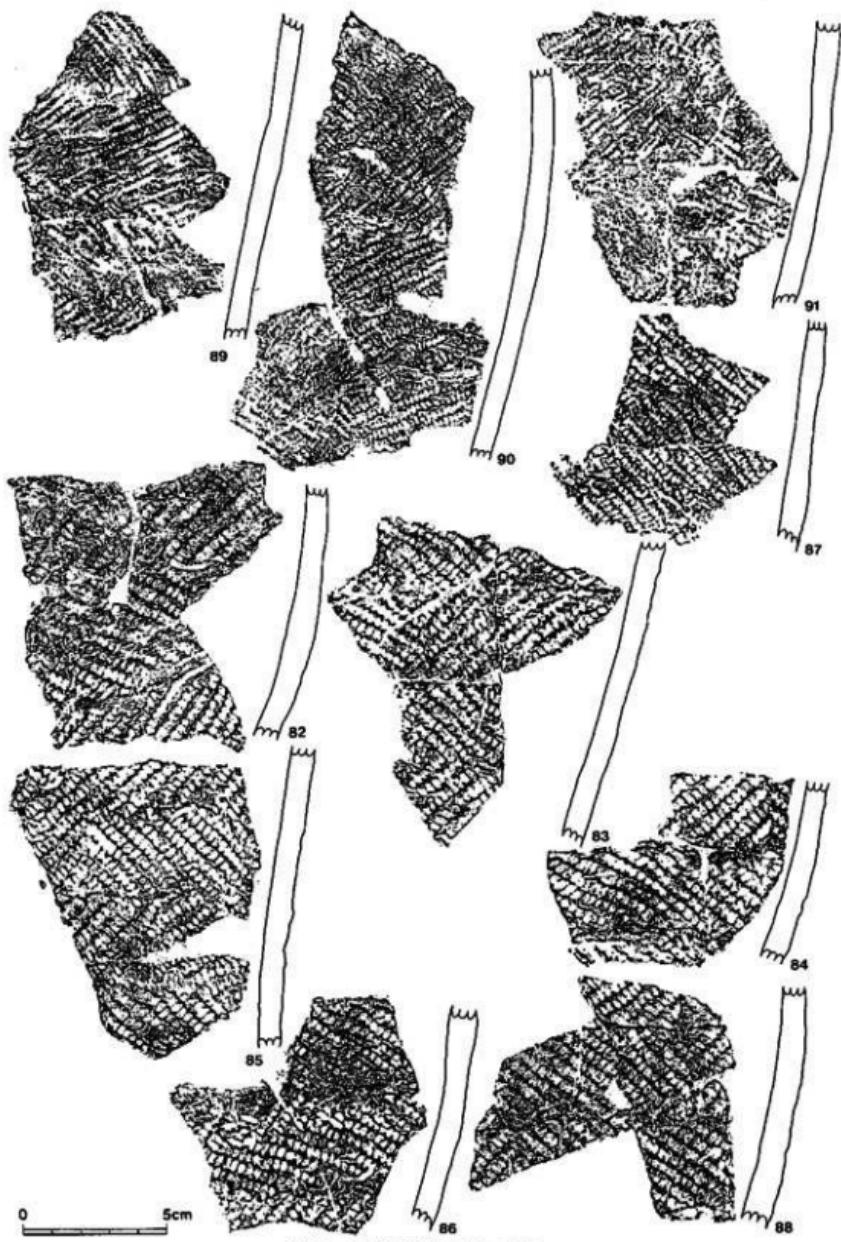


圖32 日向林B遺跡 繩文土器 9

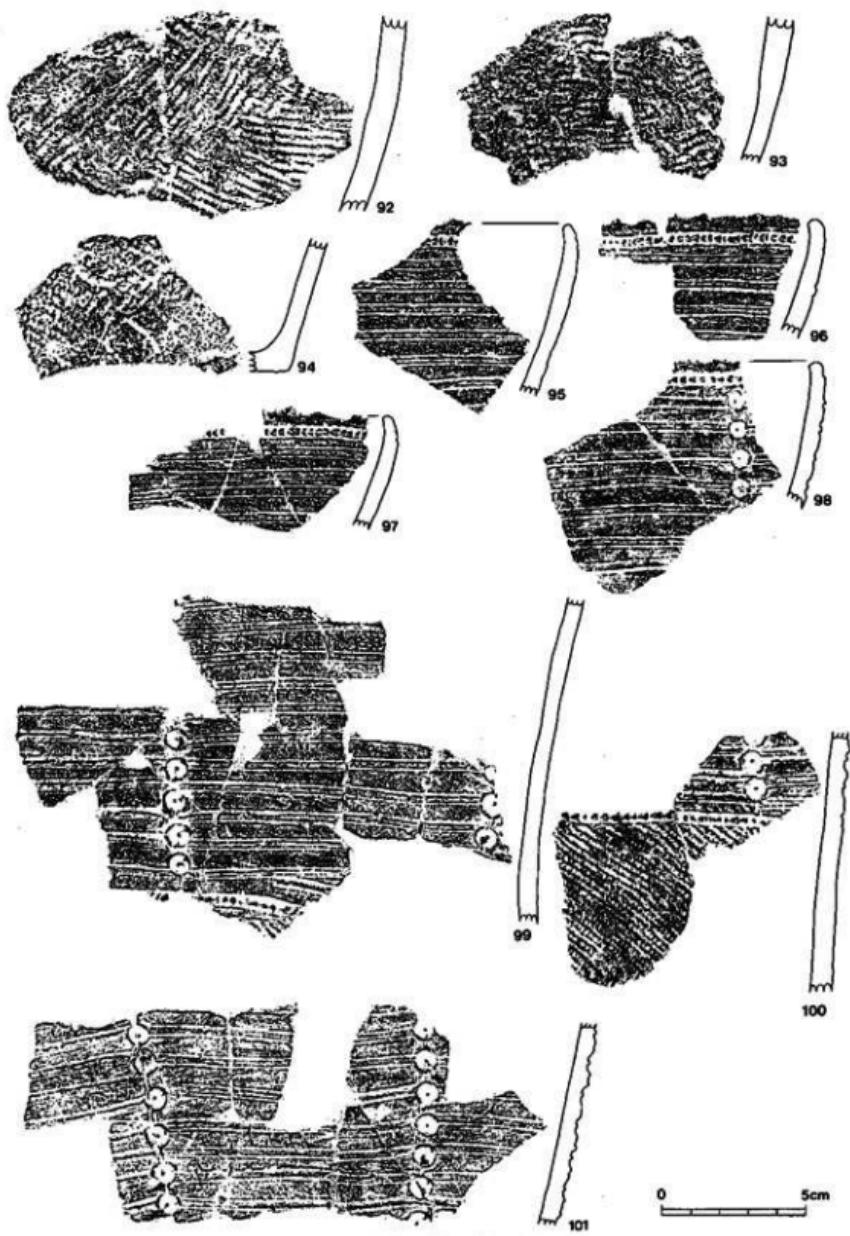


図33 日向林B遺跡 繩文土器10

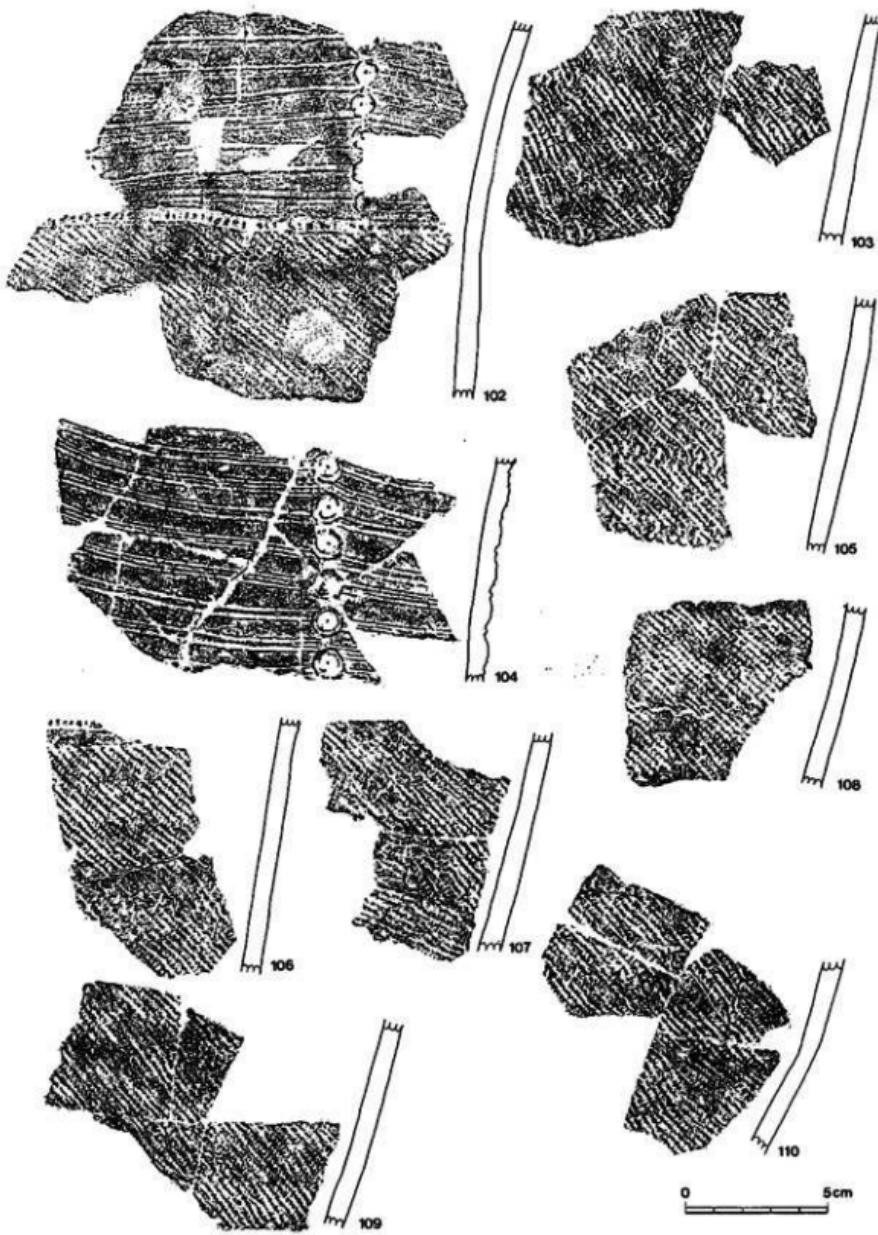
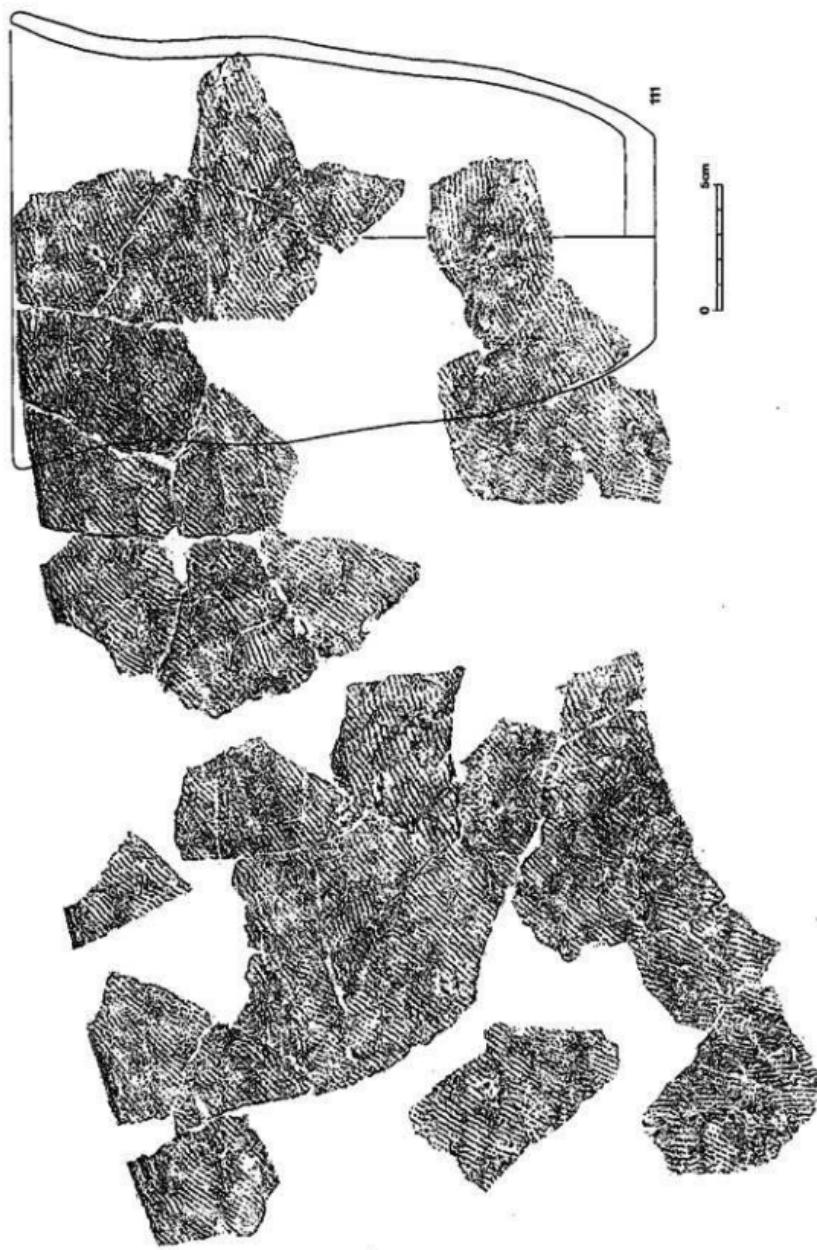


図34 日向林B遺跡 繩文土器11

圖35 日向林B遺跡 繩文土器12



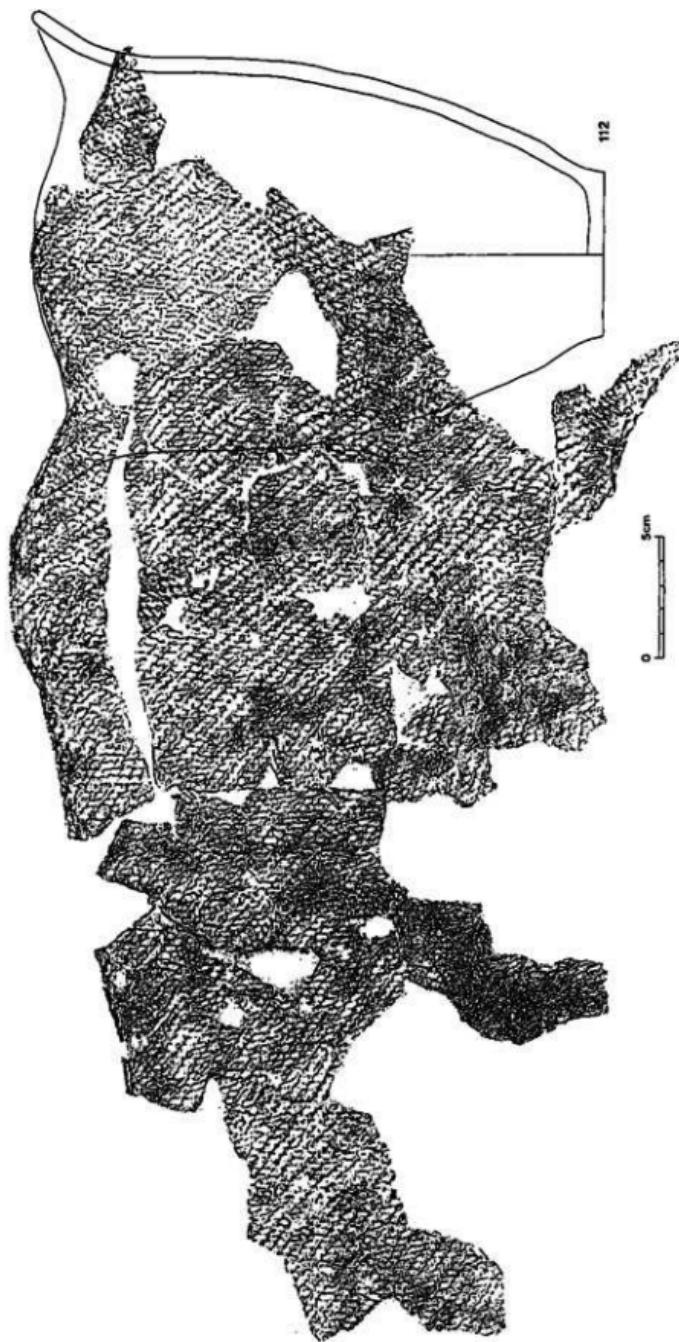


图36 日向林B遗址 红文土砾13

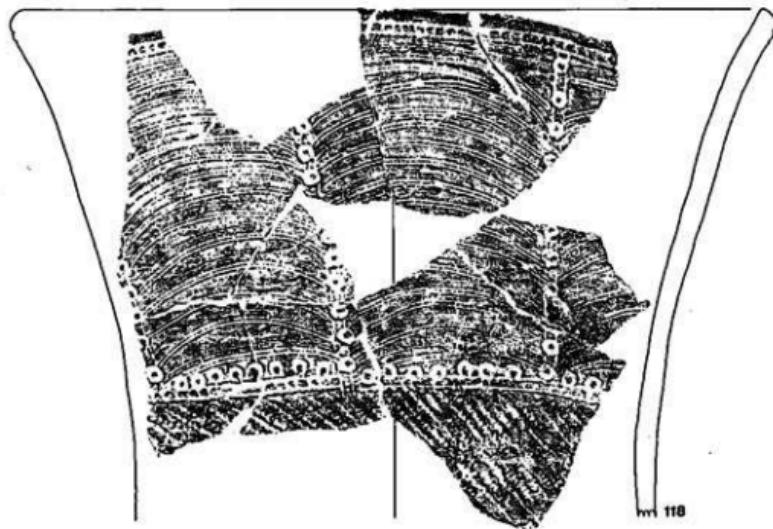
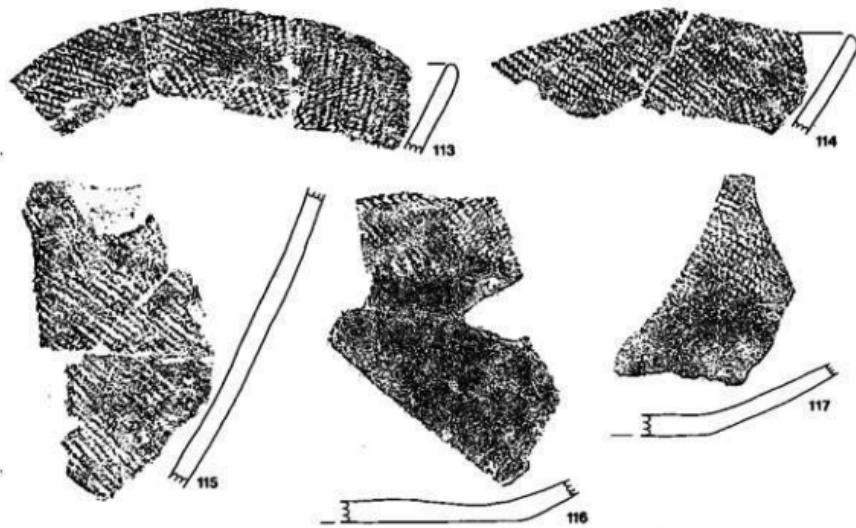


図37 日向林B遺跡 縄文土器14

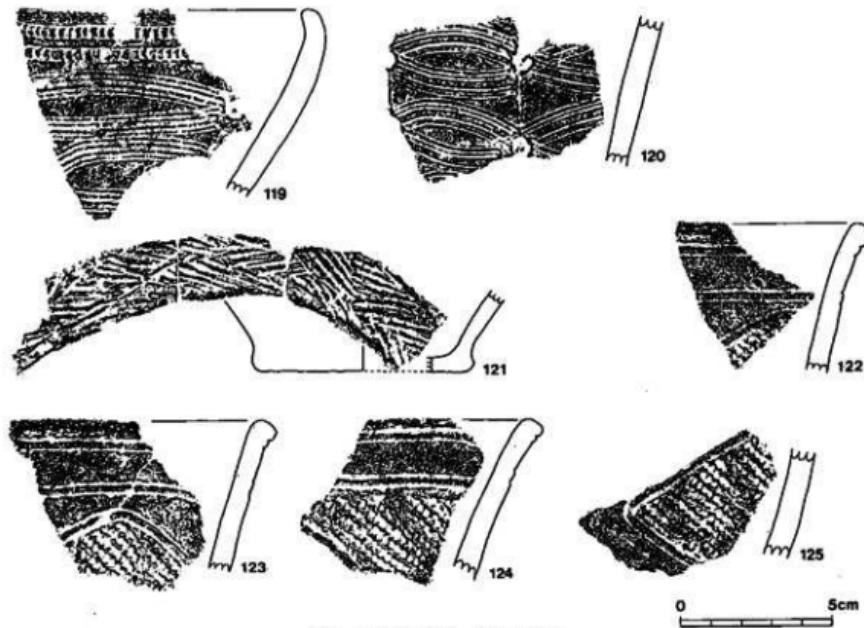


図38 日向林B遺跡 繩文土器15

石斧：16～21は、横型の石斧である。

スクレイパー：円形のもの22、縦長剥片の側縁裏面に刃部がつくられたサイドスクレイパー23がある。

錐器：24は、剥片の周縁に細かい調整がおこなわれており、一端にやや突出した刃部がつくられている。

尖頭器または石斧の基部：25・26は、比較的部厚い形状で、側縁の両側から両面に平坦な剝離によって形づくられている。基部のみの破損品で、尖頭器か石斧か不明である。

打製石斧：27は、撥形の形態の石斧である。

磨製石斧：28～31は、蛇紋岩製の比較的小さな局部磨製石斧である。研磨は前面におよばず、打剥面を残している。

特殊磨石：32～36は、細長い円錐を素材とし、長軸方向にそったやや突出した線部をすり減らして磨面を作りだした特殊磨石である。32のみは完形品で、他は破損品である。35以外は、良質の砂岩を用いている。

磨石：37・38は、砂岩の扁平な円錐を素材とする磨石で、片面に磨面が作られている。39・40は、ともに砂岩製の磨石と思われるが、破損品である。

凹石：41～48は、扁平な円錐を素材とし、両側に複数の凹部をもつ凹石である。ほとんどものは、扁平な面が磨面となっていて、磨石・凹石併用の石器であ

る。すべて安山岩製である。

石皿：49・50は、よく使用されて磨面が凹んだ状態のものである。51・53・54は、磨面が扁平なもので、後の2点は磨石の可能性もある。52は、扁平な礫を素材とする。55～60は、大きな円ないし亜角錐を用いた石皿である。とりわけ55・56・57・58は、使用により磨面がよく凹み、磨かれている。

敲石：61は、砂岩の小さな扁平錐を用いた敲石で、錐の縁部に打痕がみられる。

6. 中世の遺構

柳橋氏住宅地點における中世遺構としては、I8・I9・H9・H10グリッドにおける墓穴群があげられる。北半部には直径約70～160cmほどの円形の土壙が8基と長細い土壙1基が円形に並んでいる。南半部には直径約35～60cmの小さな土壙が集中している。

これらの土壙群の中で人骨が出土しなかったのは、19・20号土壙であり、6・10・13・15・17・18・21～23号土壙からは大量の人骨が出土した。21・23号土壙からは、炭が多く出土した。陶磁器が出土した土壙は少なく、1号土壙で中津川窯系陶器の破片が出土したのみである。

また、19・24・25号土壙からは五輪塔が出土してい

表4 日向林B遺跡出土の縄文土器一覧

No	時期	文様	文様要素	織機	遺物番号	備考
1	早中期	縦条体压痕文		多	94HB14-1	口縫部
2	"	"		"	94HB19-199	"
3	"	"		"	94HB19-99	"
4	"	"		"	94HB10-32	"
5	"	"		"	94HBL7-28	"
6	"	"		"	94HB19-19	"
7	"	"		"	94HB10-74	"
8	"	"		"	94HB2-22	"
9	"	"		"	94HB15-4	"
10	"	条痕文		"	94HB19-21	"
11	"	"		"	94HBH8-30	"
12	"	"		"	94HBK7-100	"
13	"	"		"	94HBH9-66	"
14	"	縦条体压痕文	隆帯	"	94HBH11-26	
15	"	条痕文	"	"	94HBL6-32	
16	"	縦条体压痕文	"	"	94HB19-71	
17	"	"		"	94HB03-5	
18	"	"	隆帯	"	94HBN3-9	
19	"	条痕文		"	94HB10-156	
20	"	"		"	94HBH9-55	
21	"	"		"	94HBH10-115	
22	"	"		"	94HBL6-18	
23	"	"		"	94HB10-154	
24	"	"		"	94HB10-40	
25	"	"			94HBK3-28	尖底部
26	晩期・前半 (開口併行)	周文	ループ文	"	94HB10-239, 94HBF11-151, 166, 167, 202 94HBF11-236, 240, 259, 260, 261	
27	晩期・前半 (黒浜併行)	平行沈線文	大形の菱形の文様 堆文・周文	有	94HB18-22, 94HB19-151, 94HB17-159 94HB18-104, 174, 219, 361, 368, 472, 510 94HB19-35, 94HB17-226, 94HB18-184	27-28は同一個体?
28	"	周文		"	94HB18-168, 261, 359, 481, 482, 94HB10-87, 89, 94HB18-454, 455, 94HB18-186	"
29	"	波状文	地文・羽状網文	"	94HB19-79, 143, 145, 175, 230, 94HB19-142, 94HB19-174, 180, 184	
30	"	"	"	"	94HB19-141, 152, 187, 94HB19-56	
31	"	"	"	"	94HB19-151	
32	"	"	"	"	94HBK8-31, B向林B-1, 94HBH8-9, 94HB18-54, 日向林B-1	
33	"	"	"	"	94HB18-78, 195, 196, 197	
34	"	"	"	"	94HBH9-206, 94HB19-60, 159, 94HB19-6	
35	"	"		"	94HBH10-172, 94HB19-32	
36	"	"		"	94HBF11-19, 93, 94, 94HBF11-27, 99	
37	"	網目状態水文		"	94HBH9-25, 94HB18-149	
38	"	"		"	94HBH7-10	
39	"	波状文		有	94HBF10-120, 150, 94HBF11-30	
40	"	"	地文・羽状網文	"	94HBF10-124, 94HBF11-28, 97, 102, 124	
41	"	"		"	94HB16-1, 44, 57, 99, 100	

42	#	波状文		#	94HB19-208, 209, 224	
43	#	平行沈線文		#	94HB110-39, 43, 60	
44	#	#		#	94HB110-14	
45	#	#	列点状刷突文	#	94HB19-200	
46	#	#	#	#	94HBH10-87	
47	#	#	#	#	94HB110-18	
48	#	#	#	#	94HB110-86	
49	#	#	#	#	94HB110-20	
50	#	#	#	#	94HB110-19	
51	#	#	#	#	94HB110-99	
52	#	#	#	#	94HB110-22	
53	#	爪形文・平行沈線文	地文・羽状繩文	#	94HBK7-12, 13, 20, 21, 48, 55, 134, 143, 183 94HBK7-188	
54	#	#	#	#	94HBK7-80, 130	
55	#	#	#	#	94HBK7-43, 145	
56	#	#	#	#	94HBK7-58, 65, 78, 192	
57	#	#	#	#	94HBK7-6, 47, 53, 184	
58	#	#	#	#	94HBK7-31, 50	
59	#	#	#	#	94HBK7-17, 56, 195	
60	#	#	#	#	94HBK7-10, 139	
61	#	平行沈線文	爪形文・円形竹管の刺突文	#	94HB16-45, 94HB17-53, 54	
62	#	#	#	#	94HB18-112, 94HB18-53, 331	
63	#	#	爪形文	#	94HB18-46	
64	#	#	#	#	94HB17-104	
65	#	#	爪形文・円形竹管の刺突文	#	94HBH9-37	
66	#	波状文	垂下腹帶	#	94HB19-179	
67	#	平行沈線文	爪形文	#	94HB16-25	
68	#	#	#	#	94HBK3-13, 94HBK4-72, 94HB13-13 94HB13-19, 94HBK4-37, 41, 42, 43, 76	
69	#	#	#	#	94HBK4-23, 24	
70	#	#	#	#	94HB14-7	
71	#	#	#	#	94HBK4-49	
72	#	#	#	#	94HBK4-31	
73	#	#	#	#	94HBK4-25	
74	#	#	#	#	94HBK4-50	
75	#	繩文		多	94HB15-31, 32, 33, 34, 35, 36	底部
76	#	羽状繩文		有	94HB19-33, 112, 120	
77	#	#		多	94HB18-65	
78	#	#		有	94HB18-471, 94HB19-123	
79	病	期	繩文	少	94HB19-122, 94HB19-30, 54	
80	病期	・病半	羽状繩文	#	94HB19-206, 207, 212, 235	
81	病期	・病半 (熱浜焼行)	枯節繩文	有	94HB11-43, 44	
82		羽状繩文		多	94HB10-95, 126, 192, 214, 215	
83		#		有	94HB10-183, 94HB11-45, 103, 215, 250	
84		#		#	94HB11-26, 96, 98	
85		#		#	94HB11-121, 122	
86		#		#	94HB11-38	
87		繩文		多	94HB11-225, 226	
88		羽状繩文		有	94HB11-21, 22, 81, 89	
89		#		#	94HB18-127, 128, 129, 444	

90	#	縦文		#	94HB18-212, 232, 285, 337, 340, 367	
91	#	縦文		#	94HB18-77, 78, 79, 80	
92	#	羽状縦文		#	94HB18-195, 196, 319	
93	#	縦文		有	94HBG11-35, 40	
94	#	"		多	94HB10-6	
95	前期・後半 (諸 確 a)	平行沈線文・肋骨文	爪形文列		94HB18-126	
96	#	"	"	#	94HB18-110, 255	
97	#	"	"	#	94HB18-159, 163, 164	
98	#	"	"	#	94HB18-180, 317	
99	#	"	"	円形竹管の刺突文、 地文・縦文	94HBH8-86, 94HB18-53, 438, 94HB 19-161, 94HB18-158, 172, 253, 299, 300 94日向林B-1	
100	#	"	"	"	94HBH9-64, 94HB18-226	
101	#	"	"	"	94HB17-75, 94HB18-81, 86, 87, 88, 94 94HB18-97, 178, 313	
102	#	"	"	"	94HB18-82, 92, 93, 109, 111, 112, 267, 268 94HB18-360	
103	#	縦文			94HBH9-8, 94HB18-40	
104	#	平行沈線文・肋骨文	円形竹管の刺突文		94HBH9-202, 94HB18-174, 297, 298 94HB18-311, 312, 357, 94日向林B-1	
105	#	縦文			94HB18-32, 55, 253	
106	#	"			94HB18-266, 29	
107	#	"			94HB18-106, 344	
108	#	"			94HB18-209	
109	#	"			94HB18-89, 117, 144, 341	
110	#	"			94HB18-119, 368, 370, 371	
111	#	#		少	94HB10-5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 13, 14 94HB10-15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23 94IBF10-25, 26, 27, 30, 31, 33, 39, 49 94HB10-50, 51, 56, 64, 152, 154, 158, 160 94HB10-161	
112	#	"			94HBK7-81, 82, 83, 84, 85, 86, 87 94HBK7-88, 94, 108, 109, 112, 158 94HBK7-159, 160, 161, 162, 163, 164 94HBK7-167, 168, 169, 171, 172, 173 94HBK7-174, 175, 177, 196, 197, 198 94HBK7-199, 206, 201, 202, 203, 204 94HBK7-205, 206, 207, 208, 209, 210 94IBK7-214, 215, 216, 217, 219, 220 94HBK7-221, 222, 223, 225	
113	前期・後半	"			94HBH8-34, 71, 94HB18-183, 361	
114	#	"			94HBH8-31, 94HB18-352, 362	
115	#	"			94HB17-128, 133, 212	
116	#	"			94HBH8-32, 72	底部
117	#	"			94HBE11-13	"
118	前期・後半 (諸 確 a)	平行沈線文・肋骨文	円形竹管の刺突文 爪形文列		94HB18-9, 56, 60, 61, 66, 69, 74, 184 94HB18-247, 249	
119	#	"	"	少	94HB19-163	
120	#	"	"	少	94HB19-236, 94日向林B-1	
121	前期・後半 (諸 確 c)				94HB10-24, 25, 26	
122	後 期	磨消縦文			94HBG9-2	
123	#	"			94HBH9-17, 19	
124	#	"			94HBH9-28	
125	#	"			94HBH9-31	

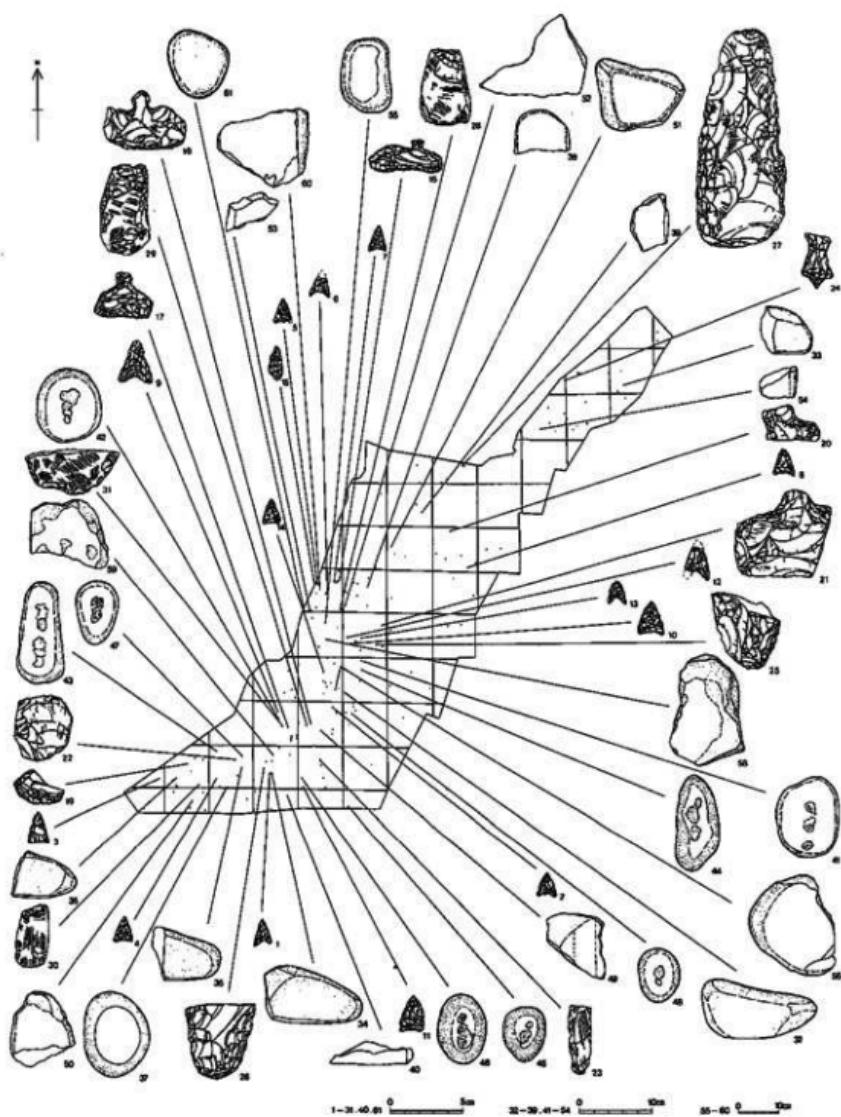


図39 日向林B遺跡の縄文時代の石器

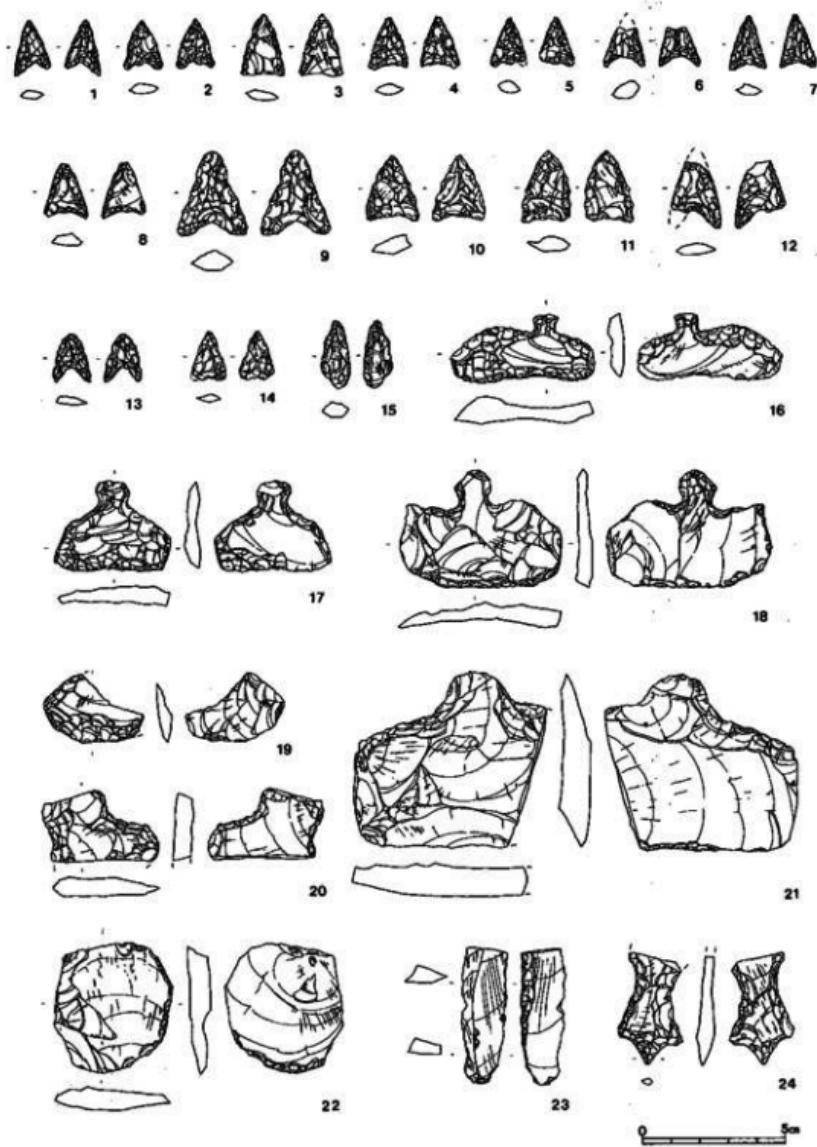
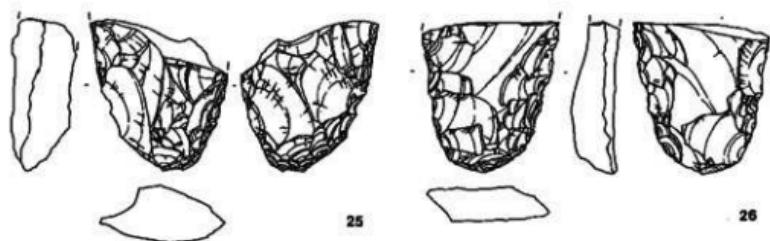


図40 日向林B遺跡 石器I



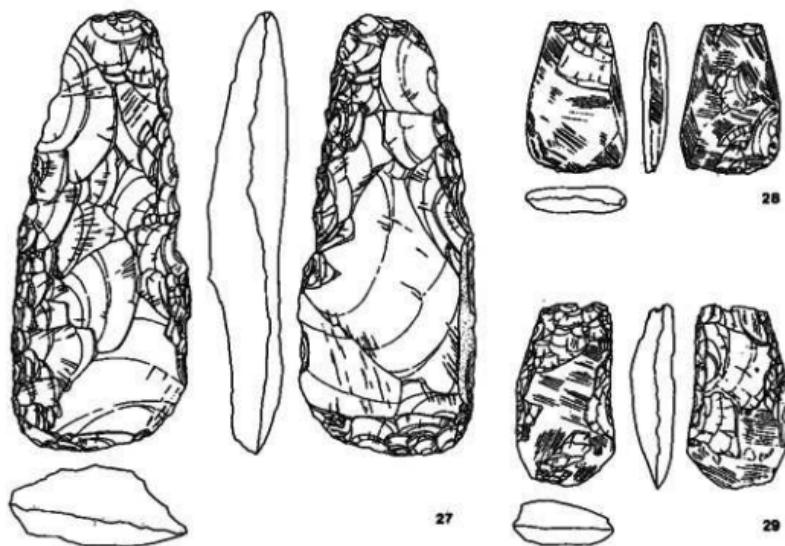
25

26

28

27

29



30

31

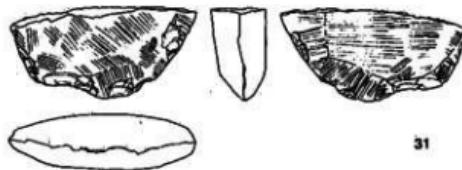


図41 日向林B遺跡 石器2

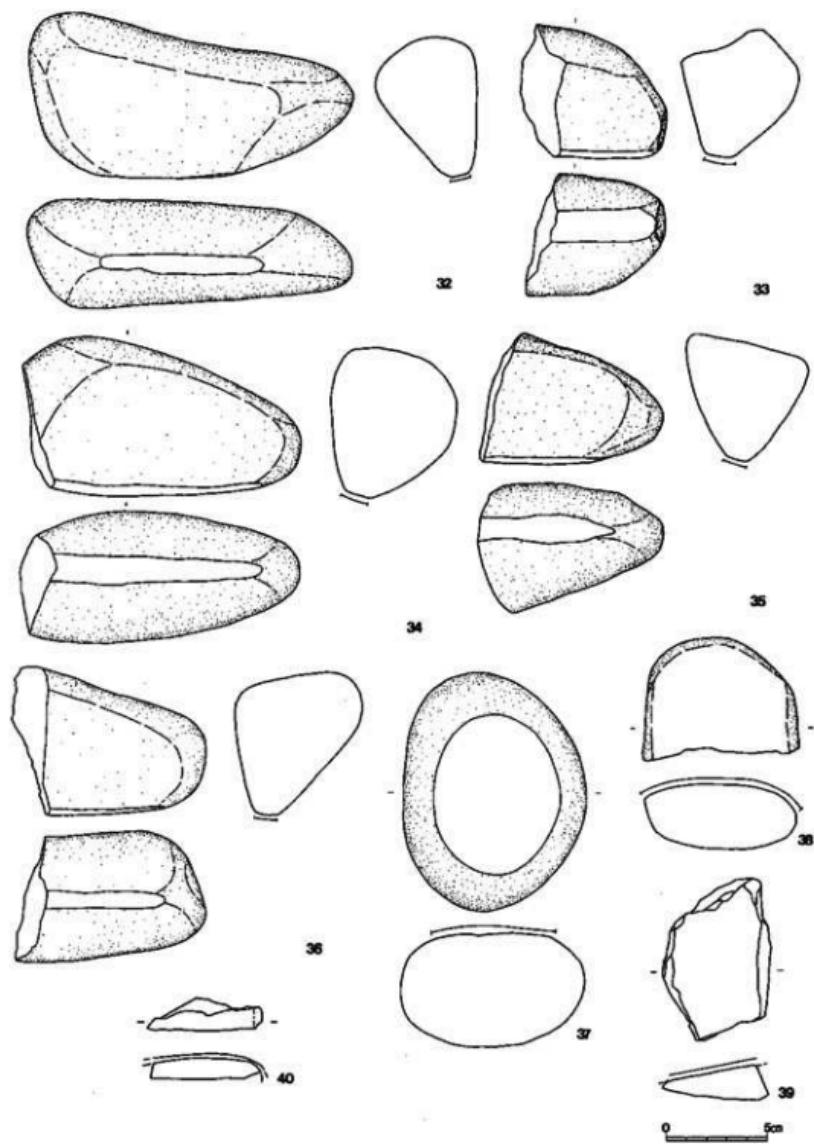


図42 日向林B遺跡 石器 3

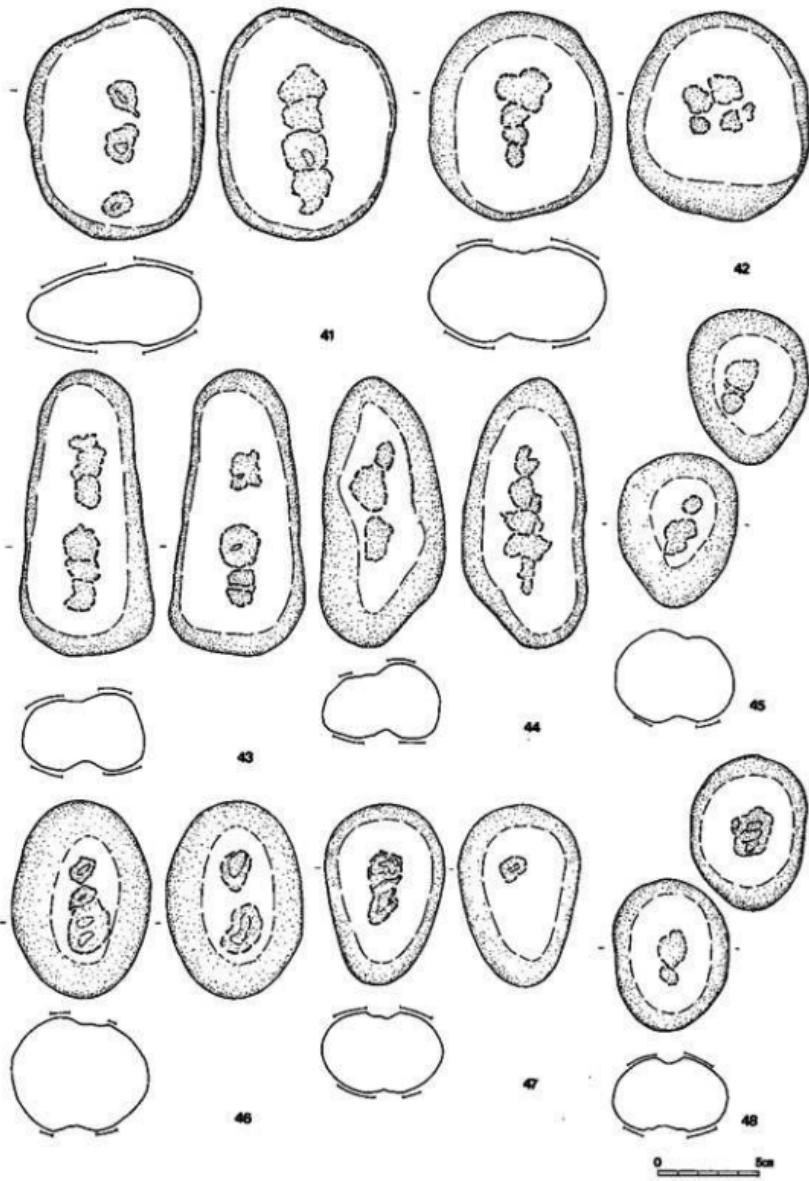


図43 日向林B遺跡 石器4

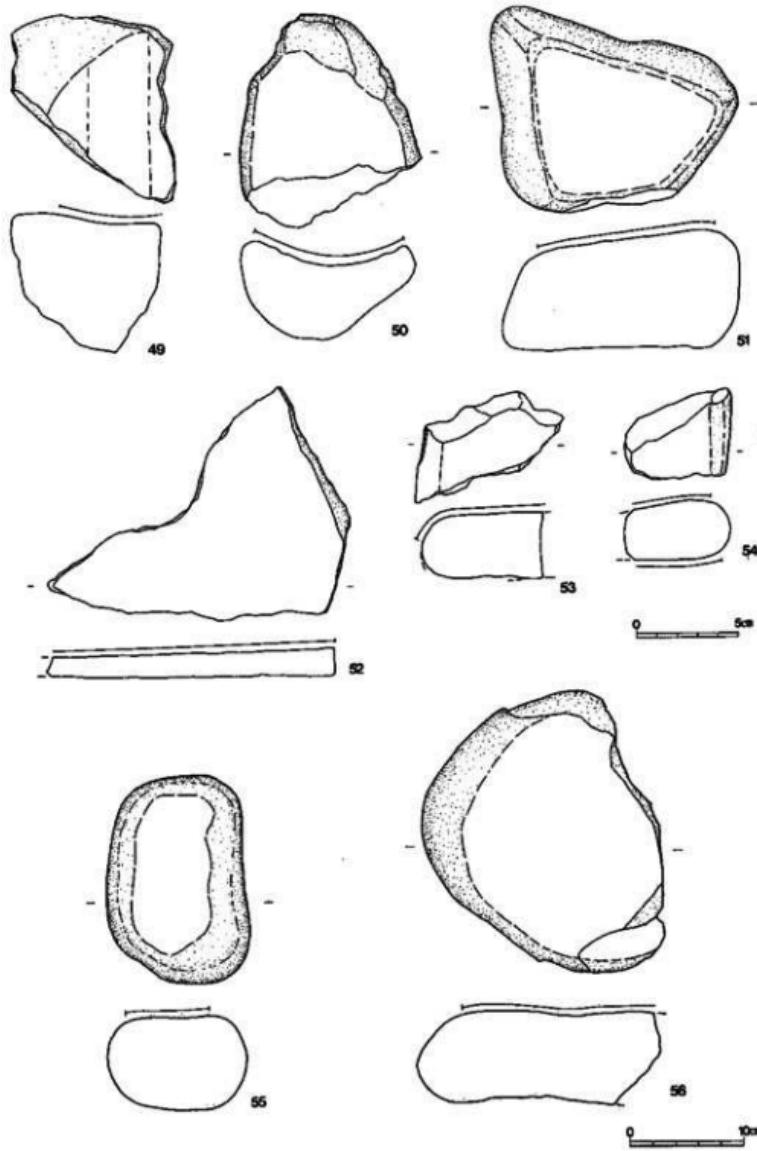


図44 日向林B遺跡 石器5

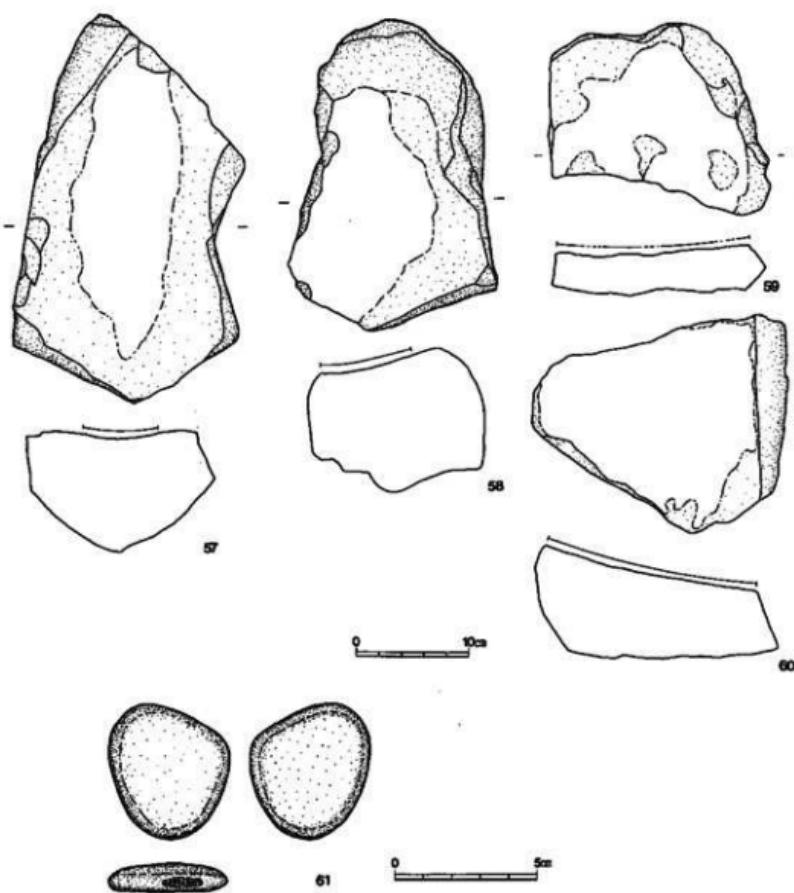


図45 日向林B遺跡 石器 6

表5 日向林B遺跡出土の石器一覧

No	名 称	遺物番号	地 層	石 材	長さ	幅	法 直 (cm, g)	厚さ	重 量	備 考
1	石 鋸	94HB H10-167		黒 嘴 石	2.0	1.3	0.3	0.4		
2	"	94HB I9-38	柏原黑色火山灰下部	"	1.7	1.4	0.4	0.6		
3	"	94HB E10-3	"	"	2.1	1.6	0.3	0.9		
4	"	94HB G10-170	モヤ下部	"	1.8	1.4	0.4	0.7		
5	"	94HB I6-59	柏原黑色火山灰下部	"	1.7	1.2	0.4	0.6		
6	"	94HB I6-71	モヤ上部	"	1.4	1.4	0.6	0.7		
7	"	94HB I6-49	柏原黑色火山灰下部	チ カ 一 ト	1.8	1.2	0.4	0.6		
8	"	94HB L5-9	"	玉 す い	1.9	1.5	0.5	0.9		
9	"	94HB H9-82	"	無斑晶質安山岩	2.9	2.4	0.8	3.7		
10	"	94HB J7-58	"	"	2.3	1.8	0.6	1.8		
11	"	94HB I10-139	柏原黑色火山灰下部	"	2.5	1.7	0.4	1.9		
12	"	94HB J7-30	"	"	2.3	1.8	0.4	1.2		
13	"	94HB J7-38	柏原黑色火山灰下部	"	1.7	1.3	0.3	0.5		
14	"	94HB I8-163	柏原黑色火山灰上部	"	1.7	1.2	0.3	0.5		
15	"	94HB I6-60	モヤ上部	"	2.4	1.0	0.5	1.3		
16	石 跡	94HB I6-5	柏原黑色火山灰下部	珪質岩(チャート)	2.3	5.0	0.8	8.2		
17	"	94HB H9-217	モヤ下部	珪 質 貝 岩	3.1	4.1	0.6	6.7		
18	"	94HB I9-165	柏原黑色火山灰下部	"	4.0	5.8	0.8	16.8		
19	"	94HB F10-42	柏原黑色火山灰中部	"	2.4	3.5	0.6	3.5		
20	"	94HB L5-14	柏原黑色火山灰下部	無斑晶質安山岩	2.5	4.1	0.8	8.5		
21	"	94HB J7-88	"	"	6.2	6.7	1.1	52.3		
22	ス ク レ イ パ ー	94HB G10-32	柏原黑色火山灰上部	"	4.5	4.2	0.8	15.9		
23	"	94HB I10-90	柏原黑色火山灰中部	黒 嘴 石	4.7	1.5	0.6	4.9		
24	錐	94HB N1-2	柏原黑色火山灰上部	無斑晶質安山岩	3.9	2.3	0.6	4.6		
25	石斧もしくは尖頭器 の基部	94HB J7-91	柏原黑色火山灰下部	"	5.3	4.8	2.2	47.0		
26	"	94HB H10-106	"	珪 質 貝 岩	5.2	4.8	1.4	41.6		
27	打 製 石 刃	94HB L3-4	"	珪質砂岩	15.3	6.3	2.6	260		
28	磨 製 石 刃	94HB J6-24	柏原黑色火山灰中部	貝 岩	5.3	3.5	0.9	21.8		
29	"	94HB I9-193	柏原黑色火山灰下部	蛇 紋 岩	6.4	3.5	1.4	45.0		
30	"	94HB F10-195	モヤ上部	"	4.3	2.3	0.7	9.5		
31	"	94HB H9-107	柏原黑色火山灰下部	"	3.2	6.5	1.9	51.3		
32	特 殊 磨 石	94HB J8-230	モヤ上部	砂 岩	8.1	15.9	5.2	830		
33	"	94HB P1-53	柏原黑色火山灰下部	"	5.9	7.0	4.9	300		
34	"	94HB H10-57	"	"	13.7	7.7	6.6	900		
35	"	94HB F10-42	"	輝 石 安 山 岩	6.3	9.0	6.2	360		
36	"	94HB G10-88	"	砂 岩	8.7	9.6	5.6	570		
37	磨 石	94HB G10-135	モヤ上部	"	11.8	9.1	5.6	850		
38	"	94HB J6-8	柏原黑色火山灰下部	"	5.9	7.7	3.3	210		
39	"	94HB K4-58	モヤ上部	"	7.9	5.4	1.8	71.2	鐵石?	
40	"	94HB H11-16	モヤ上部	"	1.7	5.7	1.0	11.9	鐵石?	
41	凹 石	94HB J8-52	柏原黑色火山灰下部	輝 石 安 山 岩	11.4	8.7	3.9	460		
42	"	94HB H9-184	上II上部	"	10.2	8.9	4.7	505		
43	"	94HB G10-5	柏原黑色火山灰中部	"	13.8	6.7	3.6	475		
44	"	94HB J8-71	柏原黑色火山灰下部	"	13.4	6.0	3.7	415		

No	名 称	遺物番号	地 層	石 材	長さ	幅	法量 (cm, g)	備 考
45	四 石	94HB J11-5	柏原黒色火山灰下部	角 面 石 安 山 岩	7.6	5.8	4.4 245	
46	#	94HB I10-137	#	輝 石 安 山 岩	9.7	7.0	5.5 440	
47	#	94HB G10-25	#	#	8.8	6.1	4.0 260	
48	#	94HB J9-100	モヤ上部	#	7.5	5.7	3.5 165	
49	石 黒	94HB I9-94	柏原黒色火山灰下部	#	9.2	7.6	6.1 465	砥石?
50	#	94HB F11-140	#	#	10.4	9.3	6.3 395	
51	#	94HB K5-9	#	#	10.1	12.3	5.7 1000	
52	#	94HB J6-23	#	#	11.5	15.0	1.4 285	
53	#	94HB I6-87	#	#	3.9	7.2	3.3 145	磨石?
54	#	94HB N2-34	柏原黒色火山灰上部	#	4.6	5.3	3.2 80	# ?
55	#	94HB I7-33	上Ⅱ上部	砂 岩	17.7	12.1	8.1 2840	
56	#	94HB I8-12-I8-52	柏原黒色火山灰上部	輝 石 安 山 岩	24.5	21.2	8.3 6120	
57	#	94HB		#	33.1	19.0	11.5 9510	
58	#	94HB I7-96	柏原黒色火山灰上部	#	27.8	17.9	12.7 6980	
59	#	94HB H10-94	柏原黒色火山灰下部	#	14.2	19.6	4.8 1860	
60	#	94HB I6-18	#	#	20.8	21.5	8.3 4520	
61	耀 石	94HB I6-85	#	砂 岩	4.6	4.3	0.9 27.3	

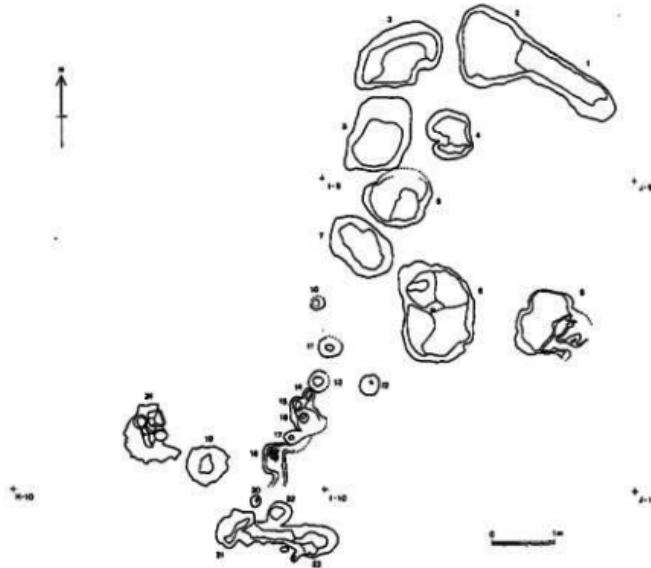


図46 日向林B遺跡の中世遺構分布図



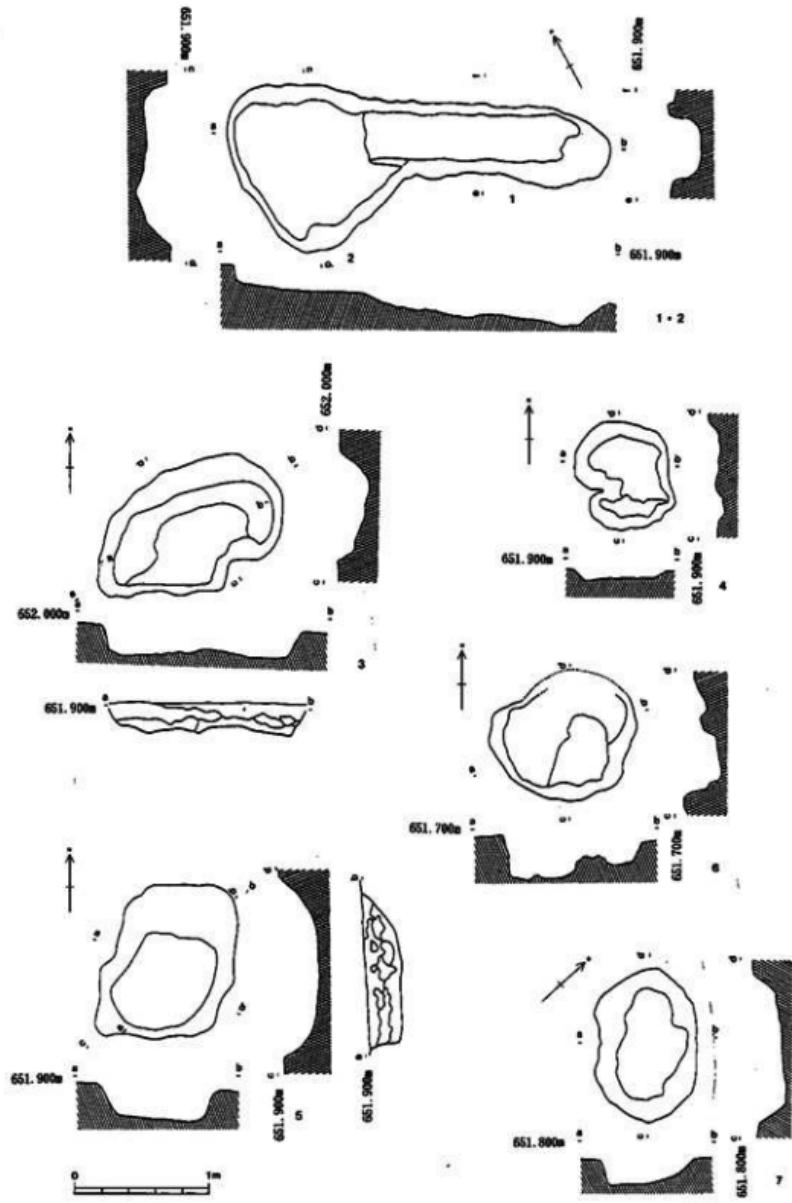


図47 日向林B遺跡の中世遺構1

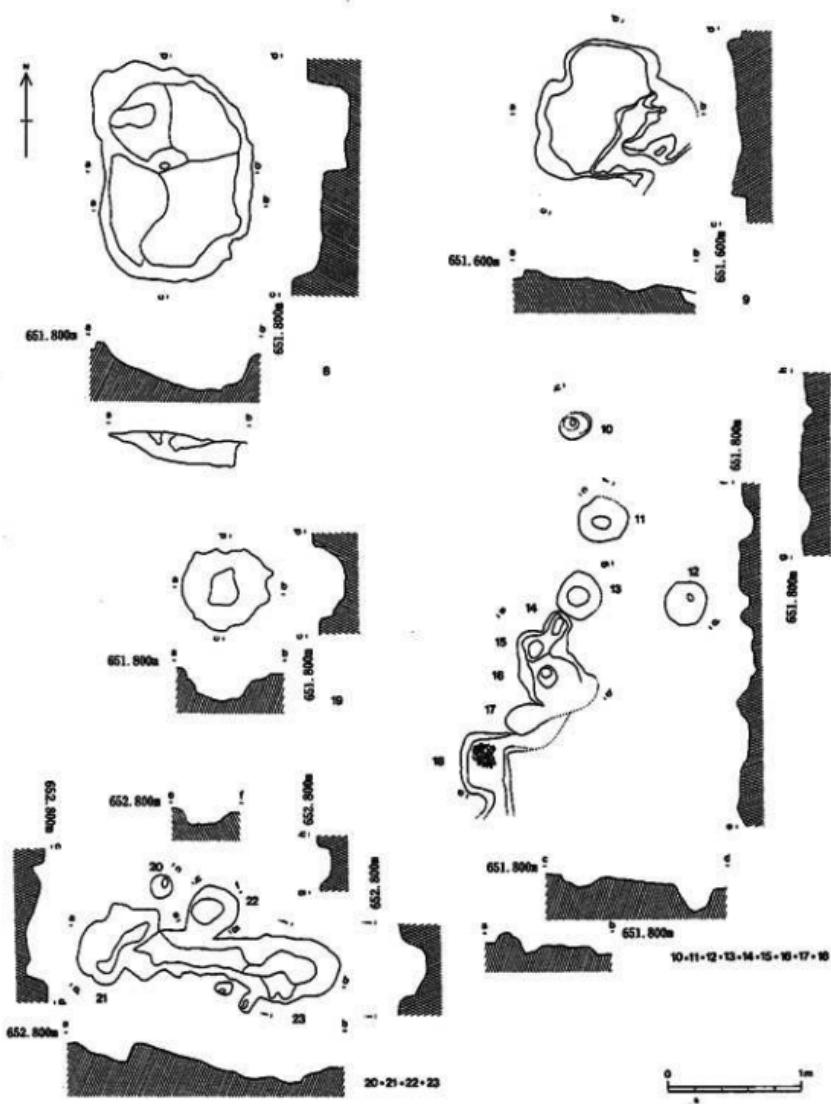


図48 日向林田遺跡の中世造構2

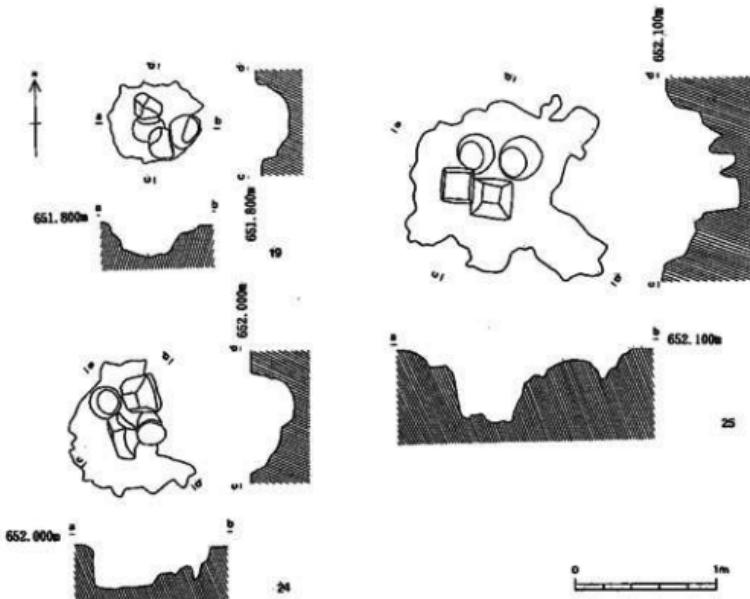


図49 日向林B遺跡の中世遺跡3

表6 日向林B遺跡出土の中世遺物

No	番号	名 称	備 考
1	94HB P1-50	古羅戸・香炉	底部
2	94HB O1-12-26	〃・天目茶碗	口縁
3	94HB I8-44-315-321	中津川窯系陶器かめ	1号土坑出土
4	94HB I5-21	珠洲焼・すり鉢	
5	94HB P2-6	内耳鉢	
6	94HB N2-26	土師質土器・瓶	口縁
7	94HB P2-18	〃	底部
8	94HB J6-28	瑪瑙	
9	94HB K5-16	〃	

表7 日向林B遺跡出土の金属製品 (注)

No	名 称	番 号	初 鋳 年 代	備 考
10	喜光通宝	94 HB-I8-59	北宋AD.1056	篆書体
11	熙寧元宝	94 HB-J9-29	北宋AD.1068	篆書体
12	聖宋元宝	94 HB-J9-31	北宋AD.1101	行書体
13	聖宋通宝	94 HB-H9-193	北宋AD.1037	真書体 硬熱(焼けている)
14	皇宋通宝	94 HB-K3-7	北宋AD.1037	篆書体
15	天禧通宝	94 HB-H9-131	北宋AD.1017	真書体 硬熱
16	嘉口□宝	94 HB-K8-11	北宋AD.1056	半分、真書体。この「喜」のタイプは喜光元宝か喜 祐通宝のどちらか
17	不明	94 HB-H9-60		硬熱(焼けている)
18	寛永通宝	94 HB-J3-4	日本1656-1659	真書体、古見水、駿河国伊豆郡吉谷村、鋳造地 鋳造年代：明暦2-万治2(1656-1659)
19	銅鏡	94 HB-I8-265		
20	銀製品	94 HB-I8-50		用途・年代等不明

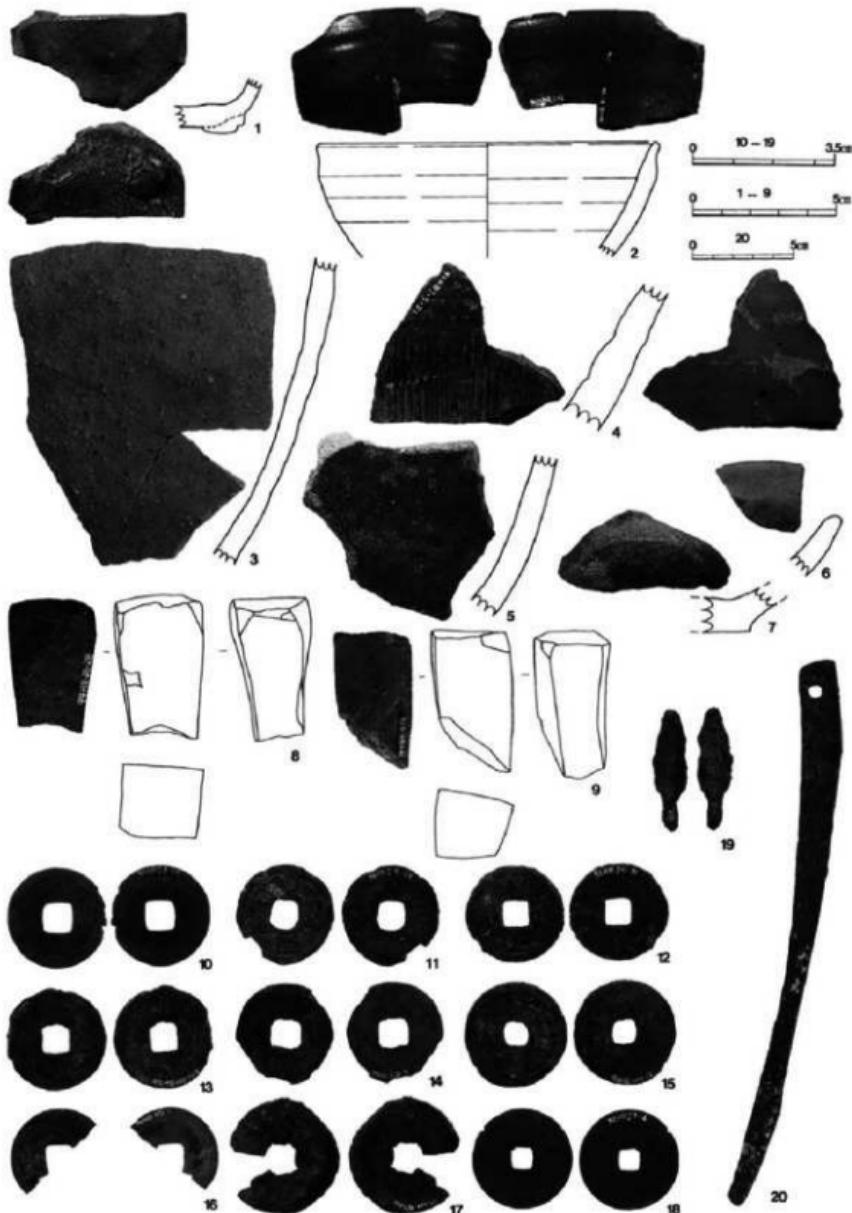


図50 日向林B遺跡の中世遺物

表8 日向林B遺跡出土の五輪塔

	番号	名称	備考
1号	94HBH9-56 94HBH9-55 94HBH9-183 94HBH10-46	五輪塔空輪 〃 火輪 〃 水輪 〃 地輪	高さ 82cm
2号	94HBH7-164 94HBG10-50 94HBH7-163 94HBH7-42	五輪塔空輪 〃 火輪 〃 水輪 〃 地輪	高さ 63cm
3号	94HB 94HB 94HB 94HB	五輪塔空輪 〃 火輪 〃 水輪 〃 地輪	高さ 73cm
4号	94HBH7-2 94HBH10-37 94HBH10-35	五輪塔空輪 〃 火輪 〃 水輪	高さ 71cm
5号	94HBH8-1 94HBH9-50 94HBH9-57	五輪塔空輪 〃 火輪 〃 水輪	高さ 55cm
6号	94HBH10-36 94HBH10-34	五輪塔火輪 〃 水輪	高さ 36cm
7号	94HBH9-164 94HBH9-195	五輪塔火輪 〃 水輪	高さ 30cm
8号	94HBF10-71	五輪塔地輪	

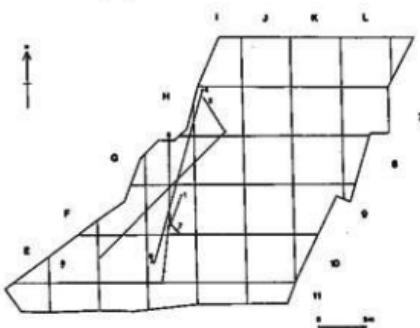


図51 五輪塔分布図

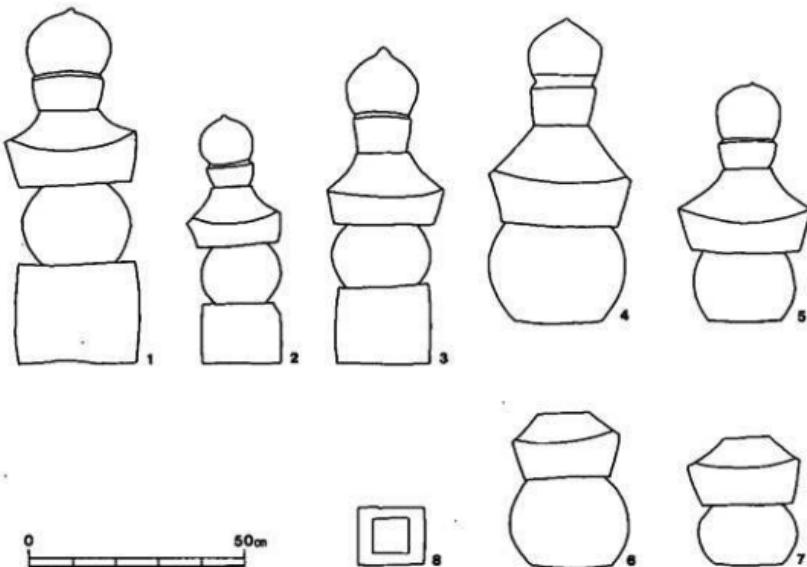


図52 日向林B遺跡の五輪塔

る。いずれも五輪塔の部品が4点出土しているが、同一部位が複数入っていたり、セットになると思われる部品は相互に離れた土壌やグリッドから出土している。

以上の点から確実な火葬施設とみられるのは、21~23号土壌である。19・24・25号土壌は、五輪塔と関連しているが、五輪塔を設置するためのものではなく、多分、五輪塔を廃棄した穴と考えられる。これ以外の土壌は、墓と思われるが、火葬がその土壌でおこなわれたのかどうかは不明である。

7. 中世の遺物

中世遺物としては、陶器・土器・古銭・金属器・石製品などであるが、量は少ない。

1・2は、古戸戸である。1は、灰釉の香炉の底部破片である。脚は難な造りである。15世紀のものと推定される。2は、天目の口縁部である。14世紀末~15世紀はじめごろのものと推定される。

3は、中津川窯系陶器で、大形のかめの破片である。13世紀後半~14世紀前半ごろのものと推定される。

4は、珠洲焼の摺鉢の口縁近くの破片である。柄目が密に入っていることから、15世紀のものと推定される。

5は、内耳鍋の胴部破片である。小片で時期は決定できないが、内耳鍋は14世紀末から17世紀にかけて存在するものである。

6・7は土師質土器で、6は口縁部、7は底部の破片である。ろくろ調整であり、15~16世紀のものと推定される。

8・9は、延石である。これのみで中世のものか近世のものか決定できない。

以上の出土品の中で製作年代がさかのぼるのは、3の中津川窯系陶器のみで、鎌倉時代末ごろと考えられる。それ以外のものはほとんど、15世紀ごろの室町時代の中期に比定される。

10~16は、中国からの渡来銭である。いずれも北宋の初鋳年代が1017~1101年のもので、日本では鎌倉時代末までには流通していた銭貨である。ただし、日本国内でも模倣されたものもあるとのことで、現時点で輸入銭であるか、本邦模造銭であるのか判断できない。また、13・15・17は明らかに熱を受けたものであり、11・12も腐食が激しいため明確でないが、熱を受けている可能性が大きいと思われる。これら被熱銭貨

は、H9・J9など中世墓地の周辺から出土したものであり、いわゆる六道銭として火葬の際に副葬品にされたものと思われる。17は同様に著しい熱を受けた銭貨であるが、原型をとどめていない。

18は江戸時代の寛永通宝で、杏谷銭と呼ばれ、国内流通量の比較的多い銭貨である。

19は、銅鑄、20は鉄製品で、時代は未詳である。

石造物としては五輪塔が出土している。いずれもばらばらな状態で埋蔵されていたものであるが、形状・大きさ・石材などの特徴から組合せを推定した。その結果、完形になるものが1~3号であり、それ以外の4組は不完全なものである。形態からは、室町時代のものと推定される。

8. 日向林田遺跡出土人骨について

1) 遺構出土の人骨の記載

1・2号土壌：頸蓋骨では後頭骨、頭頂骨の破片が含まれる。四肢骨では大脛骨、上腕骨、脛骨、腓骨と思われる骨片、大脛骨脛骨関節面、桡骨頭などが含まれる。性別・年齢は不明である。

3号土壌：頸蓋骨細片が多数で、部位は判別できない。四肢骨は骨体片、膝蓋骨片が認められたのみである。

4号土壌：前頭骨の内板で前頭稜、頭頂骨の一部が残存している。下顎骨はオトガイ部から左オトガイ孔までの下顎体部が残存している。右上顎骨の梨状孔下縁部分が残存しているが、歯槽部は欠損している。四肢骨は右上腕骨骨体遠位部が判別できるが、その他の骨片は正確な判別が困難である。小児の鎖骨とも思われる骨体があるが、熱により変形した指骨の可能性もある。

5号土壌：頸蓋骨では前頭骨内板前頭稜、頭頂骨、左右頸骨が含まれている。四肢骨では上腕骨頭と思われる関節面、上腕骨片、尺骨片が含まれている可能性があるが、全体的に細かい小骨片で、上肢骨と思われる小骨片を多数含む。性別・年齢は不明である。

6号土壌：頸蓋骨では、後頭骨、下顎骨、右側頭骨下頸窩、頭頂骨片と思われる骨片がある。四肢骨では右脛骨栄養孔部、肋骨片、大脛骨片、尺骨片、などの骨片が含まれている。いずれも小骨片である。性別・年齢は不明である。

7号土壌：頸蓋冠から顎面頭蓋、頭蓋底までの各所の骨片が含まれている。いずれも接合が不可能な状態である。四肢骨は細かい多数の骨片の中から指骨、四

肢骨の関節頭、腓骨、尺骨、大脛骨片、膝蓋骨、肋骨片の可能性の高い骨片が含まれている。歯の残存状態は良好でない。

8号土壌：頭頂骨、左右側頭骨下顎窩、左上顎骨口蓋部、右上顎骨（口蓋突起・眼窓下孔）、前頭骨前頭縫などの骨片が含まれる。四肢骨では大脛骨片、脛骨片、腓骨片、指骨片、橈骨片、尺骨片、上腕骨、左右蹠骨、左距骨、脛骨下関節面、左膝蓋骨、などの可能性のある骨片が含まれる。

9号土壌：上腕骨、尺骨と思われる四肢骨片があり、頭蓋骨片は認められない。

10号土壌：頭頂骨、側頭骨の乳様突起部残存している。四肢骨脛骨片、距骨片、寛骨片、肩甲骨片が残存している。

11号土壌：後頭骨片、側頭骨片、下顎骨下顎頭、上顎歯槽部2片、側頭骨片が残存している。一連の資料の中で最も保存状態が良好で接合可能な下顎骨がふくまれる。これは左右中切歯まで齒槽閉鎖、左小臼歯齒槽閉鎖している。歯は生前に脱落していると思われる。齒槽周辺には病変は認められない。右は第3大臼歯まで齧出していると思われることから、成人に達していたものと考えられる。骨体は比較的薄く、肉眼観察では、本資料は成人の女性である印象を受ける。

四肢骨は土圧による圧平で著しく変形、破損した骨片が多数含まれる。

13号土壌：後頭骨、前頭骨、側頭骨錐体部、右側頭骨岩様部、左上顎骨、左下顎骨～下顎枝、オトガイが残存している。多数の四肢骨細片の中から大脛骨片、脛骨片、指骨、寛骨片、上腕骨片、及び椎骨片、肋骨片が検出された。

14号土壌：四肢骨片で大脛骨の脛骨下関節面、膝蓋骨と思われるものを含む。

15号土壌：側頭骨の錐体・頸骨突起・下顎窩・乳様突起部が残存している。後頭骨、頭頂骨片もあり、頭頂骨の縫合部の癒合の状態から成人に達していたものと考えられる。四肢骨は細片が多数で保存状態は良好でない中で、距骨、肩甲骨、尺骨骨体、上腕骨片、距骨、脛骨片の可能性のある骨片が検出された。

16号土壌：頭蓋骨の小骨片で、縫合部分と思われる骨縁であるがいずれの縫合かは不明である。

17号土壌：下顎骨は筋突起2片・下顎枝・左下顎骨から下顎枝にかけての部位・オトガイ棘が残存している。側頭骨頸骨突起・岩様部が残存している。前頭骨の右眉上隆起が残存し、やや大きな隆起である。頸骨

片、上顎骨片などの他小骨片が多数残存しているが、部位を判定できるまでに残存していない。

四肢骨は大脛骨片、脛骨片、膝蓋骨片、寛骨片、尺骨片、脛骨（焼骨）、上腕骨片などが残存しているが、火熱による変形が著しい。その他椎骨の椎体片が多数ある。歯は右小臼歯と思われるもので、上顎下顎の別は不明である。

18号土壌：頭蓋骨片、頸骨、側頭骨下顎窩・岩様部・錐体・頸骨突起、前頭骨、上顎骨、下顎骨オトガイ部が含まれる。四肢骨は上腕骨片、大脛骨片、足根骨、尺骨骨片、大脛骨片などの小さい骨片が多数ある。歯は、形状から切歯と考えられる。

21号土壌：頭蓋骨片が多数ある中で、下顎骨片、側頭骨錐体・下顎窩、前頭骨などが含まれる。四肢骨はいずれも変形が著しく正確な判別が困難であるが、脛骨片、大脛骨片、脛骨片、上腕骨頭、大脛骨頭、距骨、寛骨片、右踵骨、中手骨片、橈骨片、椎骨片など多数の小骨片が含まれる。

22号土壌：頭蓋骨では前頭骨、側頭骨、頭頂骨片が含まれる。四肢骨は大脛骨、上腕骨（鈎突窓）、脛骨、腓骨、左右距骨、踵骨、指骨片、脛骨片などが含まれ、骨体部位と思われる破片が多数残存している。その他椎骨片も含まれる。歯は上顎大臼歯が1片ある。

23号土壌：頭蓋骨は側頭骨、頭頂骨片、後頭骨片、頸骨の一部、頸骨か前頭骨か判別できないが眼窓縫と思われる骨片、下顎骨の下顎角と思われる骨片が残存している。四肢骨は寛骨、足根骨、上腕骨、下肢骨片が多数確認できたが、保存状態は良好ではない。歯は永久歯であることが確認できるのみである。歯が本土境に埋葬された個体のものであるとするなら成人で、性別は不明である。

その他：頭蓋骨では頭頂骨、側頭骨頸骨突起、側頭骨岩様部、右下顎窩、および蝶形骨の一部と思われる骨片が含まれる。四肢骨では左肩甲骨片、右膝蓋骨、肋骨片、上腕骨片で、特に上腕骨と思われるものは変形が著しい。いずれによっても性別・年齢は不明である。

2) 全体的な特徴

いずれの骨も火熱を受けており、骨の歪みや亀裂などの変形が著しい。色調も殆どが灰白色で、黒色のものが多少混じる程度である。骨に歪みや亀裂が生じるには700℃～800℃の温度が必要（池田1981）で、灰白色になるのは1000℃ほど（平野1935）である。このこ

とから、本遺構出土の人骨の焼成温度は1000℃以上に達していたと考えられる。

土壇内から出土した人骨は重複する部位が少ないとから、各土壇に約1体分またはそれ以下含まれていた可能性がある。

年齢推定の指標となる歯に関係する部位や、体肢骨の骨端部位の検出が困難なことから、年齢構成は正確に推定できないが、今回確認できたものでは成人に達したものを主体としている。

骨の変形が著しく、また細片になりすぎていることもあり、性別の判定は殆ど不可能である。火熱による骨の縮小を考慮しても、筋の付着部や骨体に差が見出されることから、男女とも含まれている可能性は十分に考えられる。

身長推定に必要な四肢長骨の計測は不可能であるが、肉眼で見た段階では華奢な印象を受ける。

これらの土壇内から、明らかに動物骨と思われるもの検出されなかった。また、明らかに人骨と思われる骨片には、加工の痕跡は認められなかった。

IV まとめ

1. 旧石器時代の成果（貫ノ木遺跡）

1993年（平成5）より上信越自動車道とそれに開通する道路等の公共事業が本格的にはじまり、信濃町内における開発に伴う遺跡調査は、高速道路ルートにそった野尻湖南・西方の丘陵部に集中するようになった。この地域は、旧石器時代の野尻湖遺跡群の分布域とも一致し、多くの発掘地点で旧石器時代の遺構・遺物にあうこととなった。

貫ノ木遺跡金氏住宅地点の調査は、旧石器時代の調査があいつぐ中にあっても重要な成果をもっている。野尻湖遺跡群の文化層層序は、野尻湖発掘調査団の陸上発掘によって、おもに仲町遺跡と貫ノ木遺跡B地点の層序から組み立てられたものである（野尻湖地質グループ、1990；野尻湖人類考古グループ、1990；1994）。仲町遺跡は、上II上部以上と黒色帯文化層に多くの成果が得られているが、上II最下部～上II上部、すなわち從来「黄褐色ローム層」とされていた層準の層分は、1988年に貫ノ木遺跡B地点で確立されたものである。

一方、貫ノ木遺跡の高速道用地内では大規模な発掘調査によって、おもに黒色帯文化層（Vb層）から砥石・石斧などがまとまって出土しており、注目を集めている（大竹、1995）。金氏住宅地点は、これら2ヶ所の中間に位置あり、大きな考古学的成果を出している長野県埋蔵文化財センターによる貫ノ木遺跡の発掘調査の成果と、層位学的にそして古環境を重視してすなわち從来「黄褐色ローム層」とされていた層準の層分は、1988年に貫ノ木遺跡B地点で確立されたものである。

黒色帯文化層では、ごく限られた場所から局部磨製石斧・台形状のナイフ形石器（台形梯石器）を中心とした石器群がえられた。これらの石器が集中して出土したことは、この地点の性格を考える上で重要な要素となると思われる。

上II最下部文化層では、ナイフ形石器を中心とした小さなブロックが確認された。ナイフ形石器3点がえられているが、これら2種類のナイフ形石器は野尻湖周辺では新しい形態のものである。二側縁調整で基部がやや内湾するタイプは、群馬県後田遺跡（麻生編、1987）などで出土しているものである。厚手でやや幅広の剝片の一側縁に刃渡し加工するタイプは、群馬県房谷戸遺跡第2文化層（谷藤、1992）などにみられる石器である^{注2)}。後田遺跡は群馬県の「岩宿時代（旧

石器時代）Ⅰ期の第3段階」とされており、房谷戸遺跡第2文化層は同じく「第2段階」とされており（麻生・大工原、1994）、ともにA-Tn火山灰より下位で南関東のⅦ層段階およびそれより下位に対比されている。

この文化層では、從来、清明台遺跡でナイフ形石器がえられているほかは、まとまった石器群が確認されていない。近年、貫ノ木遺跡C地点（渡辺・中村、1993）や貫ノ木遺跡の高速道用地内（鶴田、1994）でこの層準の調査がおこなわれているが、その内容が十分、整理・報告されてなく詳細は不明である。このような状況の中で、金氏住宅地点ではこの時期の石器について新たな資料を提供したといえよう^{注3)}。

上II上部文化層では、石刀素材の基部調整ナイフ形石器を中心とした石器群が出土した。ナイフ形石器8点、彫器12点など長い面積の割に多くの石器・礫群が集中していた。ナイフ形石器は、基部の両側縁と先端の片側縁を中心に調整されており、1側縁の全体に調整がおこなわれるものも含まれる。ナイフ形石器の形態は、基部調整という点では杉久保型に近いが、調整の位置が若干異なっており、新潟県権ノ木平遺跡（中村孝、1978）や仲町遺跡II区V-36グリッド（野尻湖人類考古グループ、1984）の上II上部文化層でこのタイプのナイフ形石器がえられている。彫器は神山型、小版型をはじめ多様なものを含んでいる。このような彫器の組成上の特徴は、杉久保遺跡（森嶋、1976）、上ノ原遺跡（中村由・中村教、1994）でも確認されており、東北日本の日本海側のナイフ形石器文化の文化内容を考えるうえでも、重要な点である。

上II上部文化層では、9基の礫群が確認された。この中で、3号礫群と5号礫群は平面形態のうえからは、上ノ原遺跡で石圓い炉と判斷した5基の遺構の中に共通した点がみられる。今回の、石圓い炉の判定条件（中村由、1993）として提示した要素の中では、焼土・大きな炭化物などが伴わないこと、炉心側赤化がみられないことなど条件は半分でない。しかし、旧石器時代の遺構や有機質の遺物があまり残されていない現状で、当時の人類の生活と社会を復元するためには、残されたわずかな資料を大切にし、それらをたよりに研究を進めるしかない。この点で、今回の礫群は要素としては十分でない部分もあるが、あえて炉址としての可能性を検討することも必要だと考えている。

2. 繩文時代早期の成果（日向林B遺跡・貫ノ木遺

跡）

日向林B遺跡からは、繩文時代早期末の縄条体压痕土器と条痕文土器が出土した。いずれも小片であり、点数も限られている。これだけでは土器の器形や組成は不明であるが、纖維が多く含み、厚手で焼成があまりよくないという早期末の特徴的な土器である。

この時期の遺跡は、信濃町には多く確認されており、この地域に広く分布していたことと思われる。縄条体压痕土器は、長野県・新潟県における山間地の調査研究の進展とともに最近注目されつつある（小熊、1990；綿田ほか編、1993；小笠原ほか、1994）ものであり、この点で信濃町における今後の調査が期待されるところである。

なお、点数は少ないながら貫ノ木遺跡では、早期前半の押型文土器が出土した。橋円文と格子目文という組成である。点数が少なく位置付け等不明の点が多いが、信濃町には押型文期の遺跡がきわめて多いという特徴（中村由・中村教編、1994）にまた資料を付け加える形となった。

3. 繩文時代前期の成果（日向林B遺跡）

日向林B遺跡の土器の大半は前期前半のおわりごろの黒浜式併行のものと前期後半のはじめごろの諸磯a式併行のものである。

黒浜式併行のものでは、半載竹管による波状文や平行沈線文、内側竹管の爪形文列などで体上部に文様を施し、下半部の地文には羽状纏文や斜纏文を施したもののが多いようである。上半部に半載竹管による平行沈線文で大形の菱形のモチーフの文様が描かれ、下半部の地文は纏文である土器が出土している。この土器は、飯山市有尾遺跡（金井、1982）を標式遺跡とする有尾式土器の特徴をもつ。この点からは、地理的にみても有尾式との関係が問題となるところであるが、今後の課題である。

諸磯a式併行のものでは、纖維を含まず、半載竹管による平行沈線文で直線的・曲線的な肋骨文を主体とし、口縁にそって爪形文列をめぐらし、縦位に円形竹管の刺突文列を体上部に施し、下半部の地文は斜纏文である土器が多い。

従来、信濃町では繩文前期の遺物が散発等でえられたり、発掘でわずかに出土したことはあった（小林、1976）が、十分には前期の頃の様相がつかめなかつた。今回、前期の中ごろを中心として大量の土器・石器がえられたことは、内陸側の信州と北陸側の新潟県

との間に位置し、これまで空白地帯となっていた信濃町周辺の縄文前期の遺跡の様相の一端を明らかにした点で、大きな成果であるといえる。

4. 中世墓地の調査（日向林B遺跡）

日向林B遺跡では、室町時代中期の15世紀ごろを中心とした墓地が確認された。陶磁器等の遺物は少なかったが、複数の五輪塔や大量の人骨が出土した。五輪塔は、かなり倒れ、位置が動かされた状態で埋もれていた。この移動は、かなり古い段階のものと推定される。人骨が入っていた土壇と五輪塔との関係は不明である。

今回の人骨はそれぞれの土壤ごとに、多分1人分ずつ埋葬されたものと推測される。かなり高温の火熱を受けており、すべて火葬によるものである。火熱による破損が著しく、被葬者の年齢や性別はほとんど判明できなかつた。

富濃地区には、中世の割ヶ嶽城跡（矢野、1991）が知られている。城跡は柴津の城山にあり、日向林B遺跡からは直線距離で約1.5kmである。割ヶ嶽城の成立時期は不明であるが、1561年（永禄4）の川中島の合戦の一環で、割ヶ嶽城は武田方により攻め落とされている。また、日向林B遺跡のすぐ南東の薬師岳の頂上に中世の狼煙台と推定される遺構が確認されている（信濃中学校3年2組・遠藤公洋、1993）。日向林B遺跡の中世墓地は、これら富濃地区の中世城館跡の存在となんらかの関係がある可能性もある。

信濃町における中世遺跡の調査としては、豊仙寺跡（柳沢国雄ほか、1985）、辻屋遺跡（1992年発掘）赤川遺跡（1991・92年発掘）などに次ぐものである。建造物や文書・伝世品がほとんど残されていない地域にとって、今回の中世遺跡の調査は、信濃町の歴史を充実する上でもきわめて重要な資料となっていくものと思われる。

5. 貫ノ木遺跡・日向林B遺跡の年代

今回の発掘により多くの遺物が出土した各文化層の年代は、地質層位、火山灰、考古遺物などの資料から以下のように推定される。

貫ノ木遺跡金氏住宅地点

柏原黒色火山灰層下底 縄文時代早期 約8千年前
上II上部文化層 ナイフ形石器文化 約1.7~1.4
万年前
上II最下部文化層 ナイフ形石器文化 約2.7万年前

前頃
黒色帯文化層 ナイフ形石器文化 約2.9~2.7
万年前

日向林B遺跡

表土直下 室町時代 15世紀（約5
~6百年前）
柏原黒色火山灰層下部 縄文時代前期 約5.5千年前
柏原黒色火山灰層下底 縄文時代早期 約7千年前

注1) 日向林B遺跡銭貨一覧は、藤沢高広氏に作成していただいたものである。

注2) 貫ノ木遺跡の石器に関して麻庄敏隆氏に類例のご教示をたまわった。

注3) 貫ノ木遺跡上II最下部文化層のナイフ形石器には、東裏遺跡2区で出土した「剥片尖頭器」やナイフ形石器（酒井・岡村、1994）に近い調整がみられる。東裏遺跡の石器群は長野県では初めて確認されたものであり、その層位的・編年的位置づけが問題となっている。この点上で上II最下部文化層の石器群の検討が進むことが期待されている。

文献

- 麻生敏隆編 1987 後田遺跡、旧石器編。関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書、15集、群馬県教育委員会、358P.
- ・大工原豊 1994 I期、AT降灰以前のナイフ形石器文化。「群馬県の岩宿時代の変遷と特徴、予稿集」、笠懸野岩宿文化資料館、25-29.
- 金井正三 1982 有尾遺跡、「長野県史・考古資料編・主要遺跡（北・東信）」、111-113.
- 小林 孝 1976 縄文時代。「長野県上水内郡誌・歴史編」、52-81.
- 森鴎 稔 1976 旧石器時代。「長野県上水内郡誌・歴史編」、1-51.
- 中村孝三郎 1978 越後の石器、学生社、145p.
- 中村由克 1993 細石刃文化の石器いのこ、「細石刃文化研究の新たな展開」II、佐久考古学会、227-234.
- ・中村敦子編 1994 丸谷地遺跡・大道下遺跡、信濃町教育委員会、78p.
- ・—— 1994 信濃町上ノ原遺跡の第2次調査、「第6回長野県旧石器文化研究交流会、発表

資料」26-32。

野尻湖地質グループ 1990 野尻湖発掘地とその周辺の地質、その6（1986-1988）。「野尻湖の発掘5」。地図研専報、37、1-37。

野尻湖人類考古グループ 1984 野尻仲町遺跡と向新田遺跡の旧石器・縄文草創期文化。「野尻湖の発掘3」。地図研専報、27、213-245。

———1990 野尻湖遺跡群の旧石器文化II。「野尻湖発掘の考古学的成果」第2集、野尻湖人類考古グループ、69p.

———1994 野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化。野尻湖博物館研究報告、2、1-16。

小笠原永隆・野尻湖人類考古グループ 1994 球磨島遺跡探集の縄文土器、野尻湖博物館研究報告、2、17-22。

小熊博史 1990 縄文時代早期終末における絆条体圧痕土器の一様相、新潟県中魚沼地方の資料を中心に。信濃、41巻、4号、1-28。

大竹憲昭 1995 信濃町貫ノ木遺跡の調査、「第7回長野県旧石器文化研究交流会、発表資料」、3-12。

酒井健次・岡村秀雄 1994 信濃町東妻遺跡の調査。「第6回長野県旧石器文化研究交流会、発表資料」、8-12。

信濃中学校3年2組・遠藤公洋 1993 信濃町山城探訪。平成4年度信濃中学校3年2組クラス研究収録、94p.（未公表資料）

谷藤保彦編 1992 房谷戸遺跡II、関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書、第40集、群馬県教育委員会、666p.

鶴田典昭 1994 信濃町貫ノ木遺跡の調査。「第6回長野県旧石器文化研究交流会、発表資料」、5-7。

藤田弘実ほか編 1993 向六工遺跡・十二遺跡・野口遺跡・古司遺跡・子尾尾遺跡、中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書、12、長野県埋蔵文化財センター、235p.

渡辺哲也・中村由克 1993 信濃町貫ノ木遺跡の調査、「第5回長野県旧石器文化研究交流会、発表要旨」1-2。

柳沢国雄ほか 1985 龍仙寺遺跡調査報告書、信濃町教育委員会、42p.

矢野恒雄 1991 割ケ嶽城と城下村の考察、信濃、43巻、11号、60-69。

平野賢二 1935 歯牙の熱処理に対する研究（第一篇）人類歯牙の熱処理に就いて。口腔病学雑誌、9、375-393。

池田次郎 1981 出土火葬骨について、「太安萬安呂墓」。奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書、第43冊、79-88。

宮崎重雄・外山和夫・飯島義雄 1985 日本先史時代におけるヒトの歯および歯の穿孔について、八束脛洞窟遺跡資料を中心に。群馬県立博物館紀要、6、77-108。

中条町教育委員会 1993 新潟県北蒲原郡中条町築地裏山遺跡、中条町埋蔵文化財調査報告書、3、31-33。西沢寿亮・小松虎 1978 長野県佐久市月明沢遺跡発掘資料について、人歯牙加工品の出土、長野県考古学会誌、31、32-37。

図版1 貫ノ木遺跡の発掘



2



3



4



5

1：全景、2・3：調査風景、4：石刀、5：石核（ともに上Ⅱ上部文化層）

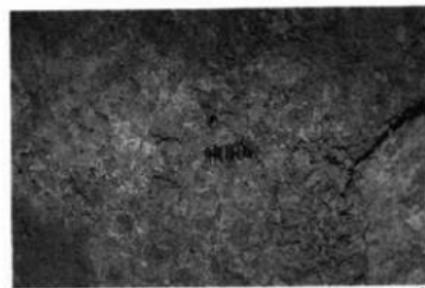
図版2 貫ノ木遺跡の発掘



2



3



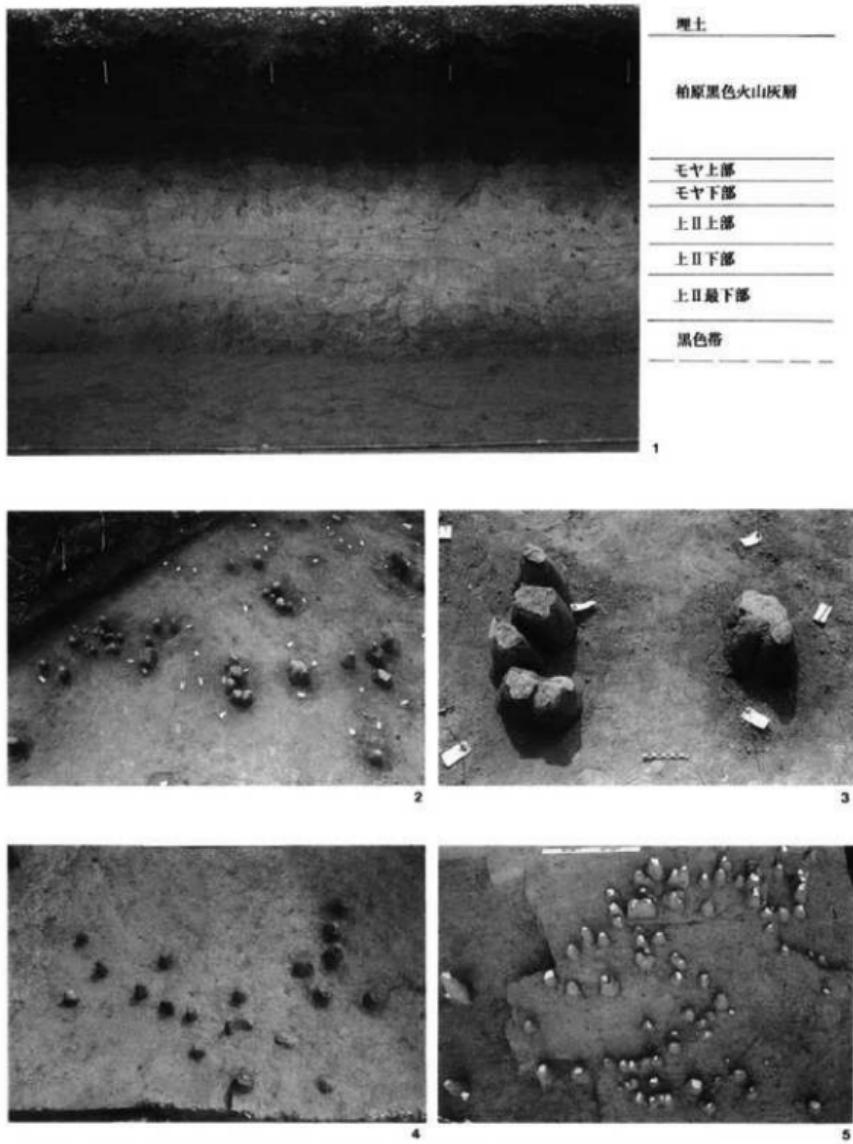
4



5

1：局部磨製石斧。2：台形状のナイフ形石器。3：黒色帶文化層中の配石・ブロック。4：炭化物（以上黒色帶文化層）。5：有茎尖頭器（縄文草創期）

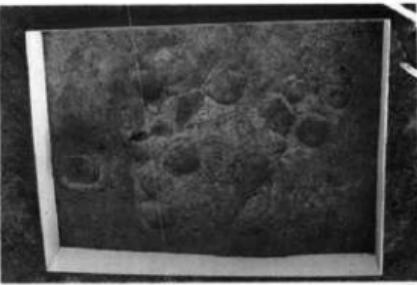
図版3 貫ノ木遺跡の層位・礫群



図版4 貫ノ木遺跡の櫛群（5号）



2



3



4



5

1 : 5号櫛群、2 : 櫛群の記録と古地磁気サンプル採取、3～5 : 櫛群のレプリカ作製

図版5 日向林B遺跡の発掘



1



2



3



4



5

1～3：発掘風景、4・5：縄文土器の出土状況

図版 6 日向林B遺跡の中世遺構



1



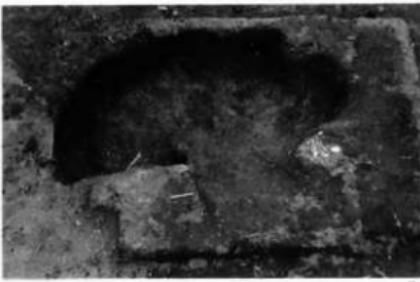
2



3



4



5

1: 調査風景、2: 1号土壙（中津川窯系陶器が出土）、3: 土壙の面録、4・5: 人骨の出土状況

図版7 日向林B遺跡の発掘



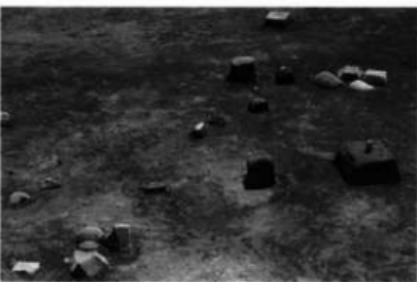
2



3



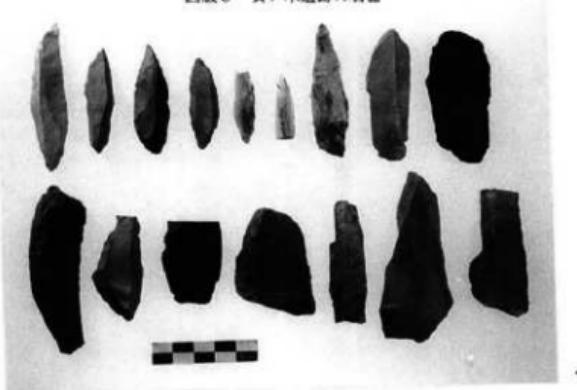
4



5

1：現地説明会（6月25日）、2・4：発掘中のひととき、3・5：五輪塔の出土状況

図版8 貫ノ木遺跡の石器



1：ナイフ形石器・形器、2：スポール・石刀（以上上Ⅱ上部文化層）右下3点 ナイフ形石器（上Ⅱ最下部文化層）、3：石核（上Ⅱ上部文化層）

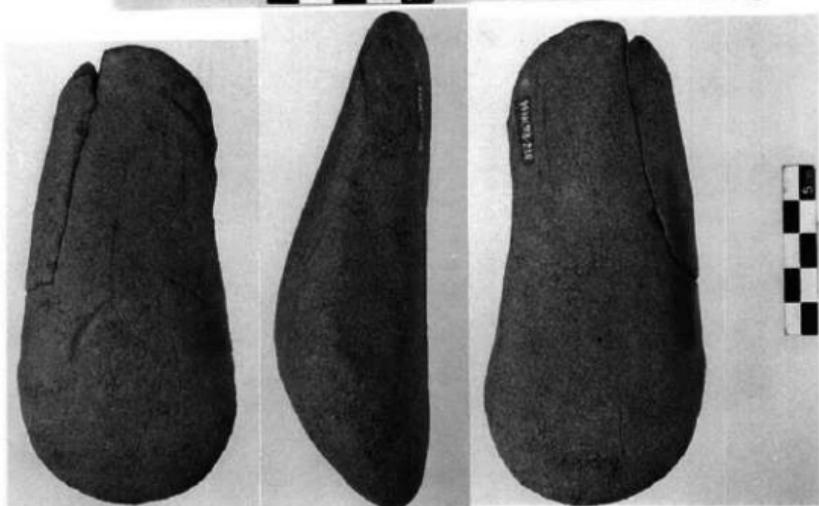
図版9 貫ノ木遺跡の石器



1

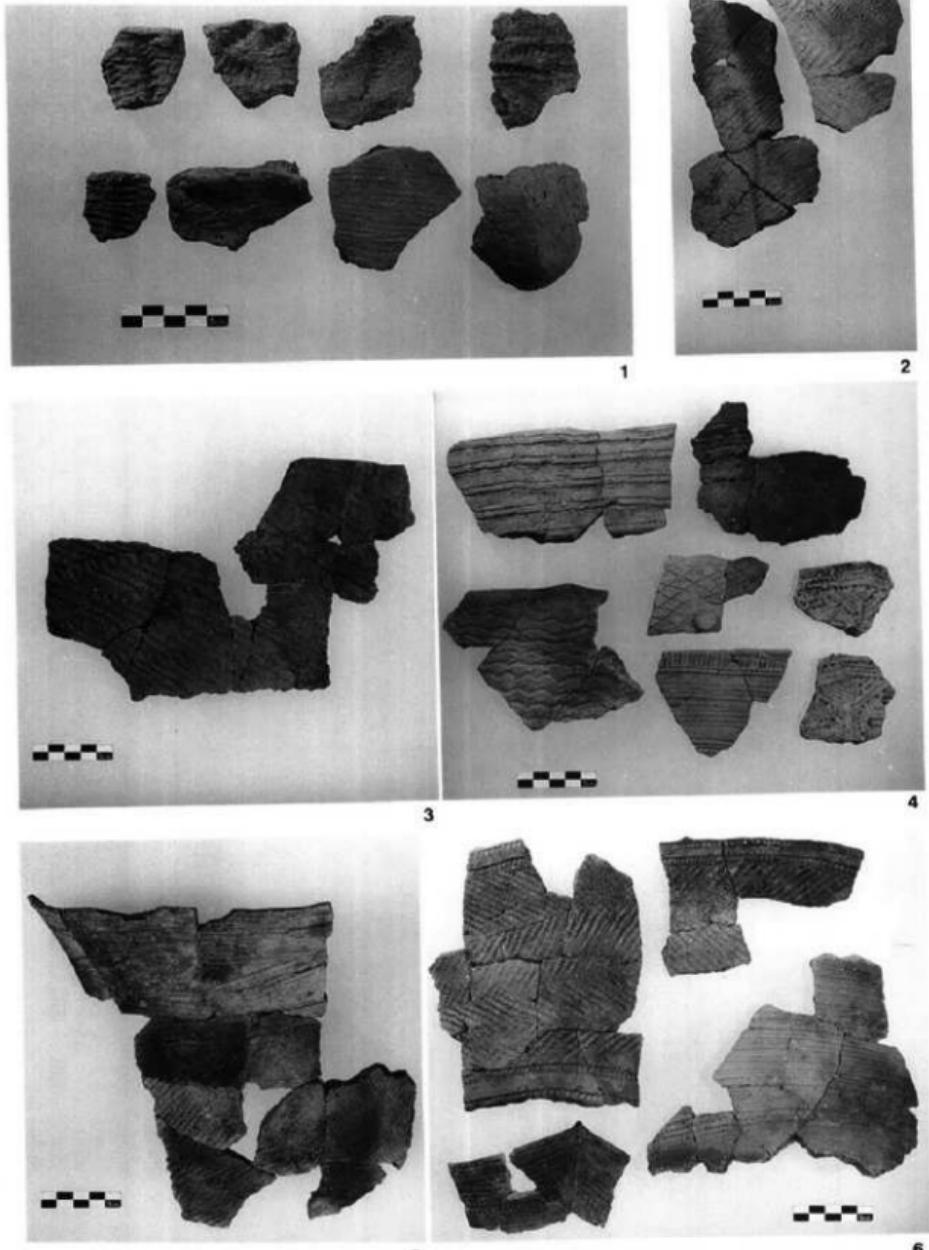


2



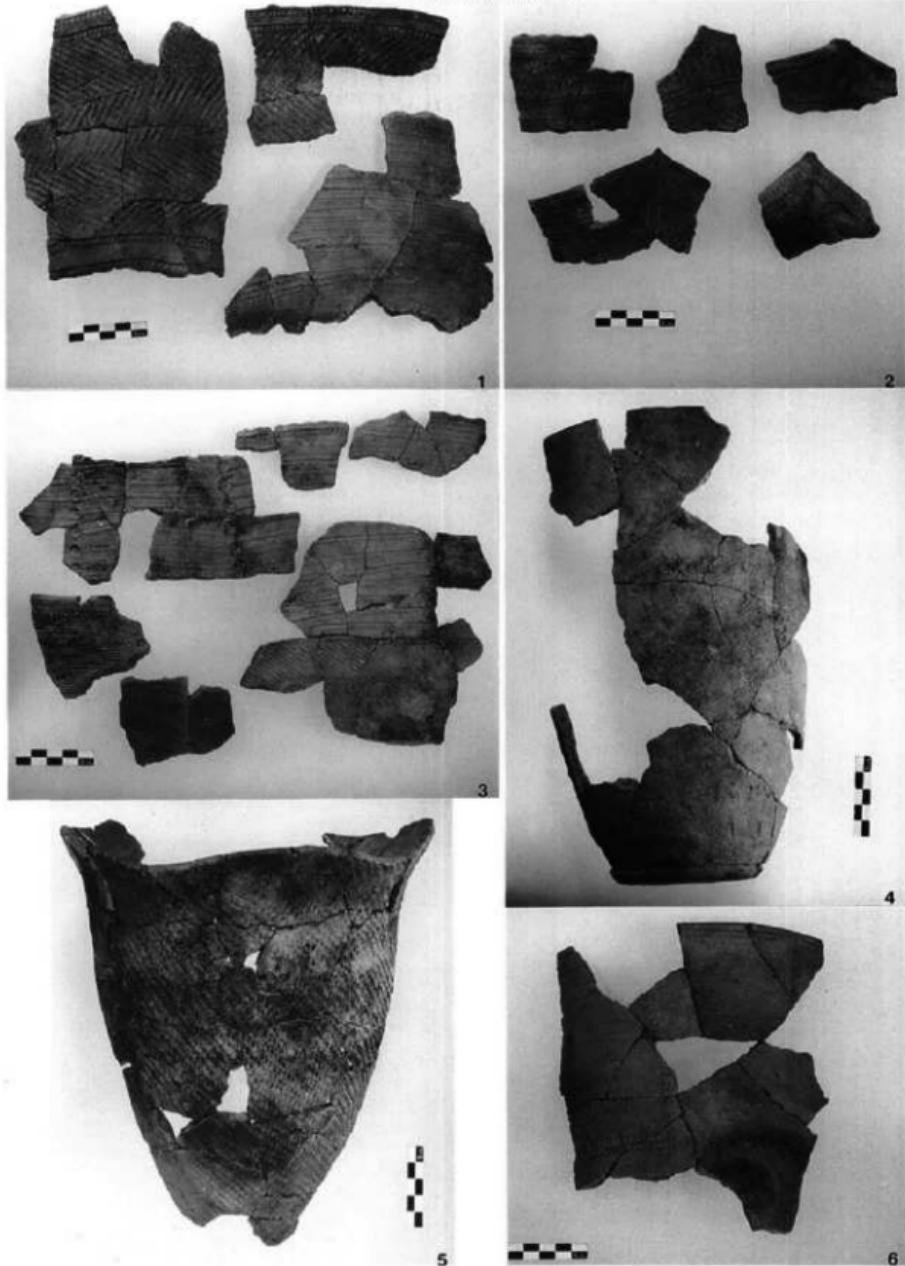
3

1・2：台形状のナイフ形石器・局部磨製石斧（黒色帶文化層）、3：敲石



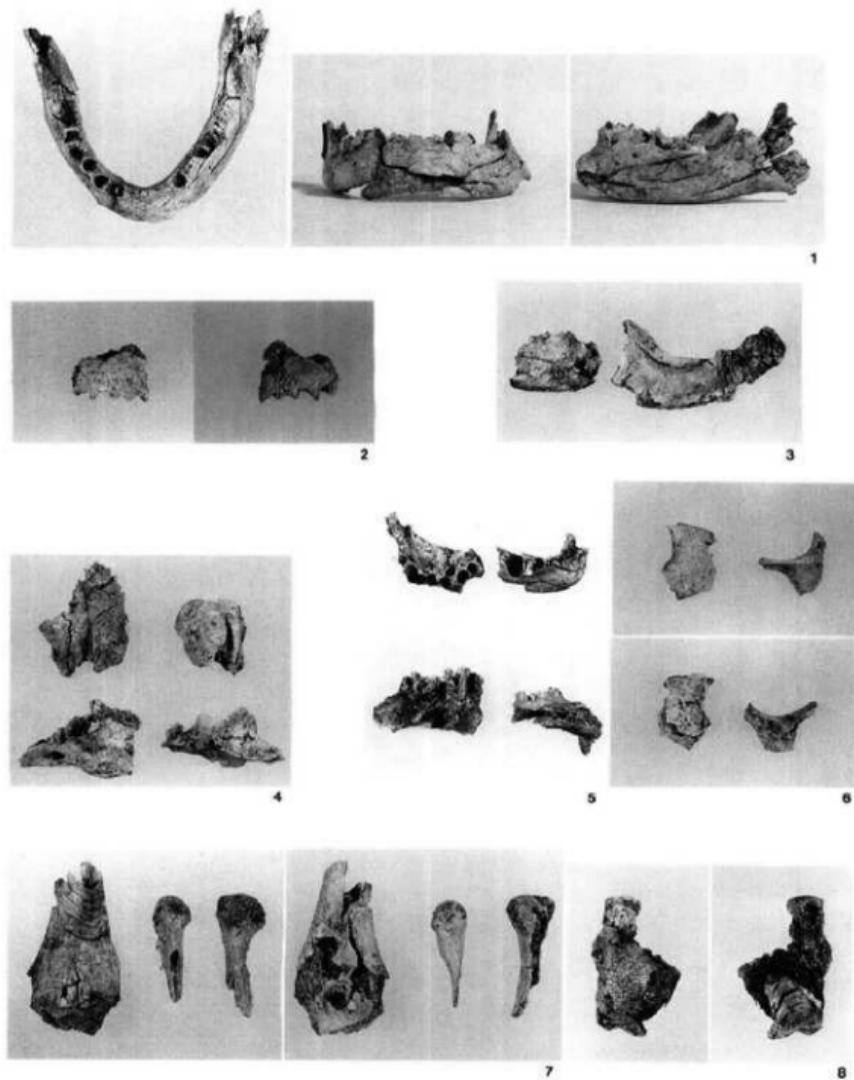
1：早期末の土器、3：前期 間山式併行の土器、2・4～6：前期 黒浜式併行の土器

図版11 日向林B遺跡の縄文土器



1~2：前期 黒浜式併行の土器、3~6：前期 諸磯a式併行の土器

図版12 日向林B遺跡出土の中世人骨



1:11号土壤出土下顎骨（上面・前面・側面）、2:8号土壤出土、右上顎骨、3:13号土壤出土下顎骨、4:13号土壤出土側頸骨、5:18号土壤出土上顎骨、下顎骨、6:18号土壤出土顎面頬蓋、7:22号土壤出土左上腕骨（釣糸窩）・指骨、8:22号土壤出土右距骨

（縮尺 1/2）

報告書抄録

ふりがな	かんのきいせき・ひなたばやしげーいせき(こじんじゅうたくちてん)はつくつちょうさほうこくしょ							
書名	貫ノ木遺跡・日向林B遺跡(個人住宅地点)発掘調査報告書							
副書名	旧石器時代、縄文時代早期・前期の遺跡							
巻次								
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第2集							
編著者名	中村由克・渡辺哲也・中村教子・春日和彦							
編集機関	信濃町教育委員会							
現在地	〒389-13 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL 0262-55-3111							
発行年月日	西暦1995年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯 ° ° °	東 綏 ° ° °	調査機関	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
貫ノ木	長野県上水内郡信濃町野尻	205834	47	36度 49分 10秒	138度 11分 45秒	19940817～ 19941004	300	個人住宅 建設
日向林B	上水内郡信濃町古瀬 諏訪原	205834	105	36度 47分 55秒	138度 14分 0秒	19940425～ 19940721	2200	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
貫ノ木	散布地	旧石器	礫群 9基 配石 1基	ナイフ形石器 彫器 石刃 台形状のナイフ形石器 局部磨製石斧 縄文土器	12 12 10 8 1	後期旧石器時代から縄文早期 までの複合遺跡。6文化層検出。		
日向林B	散布地 墓	縄文 中世	土壙 25基	縄文土器 早期・前期 石器 古瀬戸、珠洲焼、鐵貨、 五輪塔、人骨	縄文時代前期中壙を中心とする遺跡で、大量の土器出土。 室町時代の土壙墓を多数確認			

信濃町の埋蔵文化財 第2集

貫ノ木遺跡・日向林B遺跡(個人住宅地点)

発掘調査報告書

-旧石器時代、縄文時代早期・前期の遺跡-

編集・発行 信濃町教育委員会
長野県上水内郡信濃町柏原428-2

1995年3月20日

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

(この報告書についての連絡先)

野尻湖博物館

〒389-13 長野県上水内郡信濃町野尻287-5

T E L 0262 (58) 2090

F A X 0262 (58) 3551

KANNOKI SITE・HINATABAYASI-B SITE

Archaeological Reports of Shinano-machi, No. 2

1995

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-13 Japan.